

告初五郎ハ之ヲ不當ナリトシ上告シタルノ趣旨被告ハ被害者ヲ殺害シタル者ニ非ス若シ殺害シタルトセハ僅々八里内外近鄰ノ地ニ轉居スルノ理由ナシ而テ烟草入「スコキ」帶ノ模様等略被害者ノ所有品ニ類似スルノ點ヲ擧テ推測ヲ以テ有罪者ナリトノ認定ヲ與ヘラレタルハ治罪法第二百二十四條ニ抵觸スル論定ナレハ破毀ヲ求ムト謂フニ過キス
玆ニ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

上告趣旨書ニ論告スル所ヲ見ルニ推測ヲ以テ有罪者ノ認定ヲ下シタルハ治罪法第二百二十四條ニ抵觸スル云々蓋シ被告ハ物品ヲ強取セン爲メ被害者ヲ兇殺シタルノ所爲ナシ假令烟草入「スコキ」帶ノ模様等ハ類似スルモ到底犯罪ノ證據ハ不充分ナル者ナリ然ルニ之ヲ充分ナリトシ有罪視シタルハ不服ナリト謂フモノハ如シト雖モ原裁判所會議局ニ於テ豫審ノ裁判言渡ヲ取消シ治罪法第二百五十二條ニ從ヒ處分ヲ爲シタル者ニシテ語ヲ換テ言ハ此被告事件ハ公判ニ付スヘキ證據アリト云フニ過キサルナリ而テ此處分ハ毫モ同法第四百十條各項ニ該ルヘキ違法ノ態アルヲ見ス故ニ上告ハ其理由ナキ者ト爲ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス
第千三百二十七號

○判文「官吏侮辱ノ件」明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年九月廿五日申渡
埼玉縣武藏國兒玉郡關村第

六十二番地平民農

酒 井 龜 衛

明治十五年十月
四十四年三月

右龜衛カ被告事件ニ付明治十五年十月十四日熊谷輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年十月十九日戸長役場ニ至リ戸長中澤喜雄ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ言語ヲ以テ侮辱シタル者トシ刑法第四百十一條ニ照シ重禁錮一月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スル旨言渡シタル裁判ニ對シ被告龜衛カ上告ヲ爲シタル要旨ハ原裁判ハ探證法ヲ違ヘ無罪ヲ有罪ト誤認シタル者ナレハ不當ナリト云フニ在リ又追申書ノ主旨ハ豫審終結ノ言渡ニ對シテハ一日ノ故障期限ヲ與フ可キ筈ナルニ言渡ノ當日ヲ以テ公判呼出狀ヲ發セラレシハ即チ治罪法第二百四十七條ニ背反シタル不當ノ處分ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補島田正勝ハ原裁判相當ナリトノ旨趣ヲ答辯セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ
本按上告ノ趣旨ハ治罪上承審官ノ職權ニ特任シタル探證及ヒ事實ノ判定上ニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲シ得可カラサルハ勿論其追申書ノ主旨ト雖モ原裁判ヲ破毀スルノ辭柄トハナシ難シ何トナレハ治罪法第二百四十七條ニ故障ノ期限ハ一日ナリトストアルモ其期限内ニ公判召喚狀ヲ發スルヲ得ストノ法文アルニ非ス又其召喚狀ヲ閱スルニ成規ノ如ク中二日ノ猶豫ヲ與ヘアリテ別段故障期限ヲ伸縮セシメタルニ非ス若シ被告ニ於テ之ヲ失當ナリト思料セハ公判ノ辯論ニ先キ立テ異議ノ申立ヲ爲スハ當然ナルニ其申立モノヲ辯論結了ニ至リシハ公判始末書ニ徵シテ明カナレハ之ヲ以テ

上告ノ理由ト爲スチ得サレハナリ故ニ上告ノ旨趣ハ一モ相立サルモノトス
右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第千三百二十八號

○判文〔官印偽造取財ノ件〕明治十五年十二月廿三日上告
同 十六年九月廿五日申渡

福島縣磐城國東白河郡山上

村平民農業

石井

明治十五年十一月

借用金証書及ヒ戸長ノ奥書并ニ戸長役場ノ印章ヲ偽造シテ之ヲ使用シ金圓詐取セシ被告事
件ニ付明治十五年十一月六日福島始審裁判所ニ開キタル福島重罪裁判所ニ於テ刑法第二百
十條第二百十二條第二百四條第九十五條第三百九十條第三百九十四條第百條ニ照シ一ノ
重キ第九十五條ニ依リ重懲役九年ニ處シ偽造ニ係ル証書ハ沒收シ裁判費用ヲ負擔セシム
ト言渡シタル裁判ニ服セス上告セシ要領ハ被告ニ於テ村役場印ヲ製造セシモ寸法字面共正
印ト異ナルノミナラス餅ニテ製シ小兒ノ玩物同様ノモノナレハ官印ヲ偽造セシモノニ非ス
又告訴ノ金員ハ差引方ニ相違之アンニ告訴人ニ對シ何等ノ訊問ナク又告訴人ヨリ金員受領
セシト雖モ預ケ金ノ内ヲ以テ返濟セシニヨリ詐取シタルニ非ス又水野傳吉宛証書ハ偽證ト
引換ヘキモノナレハ告訴人ヘ下付スヘキモノニ非ス又偽造私印九顆ノ内二顆ハ被告カ買求

メタルモ外七顆ハ告訴人ノ宅ニ有合タルモノナルヲ以テ被告ハ犯罪ノ廉之ナキモノナルニ
之ヲ有罪ト認定セシハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事田中玄文ハ上告ノ趣意ニ對シ逐一其不理ナルヲ辯駁シ原裁判ハ被告ノ自白及各
種ノ証憑ニ依リ判決セシモノナレハ決シテ不法ニアラサルヲ以テ本訴上告ハ棄却アルヘキ
モノト思料スル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事薄井龍之ノ報告ニ依リ立會檢事林三介ノ意見上告代言人國枝毅ノ陳
述ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ趣意タル之ヲ數項ニ分テ論辯數百言ノ多キニ至ルト雖モ要スルニ被告ハ官印
ヲ偽造シテ金員ヲ詐取シタルモノニ非ス然ルコ之ヲ犯罪アルモノト認定セシハ不當ナリ
ト云フニ過キス歸スル處裁判官カ判定セシ事實ノ當否ヲ非難シ之カ破毀ヲ求ムルモノニ
シテ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ノ項目ニ適當スルモノニ非サレハ到底上告ノ理由
ナキモノト判定ス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ基ツキ上告ヲ棄却スルモノナリ
大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第千三百二十九號

○判文〔無届不參ノ件〕明治十五年十二月廿二日上告
同 十六年九月廿五日申渡

京都府上京區第二十二組袋

町平民

明治十五年六月十九日東京治安裁判所ニ於テ右宗雄ハ詞訟事件ニ付同日出頭スヘキ筈ノ處無届不參シタル者トシ明治十年第五號布告ニ照シ罰金貳圓申付ル但此申渡書ニ對シテハ三日内ニ上告スルヲ得又正當ノ事故アリテ無届不參セシナラハ其証左ヲ以テ三日内ニ此申渡取消ヲ求ムルヲ得ル旨言渡シタル處右宗雄ハ上告ヲ爲シタリ其主要ハ明治十五年六月十二日原裁判所ヨリ被告ヘ送達セラレタル命令狀ノ文言ハ原告人ノ訴狀ニ對シ答辯書ヲ差出スヘシ若シ差出サ、ルニ於テハ直チニ本案ノ裁判ニ及フトノ趣旨ニ過キスシテ必ス出頭セムト命セラレタル者ニアラス加之被告カ出頭セカリシ理由ハ病氣ノ上相當代理人モ無之即チ不得已不參シタルモノナレハ到底該布告ノ支配ヲ受クヘキ謂レナシ然ルニ原裁判所ニ於テハ是等一應ノ取調モナリ突然罰金ヲ科セラレタルノミナラス上告人ハ士族ナルニ右言渡書ニ平民ト記載サレタルハ旁不法ナリト云ニ在リ檢事補川畑克ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ヲシトノ旨趣ヲ答辯セリ玆ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ其命令狀ナル者ハ呼出狀ト題書シアリテ被告ノ出頭ヲ命シタル者ナルヤ一目瞭然タル而已ナラス本文ノ意味ハ訴狀ヲ携ヘ自身出廷スルカ或ハ相當代理人ヲ差出セヨト命シタルモノニシテ其但書ニ記スル處ハ本文出頭ヲ要スルヲ示シタルモノナリ又正當ノ事故アリテ出頭セザリシ場合ヲ豫定シ被告人ノ不利益ナルヲ示シタルモノナリ又正當ノ事故アリテ出頭セザリシ者ナレハ原裁判言渡書ノ但書ニ示シタル手續ヲ以テ其事由ヲ申立ヘキニ之ヲ爲サス即チ其理由ヲ証明シ能ハサルモノナレハ原裁判ハ至當ナリトス將士族ナルヲ平民ト書セシハ一

時ノ誤記ト認ムルヲ以テ破毀ノ原由トナスニ足ラス到底上告ノ旨趣ハ治罪法第四百十條各項以外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス仍テ同法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第千三百三十號

○判文〔新聞條例違反ノ件〕明治十五年十二月十一日上告
同 十六年九月廿五日申渡

大分縣豊前國下毛郡山ノ下

町士族當時田舎新報仮編輯

長

石 松

明治十五年六月

二十二年四月

右彦一カ新聞條例違反ノ被告事件ニ付明治十五年六月二十六日中津輕罪裁判所ニ於テ被告カ明治十五年六月七日發兌ノ田舎新報第五十四號雜報欄内第十項ニ記載シタル文章ハ告發又ハ出張等ノ文詞アリト雖モ全体ニ就テ之ヲ視ルト其告發トハ果シテ豫審判事ニ告發セラレ又出張トハ必ス豫審手續ヲ以テ出張セシモノト解釋ス可カラサルニ依リ告發或ハ出張ノ文詞アルノミヲ以テ豫審ノ取調中タルヲ知テ其事件ヲ掲載シタル者ト推定スルヲ得サルニ因リ犯罪ノ證憑充分ナラサル者トシ對質ノ上無罪ノ言渡ヲ爲シタル處原裁判所檢事補會根俊吉ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ新聞紙條例第十五條ヲ犯シタル証憑ハ該新報中ニ

掲載セシ文章ニ因テ明ラカナリトス如斯性質ノ犯罪ハ他ニ證據ヲ得ル能ハサル無論ナレハ單ニ其掲載セル紙上ノ文意ニ因テ罪ヲ斷ス可キモノナリ然ルニ原裁判官ハ此明瞭ナル證據アルニモ拘ハラヌ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在リ被告答辨ノ要旨ハ原裁判相當ナリト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

治罪法第四百六條第二項ノ明文ニ依ルニ探證及ヒ事實ノ判定ハ總テ承審官ニ特任ス可キ規則ナレハ是等ノ判定ニ對シテハ妄ニ他ノ非難ヲ許サル者トス今本件ノ原判文ヲ見ルニ裁判官ニ於テ右雜報ノ文章中告發或ハ出張ノ文詞アルノミヲ以テ豫審取調中タルヲ知テ其事件ヲ掲載シタル者ト推定スルヲ得サル者ト認メタル者ナレハ之ヲ不當トシテ破毀スルヲ得サルモノトス因テ同法第四百二十七條ニ遵ヒ該上告ヲ棄却スルモノ也
大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第一千三百三十一號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十二月七日上告
同 十六年九月廿五日申渡

秋田縣羽後國北秋田郡鷹巢
村平民農

成 田 要 吉

明治十五年八月
二十四歲

明治十五年八月八日秋田輕罪裁判所ニ於テ右要吉カ証書偽造及ヒ詐欺取財ノ被告事件ヲ審

判シ詐欺取財ノ一罪ヲ以テ重ト爲シ新舊ノ法ヲ比照シ其輕キ舊法ニ從ヒ賊盜律詐欺取財條及ヒ名例律犯罪自首條ニ依リ其罪ヲ全免シ而シテ偽証ニ用ヒタル印并ニ詐爲ノ証書ハ沒收セリ同裁判所檢事補上倉繁藏ハ右ノ處斷ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本按事件タル事已ニ發覺シ明治十二年八月十九日秋田縣大館警察署鷹巢分署ニ於テ取調ヲ受ケ口供甘結ノ末被告成田要吉ハ逃走シ明治十五年三月二十二日能代警察署ニ自首シタル者ナリ因テ聞捕自首ナルヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス可キニ未發自首ト同シ論シ全免シタルハ不當ナリト云フニ在リ

茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ之ヲ審按スルニ被告成田要吉ハ明治十五年三月ニ及ヒ自首セリト雖モ該被告事件ノ曩ニ已ニ發覺シ現ニ其取調ヲ受ケタルヲハ訴訟書類中鷹巢分署ニ於テ作リタル明治十二年八月十九日附被告成田要吉假口供及ヒ明治十二年十月六日共犯人伊藤佐助ヲ處斷シタル申渡書等ニ據テ其顯迹掩フ可カラサル者ナリ依テ之ヲ舊法ニ照セハ聞捕自首ヲ以テ論シ改定律例第五十九條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ處分スヘキ者トス故ニ原裁判言渡書ニ〔其方ハ明治十二年八月中兼テ見上慶助ヨリ菅原竹治ハ宛タル米借用證書ヲ以テ竹治ヨリ督促方委託ヲ受ケ右証書ヲ預リ置キタル中同人ノ死去セルヲ僥倖トシ伊藤佐助ト通謀ノ上菅原竹治存命中右証書ヲ伊藤佐助へ讓渡シタル姿ニ証書ヲ偽造シ尙又見上慶助ヲ欺瞞シ云々〕右借用證書ヲ新規証文ニテ更ニ慶助ヨリ佐吉へ宛タル金預リ證書ヲ作爲シ佐吉へ相渡シ以テ金員ヲ騙取セントシタル事實共犯人伊藤佐吉被害者見上慶助ノ供述並ニ自供ニ依リ明白ナルヲ以テ云々ト其事實及ヒ證據ヲ明示シ而シテ右ニ罪ノ内詐欺取財ノ一罪

ヲ以テ重ト爲シ新舊ノ法ヲ比照シ竊盜未得財ニ準シ本刑懲役四十日ニ擬シタルハ不當ニ非
スト雖其未發自首ト爲シ全免ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ治罪法第
四百二十八條及ヒ第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ裁判言渡ヲ爲
ス左ノ如シ

成 田 要 吉

原裁判言渡書ニ記載シタル事實及ヒ證據ニ依リ被告要吉ニ於テ權利義務ニ關スル証書ヲ
偽造シテ行使シ因テ見上慶助ヲ欺罔シ金圓ヲ騙取セントシタル犯罪明確ナリトス而シテ
所犯新法施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ニ從ヒ之ヲ舊法ニ照セハ第一證書偽造行使ノ
罪ハ改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日第二詐欺取財未遂犯ノ罪
ハ賊盜律詐欺取財條及竊盜條ニ依リ懲役四十日聞捕自首ヲ以テ論シ改定律例第五十九條
ニ依リ各一等ヲ減シ仍ホ二罪俱發條ニ依リ一ノ重キ第二ノ罪ニ從ヒ處斷シ且ツ犯罪ノ用
ニ供シタル印類及ヒ偽造証書ハ給沒贓物條犯禁物ノ項ニ擬シ官ニ沒入スヘキ者又新法ニ
照セハ第一ハ刑法第二百十條第一項及ヒ第二百十二條ニ依リ四月以上四年以下ノ重禁錮
四圓以上四十圓以下ノ罰金六月以上二年以下ノ監視ニ該リ第二ハ刑法第三百九十條第三
百九十七條第百十二條第七條及ヒ第三百九十四條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮四
圓以上四十圓以下ノ罰金ヨリ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮三圓以上三十
圓以下ノ罰金及ヒ六月以上二年以下ノ監視ニ該ルヲ以テ仍ホ第百條ニ依リ其所犯情狀最
重キ第二ノ罪ニ從ヒ處斷シ且ツ第四十三條第二項ニ照シ其印類及ヒ偽造証書ヲ沒收スヘ

キ者トス因テ明治十四年第八十一號布告ニ照シ舊法ノ輕ニ從ヒ被告成田要吉ヲ懲役三十
日ニ處シ偽證ノ用ニ供シタル印類及ヒ偽造証書ハ沒收スル者也
大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第一千三百三十一號

○判文(印影盜用ノ件) 明治十五年十二月五日上告
同 十六年九月廿五日申渡

福井縣越前國敦賀郡川崎町

平民豆腐商長助妻

角 野

明治十五年七月
四十九年九月

印影盜用被告事件ニ付明治十五年七月五日敦賀治安裁判所ニ於テ福井縣輕罪裁判所カ刑法第
三條ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ且數罪俱發例ニ依リ一ツニ從ヒ同第二百八條第二項及ヒ同第二
百十二條ヲ適用シ十月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ一年ノ監視ニ附スト言渡シ
タル裁判ニ對シ檢察官警部補石野成章ハ上告セリ其要領ハ被告「キム」カ明治十五年三月三
十日大久保利右衛門ヨリ米五俵ヲ買求メ其代價借用金トシ偽造ノ證書ヲ差入タルヲ共ニ餘
罪ト自首ニ係ルモノナルニ原裁判所ハ自首ニ對スル刑法第八十五條ヲ適用セス且刑法第二
百八條第二項ヲ適用シタルモ同第二百十條證書偽造ノ罪ヲ不問ニ措キタルハ不當ノ裁判ナ
リト云フニアリ

對手八角野「キム」ニ於テモ檢察官上告趣旨ノ如ク自首減等ヲ與ヘラレサルハ不當ナリト存

スル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
 原裁判言渡ニ「明治十五年三月三十日大久保利右衛門ヨリ米五俵ヲ買求メ其代價ヲ借用金
 トナシ証書差入ル、節長助ト被告ト連借ノ名義ニ詐爲シ長助ノ名下ニハ同人ノ實ノ印影ヲ
 盗用シ被告カ名下ニハ實弟ナル石倉音吉ノ實ノ印影ヲ盗用シ加之現品ナキ財産ヲ空ニ抵當
 ニ書入レタル偽造ノ証書ヲ差入レタル等ノ罪ハ云々ト」其事實ヲ認メ新法實施後ニ係ルチ
 以テ刑法第二百八條第二項ヲ適用セシハ允當ナリト雖モ私書偽造ニ對スル律ヲ擬セス且ツ
 事實ノ理由中特ニ自首ニ係ラサルヤ否ヤノヲ掲ケサレモ訴訟書類中外事件ト併セ自首セ
 シハ見ルニ足ルモ果シテ自首ノ効力ヲ有セサルトノ理由ヲ掲ケサレハ共ニ自首ニ係ルモノ
 ト看做サ、ルヲ得サルモノナリ然ルニ刑法第八十五條ヲ適用セサルハ即チ擬律ノ錯誤ニテ
 治罪法第四百十條第十項ニ該ル上告ノ原因アルモノト判定ス
 右ノ理由ニ基キ治罪法第四百三十一條ニ依リ單ニ新法ニ依リ斷了セシ部分ヲ破毀シ直チニ
 裁判スル左ノ如シ

角野キク

前ニ説明スル理由ナルヲ以テ刑法第二百八條他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月
 以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ノ印影ヲ盗用
 シタル者ハ一等ヲ減ストアルニ依リ一等ヲ減シ四月十五日以上三年九月以下ノ重禁錮三
 圓七十五錢以上三十七圓五十錢以下ノ罰金トナル同第二百十條賣買貸借贈遺交換其他權

利義務ニ關スル云々行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰
 金ヲ附加ストアルニ該ル而シテ同第百條ニ照シ一ツノ重キ刑法第二百八條第二項ノ罪ニ
 從フ未發前ノ自首ニ係ルヲ以テ同第八十五條ニ照シ本刑ニ又一等ヲ減シ三月以上二年六
 月以下ノ重禁錮二圓五十錢以上二十五圓以下ノ罰金ニ相當ス仍ホ上告ニ係ラサル新舊法
 ノ比照ニ因リ單ニ舊法懲役百日ニ該ル罪ト刑法第百條ニ依リ一ツノ重キ單ニ新法ニ問擬
 スヘキ罪ニ從フ

因テ被告角野「キク」ヲ八月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加シ一年ノ監視ニ付スル者也
 但裁判費用ハ刑法第四十五條ニ依リ其全部ヲ科ス

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第千三百三十三號

○判文〔官吏侮辱ノ件〕明治十五年七月一日上告
 同 十六年九月廿五日申渡

岡山縣岡山區西中山下岡山

日々新聞編輯長

下山 田正道

明治十五年四月
二十年四月

右正道カ被告事件ニ付明治十五年四月十一日岡山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年三月
 二十九日刊行第七十八號岡山毎日新聞雜報欄内へ官費ノ脱走ト云フ題ヲ掲ケ暗ニ伊藤參議
 カ洋行ノ職務ニ對シ侮辱シ又明治十五年四月一日岡山日々新聞第四號雜報欄内へ猛獸ノ話

ト題シ種々奇怪ノ文ヲ掲ケ隠然 天皇陛下ニ對シ不敬ノ所爲及ヒ政府ヲ變壞セントスルノ論ヲ載セ公布シタルハ刑法第四百一十一條第二項同第一百七條及ヒ新聞紙條例第十三條ノ罪ヲ併セ犯シタル者ト認定シ之ヲ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ第百十七條ニ依リ重禁錮一年ノ刑ニ處シ仍ホ罰金貳百圓ヲ附加ス但第百十二條ニ依リ十月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告正道ハ之ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲スノ要領ハ官費ノ脱走云々是全ク伊藤參議ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノニアラス今回伊藤參議洋行ノ如キハ諸新聞カ報道スル處一ナラズ果シテ其職務ニ就テノ洋行カ然ラサルカモ判知シ難ク且之ヲ登錄スルノ際ニ於テ伊藤參議カ洋行ノ事ヲ惡口シタルモノト信セス唯津山多禮太郎ノ投書ヲ採録セシノミナレハ一概ニ其職務ニ對シ侮辱セシモノト云フヘカラス又猛獸ノ話ト題スル篇ハ淺口郡木訥生ノ投寄ニ係ル者ニシテ斯ノ如キ奇戲ノ話ハ從來刻本ニ異獸物語又ハ怪獸奇談ナト稱シ往々有之該寄書モ畢竟是等ノ話ヲ撰記セシモノト信シタルモノナリ固ヨリ其文面上 天皇陛下ヲ指名シ奉リタルニモアラズ何ヲ以テ不敬ノ所爲アリトセン仮リニ之レニ認定セラル、モ前陳ノ如ク之ヲ登錄スルノ時其情ヲ知ラサルニ於テハ刑法第七十七條ニ依リ不敬罪タルヘキモノナリ又獸政府ニ抗敵セントス云々ノ文面アルヲ以テ政府ヲ變壞セントスルノ論ヲナスモノト判定セラレタレトモ抑モ抗敵ノ二字ハ未ダ變壞ノ意ヲ含蓄セルモノト云フヘカラス且論文ニアラス記文ナリト云ヒ尙ホ上告追申書ヲ以テ前陳ノ旨趣ヲ反覆擴張セリ

對手人檢事友野信平ハ右上告ノ趣意ニ對シ遂一之ヲ辯駁シ被告犯罪ノ事實ハ明確ニシテ原裁判ハ毫モ破毀ヲ求ムヘキ原由ナシト答辯セリ

大審院檢事池上三郎ニ於テハ上告ノ趣旨ハ畢竟原裁判事實ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キヌ又上告追申書中論スル處モ悉ク事實ニ止リ到底上告ノ原由ナキモノト陳述シ且原裁判ハ他ニ一ノ失點アルモノトシ附帶上告ヲ爲セリ其要旨ハ原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告ハ刑法第四百一十一條第二項同第一百七條及ヒ新聞紙條例第十三條ニ該ル可キ數罪ヲ犯シタルモノト判定セシ以上ハ刑法第百條ニ照シ仍ホ明治十四年第七十二號公布ニ依リ刑法第百十七條ノ刑ニ新聞紙條例第十三條ノ刑ヲ併科スヘキモノナルニ單ニ刑法第百十七條ノニ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ適法ノ判決アラント望ムト云フニアリ

仍テ之ヲ審按スルニ被告上告ノ趣意及ヒ追申書中喋々論スル處凡テ事實ニ涉リ畢竟事實裁判官カ法律ニヨリ特任スル處ノ職權ヲ以テ爲シタル事實判定上ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱ヘ以テ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項ノ定規ニ適合セサル上告ニシテ到底該趣旨ハ總テ相立サルモノトス然リ而シテ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク原裁判所ハ被告カ所爲ハ刑法第四百一十一條第二項同第一百七條及ヒ新聞紙條例第十三條ニ該ル可キ罪ヲ併セ犯シタルモノト判定セシ以上ハ刑法第百條及ヒ同第三項ニ照シ同第四百一十一條第二項同第一百七條ニ該ルヘキ罪ヲ比較シ一ノ重キ第百十七條ニ從ヒ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ同第二百十條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス可キニ該當シ仍ホ明治十四年第七十二號公布第五條法律規則ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒストアルニ據レハ新聞紙條例第十三條犯罪ノ如キハ刑法第百條ノ管理スヘキモノニ非ス之ヲ併科スヘキモノナリ然ルニ原裁判官カ刑法第百十七條第百

四十一條第二項ニ該ル罪ヲ同法第百條ニ法リ一ノ重キ第百十七條ニ依リタルハ相當ナルモ新聞紙條例第十三條ニ該ル罪ヲ併科セザリシハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ基キ此一部ヲ破毀シ本院ニ於テ判決スル左ノ如シ

下山田正道

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ所爲ハ明治十五年三月四月中ニアルヲ以テ舊新聞紙條例第十三條ト改正同條例第三十七條ヲ比照シ輕キ舊新聞紙條例第十三條ニ從ヒ輕禁錮三年ニ處スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第一千三百三十四號

○判文(毆打創傷ノ件)明治十五年十二月廿七日上告
同 十六年九月廿六日申渡

長野縣信濃國東筑摩郡南深

志町居住平民太物商

丸山善十

明治十五年十一月

三十六歲二ヶ月

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十一月六日松本輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ハ二木重吉カ曾テ預ケ置タル荷物ノ引渡ヲ肯セサルヨリ互ニ口論ノ末重吉ニ於テハ他ニ關係ナキヲ以テ速ニ受取ル可キ旨ヲ陳ヘ該荷物ニ手ヲ掛ケタルヨリ同人ヲ突倒シ下唇ニ咬付キ負傷セシメタル者ト判定シ刑法第三百一條第二項ニ照シ重禁錮一月ニ處斷セリ

被告丸山善十ハ該裁判ヲ不法トシ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ二木重吉ヨリ預リタル生皮等外五個ノ荷物ハ他ニ金圓ノ取引アリテ預リタル物ナリ設ヒ重吉陳言ノ如ク該荷物ハ金圓貸借ニ關係ナキ者トスルモ已ニ預クヘキ理由アリテ預リタル者ナレハ彼レ自己ノ物品ト雖トモ擅ニ之レヲ持去ルヲ得サルハ言ヲ俟ス然ルヲ強テ持去ントスルハ即チ彼カ暴行ニ出タル者ナリ故ニ被告人ハ自己ノ財産ト一般正當ニ防衛ヲ爲シタル者ナレハ其傷ヲ負セタリトスルモ刑法第三百十五條第一項ニ依リ裁判スヘキ者ナリ假リニ一步ヲ退キ已ムコトヲ得サルニアラスシテ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者トスルモ刑法第三百十六條ニ從ヒ處斷セサル可ラス然ルニ原裁判所カ刑法第三百一條第二項ヲ適用シタルハ不法ナルニ付破毀ヲ求ムト謂フニ在リ對手ハ檢事補倉橋政直カ答辯ノ要旨ハ二木重吉ヨリ被告丸山善十ニ預ケタル荷物ハ金圓取引ニ關係ナキヲ各證憑アルノミナラス其借用証書及ヒ物品預リ證ナキヲ以テ之ヲ證明スルニ足ルヲ以テ上告ノ原由ナキ旨開陳セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ檢事林三介ノ意見ヲ聽シニ原裁判言渡ヲ案スルニ被告八カ疾病休業ノ日數ハ擬律ノ當否ヲ監査スルニ必須缺ク可ラサル事ナルニ之ヲ示サ、リシハ所謂事實ノ理由ヲ明示セサルモノト思考シ被告人カ上告趣意ノ充分ナラサルヲ以テ其志望ヲ全セント欲シ茲ニ附帶ノ上告ヲ爲スト陳辯セリ仍テ裁判スルヲ左ノ如シ
本案被告事件ハ二木重吉ヨリ預リ荷物ノ事ヨリ互ニ口論ヲ生シ竟ニ重吉ハ被告人ノ土藏中ニ在ル該荷物ヲ持出サント手ヲ掛ケタルヨリ互ニ力争シ重吉ニ負傷セシメタル事實ハ原裁判言渡書及ヒ訴訟書類ニ就テ明瞭ナリ而シテ該荷物ノ金圓貸借ニ關係アリヤ否ヤハ

本按上告ノ論點トスルニ足ラスト雖原言渡書中二本重吉ト口論ノ末該荷物ニ手ヲ掛ケタルヨリ其方ハ之ヲ強情ナリトシテ同人チ突倒シ下唇ニ咬付キ負傷セシメタルトノ旨ヲ揭ケタリ然レハ則チ正當ニ財産ヲ防止シタル理由アル者ノ如クナレハ是等ハ仍ホ審理ヲ盡シタル上ニアラサレハ判定スルニ由ナキ者トス然レハ被害人ノ疾病休業ニ係ル時間ヲ證明セシテ直ニ刑法第三百一條第二項ヲ適用シタルハ事實ノ理由ヲ明示セサル不法ノ裁判ニシテ即チ治罪法第四百十條第九項ニ定メタル上告ノ原由アル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ甲府輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第千三百三十五號

○判文(竊盜ノ件)明治十五年十二月廿六日上告
十六年九月廿六日申渡

山口縣周防國都濃郡久米村
居住農

下 村

豐 吉

明治十五年十一月
二十一年十月

古豊吉カ被告事件ニ付明治十五年十一月二日山口輕罪裁判所ニ於テ被告ハ柳丈五郎方軒下ニアル鍋壹個及ヒ岩見治介方戸締ヲ外シ忍入衣類物品若干ヲ竊取セシモノト判定シ刑法第三百六十六條第三百六十八條第三百七十六條ニ依據シ仍ホ同第百條第末項ニ照シ一ノ重キ

同第三百六十八條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ監視八月ニ附スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事補玉置琢ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ被告カ所爲ニ對シ刑法第三百六十六條第三百六十八條等ヲ適用シタルハ相當ナルモ即チ其第三百六十八條ノ範圍ヲ脱出シ重禁錮三月ニ處斷シタルハ不法ト思料スルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審案スルニ刑法第三百六十八條ニ曰ク門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若シハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シトアリテ其前條即チ同法第三百六十七條ニ水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ストアリ本案被告カ犯罪ノ事實ニ對シ刑法第三百六十六條第三百六十八條ニ問擬シ同第百條ニ照シ一ノ重キ第三百六十八條ニ依リタルハ相當ナリト雖ヒ其第三百六十七條ニ明記セル範圍ヲ脱シ三月ノ重禁錮トセシハ檢察官上告ノ如ク擬律ニ錯誤アル不當ノ裁判ナリトス因テ原裁判ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

下 村

豐 吉

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ認定スル所ニ依リ刑法第三百六十六條第三百六十八條第三百六十七條ニ依照シ仍ホ同第百條ニ從ヒ一ノ重キ同第三百六十七條及ヒ同第三百七十六條ニ依リ重禁錮六月ニ處シ監視八月ニ付スルモノ也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第千三百三十六號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月廿五日上告
十六年九月廿六日申渡

福岡縣筑前國福岡區博多蓮

池町平民

安 川 又 吉

明治十五年十一月
二十九年一月

右又吉カ被告事件ニ付明治十五年十一月七日福岡輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年九月十一日福岡縣那珂郡堅粕村家ニ入り竊取セシ蚊帳一張外二品ハ所有者田原茂七ニ於テ明治十四年間他ヘ轉宅ノ節不用トシテ該家ニ棄置キタルモノニシテ所有權ヲ拋棄セシ者ト認定シ之ヲ竊取スルモ人ノ所有物ニアラサルヲ以テ無罪放免スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢事補井上計之助ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ所爲タル他人ノ家宅ニ侵入シ物品ヲ竊取セシモノニテ既ニ其犯罪ハ成立タルモノナリ凡罪ヲ斷スルニハ必ス其犯者ノ決意ト所爲トニ在リテ強チ被害者カ物件所有ヲ拋棄ナシタリ迎其所爲ニ於テ罪トナラサルノ理アルヘカラス被告カ所爲ニ對シテハ刑法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用スヘキモノナリト云フニ在リ對手人被告ハ答辯セス玆ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ案スルニ被告カ所爲ハ上告論旨ノ如ク他人家宅ニ侵入物品ヲ竊取セシモノナレハ被害者ニ於テ物件ノ所有ヲ拋棄スト否トニ關セヌ竊盜罪ハ既ニ成立タルモノナリ之ヲ法律ニ照スニ刑法第三百六十六條及ヒ第三百七十六條ヲ適用スヘキモノナルニ原裁判玆ニ出テサルハ擬律ノ錯誤アル裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ大審院

ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

安 川 又 吉

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ竊盜ノ所爲ハ刑法第三百六十六條及ヒ第三百七十六條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ附スルモノナリ

但差押アル掛物一外一品ハ沒收ス

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第一千三百二十七號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月廿五日上告
十六年九月廿六日申渡

神川縣武藏國南多摩郡下小

山田村平民農業

若 林 佐 傳 次

明治十五年九月
四十二年

竊盜被告事件ニ付明治十五年九月九日八王子治安裁判所ニ於テ橫濱輕罪裁判所カ刑法第三百六十八條同第三百六十七條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ監視六月ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部瀧本了最ハ上告セリ其要領ハ原裁判所ハ刑法第八十六條ヲ適用シ自首シテ贓半數以上還償シタルモノナリトスルモ其還償ニ係リタル金員タルヤ一旦被告佐傳治カ戶長役場ヘ税金トシテ相納メタルモノニテ則チ所有權ヲ移シタルモノナレハ費消ト看做スヘキモノナルニ之ヲ戶長役場ヨリ徵收シ半數以上ノ還償ナリトシ減輕ノ處

分ニ及ヒタルハ擬律錯誤及ヒ越權ノ裁判ナリト云フニアリ
 對手人若林佐傳治ハ上告趣旨ニ對シ更ニ異存ナキ旨答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
 刑法第八十六條財產ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ
 ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減シ其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ
 一等ヲ減ストアリテ自己ノ意ヨリ出テ返還賠償セシモノヲ指シタルモノニテ官ヨリ其盜ミ
 ダル物ヲ返還セシメ若クハ賠償ノ爲メニ財產ヲ取り揚ケタル場合ニ適當スヘキ律意ニアラ
 サルナリ本案佐傳治カ自首シテ其贓物ヲ返還セシト云フ其金員ハ既ニ盜品ヲ賣却シ内二圓
 四十九錢八厘ヲ税金トシテ戸長役場ヘ納附シタルモノニテ直ニ以テ之ヲ追徴シ得ヘカラサ
 ルハ論ヲ俟タヌ加フルコ之ヲ返還セシモノトシ被告佐傳治カ携出シテ自首シタル壹圓六十
 錢ニ合セ全贓估計金高五圓九十九錢ノ半數以上ナリトシ刑法第八十六條ニ依リ本刑ニ一等
 ヲ減シ處分シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルニ因リ治罪法第四百十條第十項ニ該ル上告ノ原因
 アルモノト判定ス
 右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ノ全部及ヒ附帶私訴ノ裁判共破毀シ直
 ニ裁判スル左ノ如シ

若 林 佐 傳 次

原裁判言渡ニ確認シタル事實ノ理由及ヒ證據トニ依リ摸樣アル竊盜罪ヲ犯シ未發前自首
 シタルヲ明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ

刑法第三百六十八條門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若シクハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯
 シタル者ハ前條ニ同シ〔前條〕六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ
 記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該
 ル

而シテ未發前自首スルニ付刑法第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ四月十五日以上三年
 九月以下ノ重禁錮ニ相當ス

右ノ條目ニ依リ被告若林佐傳治ヲ重禁錮四月十五日ニ處シ監視六月ヲ附加シ現在スル贓
 金壹圓六十錢ハ被害者大谷直之ニ還付スル者也

大谷直之カ請求スル贓物代金五圓九拾九錢ノ内現在スル壹圓六十錢ヲ除キ四圓三十九錢
 ハ之ヲ賠償スヘシ

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
 第一千三百三十八號

○判文〔詐欺取財〕明治十五年十二月十六日上告
 同 十六年九月廿六日發付

神奈川縣橫濱區扇町二丁目

平民

松 井 佐 兵 衛

明治十五年九月
四十二歲

明治十五年九月十八日橫濱輕罪裁判所ニ於テ右佐兵衛ニ對スル詐欺取財ノ被告事件ヲ審理

詐欺ノ所爲ニ非ラサル者ト爲シ無罪且放免ノ言渡ヲ爲シタリ
同裁判所檢事補山井秀規ハ有裁判ヲ不當ナリトシ上告セリ其要旨ハ証人佐久間儀三郎ノ陳述及ヒ民事原告代人橋原要三郎等連署ニテ差出シタル告訴願下ノ書面ニ照シ被告佐兵衛カ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタル証據充分ナルニ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ニ在リ

對手人松井佐兵衛ハ原裁判至當ニシテ上告ノ理由ナシトノ答辯書ヲ差出シ尙代言人武藤直中ヲ出廷セシメ答辯ノ旨趣ヲ申明セリ
依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

凡ソ諸般ノ証憑ヲ檢審シ其充分ナルト否トヲ判定スルハ元ト裁判官ニ任從スル所ナルニ因リ徒ニ證據充分ナリ云々ノ論旨ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サル者トス且原裁判言渡ノ理由ヲ監査スルニ「民事原告人申立ノ如ク直チニ健藏ヨリ買受タルト被告答辯ノ如ク儀三郎ヨリ貸金ノ代リニ引取りタルトニ論ナク詐欺ノ所爲ニアラサルヲ以テ」云々トアリテ未ダ其實事ヲ一定シタル者ニアラスト雖モ抑被告事件ノ起本タル被害者カ陳告ニシテ既ニ右ノ如クナル以上ハ其詐欺ノ所爲ニ係ラサルコト言テ俟タサル者ナレハ之ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ノ處分ナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也
大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス
第一千三百二十九號

○判文(賭場開張ノ件) 明治十五年十二月十四日上告
十六年九月廿六日申渡
大坂府攝津國西成郡難波村
平民

木村 藤 八
明治十五年六月
三十九年

明治十五年六月二十七日大坂輕罪裁判所ニ於テ右木村藤八カ賭場開張被告事件ヲ審判シ刑法第二百六十條ニ依リ重禁錮六月罰金二十圓ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ服セス藤八ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判ハ事實及ヒ法律ノ理由ヲ明示セラレスシテ治罪法ノ成規ニ違背セリ且被告人ハ官許ヲ得テ公然玉突營業ヲ爲シタル者ニシテ固ヨリ賭場ヲ開張スル等ノ所爲アルニ非ス又山田眞方等三名ハ證人タルノ資格ヲ有セサル者ニシテ何等ノ陳述ヲ爲スモ採用スルニ足ラス然ルニ原裁判所カ眞方等ノ供狀ヲ以テ有罪ノ證據ト爲シタルハ不服ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

原裁判所ニ於テ被告人ノ所爲ヲ以テ名ヲ玉突營業ニ假リ實ハ賭場ヲ開張シ利ヲ圖ルノ罪アリト爲シタルハ相當官吏ノ作りタル告發調書及ヒ各關係人ノ手續書等ニ據リ事實ヲ判定シタル者ニシテ言渡書ニ其事實證據ヲ明示シ且適用スル法律ノ正條ヲ明示シ以テ相當ノ處斷ヲ爲シタル者ナレハ毫モ不法ト認ム可キノ廉アルニ非ス抑證據ヲ採擇シテ罪ノ有無ヲ判定スルハ專ラ裁判官ニ任從スル所ナレハ其判定シタル事實上ニ對シ當否ヲ論難ス

ルモ之ヲ以テ上告ノ原由トナスコトヲ得サルナリ本件上告ノ如キハ事實證據ノ有無ヲ陳辨シ漫ニ原裁判ニ不服ノ旨ヲ訴ヘ覆審ヲ求ムルノ意ニ過キスシテ治罪法第四百十條ニ規定シタル場合ニ適當セサルモノナレハ上告ノ旨趣總テ相立サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千三百四十號

○判文(偽造証書ノ件)明治十五年十二月十一日上告

同 十六年九月廿六日申渡

栃木縣下野國那須郡成田村

平民

喜 佐 美 松 吉

明治十五年八月二十九歲

偽造証書被告事件ニ付明治十五年八月廿五日刑法第二百十條第二百十二條ニ依リ四月ノ重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ヲ命スルモノナリト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ金廿圓ノ借用証書ヲ偽造シ告訴人角田林平ニ返還シ真正ノ証書ハ返戻セサルヲ相違ナシト雖當時返還ノ証書ニ裏書キヲ爲シ置キタレハ仮令真正証書ノ被告カ手ニ在ルモ後日林平ニ對シ該真正証書ヲ以貸金ヲ請求スルノ精神無ク又請求スル能ハサレハ其所爲罪ト成ラサルハ勿論又一步ヲ讓ルモ不能犯罪ナリト云ヒ尙追申書ヲ呈シテ以上ノ趣旨ヲ擴張セリ

對手人檢事補鶴見時一ハ上告趣意ノ不理ナルヲ逐一辨駁シ本案ノ如キハ該真正証書ヲ以貸金ヲ請求スルモ知ルヘカラス何ントナレハ其偽造証書ト真正証書ト月日ノ相違アリテ被告ノ手ニ有スレハナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ要旨ハ角田林平ナル者ニ借金証書ヲ返スニ方リ偽造証書ヲ以テ真正ノ証書ハ被告ノ手ニ存在スレハ返還ノ証書ニ裏書ヲ爲シオキタレハ後日眞平ニ對シ真正証書ヲ以テ請求スヘキ念慮無之ノミナラス請求スル能ハサルモノニシテ不能犯罪ナレハ其處爲竟ニ罪トナラサル旨申立ルト雖檢事補鶴見時一答辨ノ如ク被告カ返戻シタル偽造証書ハ真正証書ト月日ノ相違セルノミナラス本文中ニ於テモ亦相違ノ廉アルヲ以觀ルキハ既ニ偽造証書ニ裏書ヲ爲シ返還セシ上ハ真正証書ヲ被告ノ手ニ存置スルモ最早無効ニ屬スルモノニシテ假令其証書ヲ以金圓ノ請求ヲ爲サント欲スルモ能ハサルモノニテ証書ヲ偽造セル處爲ハ罪ト成ラストノ陳辨ハ相立サルニ付原裁判所カ貸付証書ヲ偽造シタルノ罪ヲ刑法第二百十條ニ問ヒ處斷セシハ不適當ニハ非ストス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第千三百四十一號

○判文(實印ヲ他人ニ預ケシ件)明治十五年十一月廿五日上告

同 十六年九月廿七日申渡

石川縣加賀國石川郡上鴛原

村イ十九番甲地平民市兵衛
父農

小高市右衛門
明治十五年四月

五十年十月

石川縣加賀國石川郡上鷺原

村八十四番甲地平民農

小要七左衛門
明治十五年四月

四十八年

右市右衛門外一名被告事件ニ付明治十五年四月二十四日金澤輕罪裁判所ニ於テ被告七左衛門ハ明治十三年十月中自己ノ實印ヲ被告市右衛門ニ相預ケタル者トシ明治五年第九十七號布告人民實印ノ儀ハ諸事證據ニ相成候大切ノ品ニ候處妄ニ他人ニ預ケ候者有之ニ付問々奸詐ノ訴訟差起リ以ノ外ノ事ニ候以來實印相預ケ候義固被禁候萬一心得違ノ者有之候節ハ預ケ人預リ人共訖度可及處置候事トアリテ舊律ニ據レハ雜犯律違令條凡令ニ違フニ重キ者ハ答四十輕キ者ハ一等ヲ減ストノ正條ニ該ルヘキモノナルモ新法及ヒ別段ノ法律ニ於テ罰スヘキ正條ナキヲ以テ免訴スト言渡タル裁判ニ對シ檢事別府景通上告ノ要點ハ實印ヲ人ニ預ケ又ハ之ヲ預ルコトヲ禁セラレタルハ明治五年第九十七號布告ニ明ナリ其結文ニ曰ク預人預リ人共訖度可及處置トアリ此文意乃チ答可申付トノ義ナリト解釋セサルヲ得ス而テ明治十四年第七十二號布告第四條ニ曰法ニ照シ律ニ照シ若シハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ

及ヒ答可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スト則チ被告事件ニ對シテハ此法律ヲ適用セサル可ラス然レモ所犯刑法頒布以前ニ在ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ刑法第三條及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ照シ二圓以上二圓二十五錢以下ノ罰金ニ處スルヲ以テ至當ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
人民其實印ヲ他人ニ預ケル事ハ明治五年第九十七號布告ヲ以テ之ヲ禁シ當時此布告ニ違フ者ハ雜犯律違令條ニ依リ處斷シタリ而シテ該布告末文ニ預ケ人預リ人共訖度可及處置候事トアルモ現今ニ在テハ明治十四年第七十二號布告第四條ニ「法ニ照シ律ニ照シ若シハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ答可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス」トアリテ訖度可及處置トアルヲ處分スルノ明文ナシ故ニ本案被告事件ハ罪ト爲ラサル事爲ニシテ原裁判所カ該被告事件ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ固ヨリ相當ノ判決ナリトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也
大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第千三百四十二號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年十一月廿八日上告
同 十六年九月廿七日申渡

群馬縣上野國邑樂郡館林暨
町平民

宇治川庄吉

明治十五年九月
二十年八月
一九九

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年九月二日栃木輕罪裁判所ニ於テ被告無代價ニテ飲食シタル所爲ニ對シ刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ

原檢察官ハ右判決ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ凡ソ旅亭ニ於テ飲食スルモノハ即時其代價ヲ交付スルヲ以テ一般ノ習慣ト爲ス故ニ飲食ノ代價ヲ拂ハスシテ逃走スル者ヲ以テ負債辨償ノ義務ヲ通レタルモノト謂フヲ得サルヤ論ヲ俟タス又刑法第三百九十條ノ欺罔トハ其意義頗ル汎クシテ無實ノ希望ヲ生セシメ人ノ財物ヲ騙取スル所爲即チ被告事件ノ如キ無論之ヲ包含スル者ナリ然ルニ原裁判所カ被告ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ失當ノ裁判ナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

金錢ナクシテ飲食スル者ハ一概ニ詐欺取財ヲ以テ論シ難シト雖モ當初ヨリ詐欺ノ念慮ニ出テタルヲ明確ナルニ於テハ其罪ヲ問ハサルヲ得ス抑モ被告ハ金錢ナク旅亭ニ投宿シ安ニ飲食シタル後其代價ヲ償フノ目的ナキヲ以テ名ヲ金策ニ托シテ外出シ即時還ルト偽リ其儘逃走シタル者ニテ詐欺ノ形跡顯然タルモノ、如シト雖モ被告カ心情如何ヲ推究シ果シテ當初ヨリ無代價飲食スルノ念慮アリシヤ否ヤヲ判定スルハ原裁判所ノ特有スル權内ニ屬スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ被告ニ於テ故テニ偽名ヲ用ヒ又ハ身分ヲ詐稱スル等詐欺ノ情狀ナキヲ以テ其罪ヲ不問ニ措クノ理由ト爲シ被告カ心情如何ニ論及セスシテ輒シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ事實ノ理由不備ニ係ル不法ノ裁判ニシテ法律適用ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス
 第一千三百四十三號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年十二月廿五日上告
 同 十六年九月廿七日申渡

山梨縣北巨摩郡朝神村平民
 民事原告人清水「トメ」代人
 同縣同郡同村平民農
 清水 玉 作

右玉作ヨリ山梨縣西山梨郡櫻町寄留平民篠原品右衛門及ヒ同人妻「ヒサノ」カ詐欺取財ノ被告事件ニ係ル豫審終結言渡ノ故障ニ付明治十五年八月十四日甲府輕罪裁判所會議局ニ於テ故障ノ理由ナキ者トシ豫審判官カ爲シタル免訴ノ言渡ヲ認可スル旨判決シタル處右玉作ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告兩名カ竊盜及ヒ詐欺取財ノ所爲アルヲハ諸般ノ證據ヲ集蒐シ事實ノ審理ヲ悉サハ必ス明確ナルニ至ル可シ然ルニ豫審判官ニ於テハ是等ノ取調ヲ充分ニ爲サ、ルノミナラス被告等ノ詐言ヲ偏信シテ遂ニ免訴ノ言渡ヲ爲シタルニ付原裁判所會議局ヘ故障及ヒタルニ同會議局於テモ亦右言渡ヲ相當ナリト認可セラレタルハ不法ナルニ付之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

治罪法第二百四十六條第二項ノ明文ニ依レハ民事原告人ハ私訴裁判上即チ損害ノ賠償賍物ノ返還ニ關スル裁判ニ對シテハ越權ノ處分アル時ニ於テ故障ヲ爲シ得ルト雖モ公訴裁

判上即チ犯罪處斷ニ付テハ上訴ヲ許サ、ル者トス今本件故障ノ趣旨ヲ按スルニ全ク罪ノ有無ヲ論難シ專ラ公訴裁判上ニ不服ヲ唱フル者ナレハ即チ前條ノ規則外ニ涉リ更ニ故障ノ原由トナスヲ得ス故ニ原裁判所會議局ノ判決相當ニシテ上告ノ旨趣ハ一モ相立サル者トス仍テ同法第四百二十七條ノ規則ニ遵ヒ該上告ハ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第千三百四十四號

○判文(誣告ノ件)明治十五年十二月廿七日上告
同 十六年九月廿七日申渡

山梨縣甲斐國北都留郡巖村

平民楠太郎弟農業

小林

澤太郎

明治十五年十月

誣告被告事件ニ付明治十五年十月二十六日甲府輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百五十五條同第
二百二十條同第八十五條ニ依リ一年十月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁
判ニ服セス上告セリ其要領ハ原裁判所カ認メタル事實ハ實際ニ違ヒタルモノナリト云ヒ仮
令一旦豫審ニ於テ與一郎ヲ誣告シタル旨陳述シタルモ是眞實ノ白狀ニアラス與一郎ニ瞞着
セラレタルニ原因セシモノニテ自己ハ全ク誣告者ニアラス與一郎カ強奪ヲ爲シタルモノニ
テ公判廷ニ於テ初テ眞實ヲ白狀シタルハ一ツノ重罪ヲ發覺セシモノナルニ之ヲ不問ニ措キ
タルハ不法ナリト云ヒ又一步ヲ讓リ實ニ自己カ誣告ヲ爲シタリトスルモ未ダ推問ノ前ニ於

テ自首セシモノナレハ刑法第三百五十六條ニ依リ免罪ノ處分ニナルヘキ筈ナルニ有罪ナリ
トノ裁判ヲ與ヘラレタルハ不法ナリト云フニアリ

對手人檢事補澁谷孝世ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不法ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ認メタル事實ハ實際ニ違ヘリ又ハ與一郎カ強奪ヲシタリ
トノ眞實ノ白狀ハ公判廷ニ於テ爲シタルニ之ヲ不問ニ措キタリト云フニアリト雖ヒ公判
始末書ヲ見ルモ決テ與一郎ニ於テ強盜セシヲ申立タルノ証跡アルヲナケレハ謂レナキ申
分ニ過キサルナリ然リ而シテ原裁判所カ各個ノ證據ニ依リ認メタル事實ニ對シ之カ當否
ヲ訴フルモ上告ヲ爲スノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ事實認定ハ原裁判所ニ特任セシ
權内ナレハナリ其他刑法第三百五十六條誣告ヲ爲スト雖モ被告人推問ヲ始メサル前ニ於
テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ストアルヲ適用セラレサルチ不服ナリト云フモ被告澤
太郎カ自首シタルハ明治十五年三月廿八日ニアリテ上條與一郎カ豫審廷ノ訊問ヲ受ケタ
ルハ同年三月廿三日ナリ然テハ則チ其自首スル以前ニ於テ訊問ニ着手セシモノタル明了
ナレハ原裁判所カ刑法第三百五十六條ヲ適施セザリシハ允當ノ擬律ニテ毫モ不當ニアラ
サルナリ因テ上告ノ趣旨總テ相立ダス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第千三百四十五號

○判文〔持凶器強盜ノ件〕明治十六年四月二日上告
同 十六年九月廿七日申渡

一一〇四

神奈川縣武藏國橘樹郡神奈
川驛九番町平民船乘業

鳴 鳥 半 藏
明治十五年十一月
二十九年

東京府武藏國荏原郡羽根田
村平民船乘業

中 村 喜 太 郎
明治十五年十一月
二十五年

靜岡縣伊豆國三宅島神月村
伊八附籍平民船乘業
川 村 藤 次 郎
明治十五年十一月
三十一年

持兇器強盜人ヲ死ニ致シタル被告事件ニ付明治十五年十一月三十日神奈川重罪裁判所カ刑
法第三百八十條ニ依リ死刑ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス各上告セリ其要領ハ各兇器ヲ携
へ人ノ家宅ニ押入り暴行脅迫シ衣類金錢ヲ強取シタル所爲ニ對スル處斷ハ相當ナルモ其兇
器ヲ携へ大木元次郎方へ押入り家主元次郎ヲ殺害シタル所爲ニ對シ共ニ刑法第三百八十條
末項ニ擬セラレタルハ不當ナリト云ヒ半藏ハ共犯喜太郎カ元次郎ニ組伏セラレ已ニ危キ場

合チ目撃シ餘儀ナク勢ヒヲ助ケ元次郎ニ聊カ輕傷ヲ負ハセタルモ絶命ニ至ルヘキモノニ非
スト云ヒ喜太郎ハ元次郎ニ押倒サレ已ニ生命モ危キ處共犯藤次郎半藏助勢シ吳レ漸ク起キ
揚ラントスル際元次郎ノ眩ニ誤テ輕傷ヲ負セタルモ夫レカ爲メ絶命ニ至ルヘキモノニ非ス
ト云ヒ藤次郎ハ元次郎カ拔刀ヲ以テ被告等ヲ切付來ルニ付手向ヒシタル處共犯喜太郎カ元
次郎ニ押シ倒サレタルヲ傍觀スルニ忍ヒス元次郎ノ腰ノ當リ拔刀ニテ拂ヒタル迄ニテ輕傷
ナルハ司法警察官ノ調書及ヒ豫審ノ口供ニテ明瞭ナレハ元次郎ヲ絶命ニ至ラシメタルモノ
ニ非スト云ヒ各刑法第三百八十條初項ニ依リ處斷セラレヘキモノナルニ原裁判ノ玆ニ出サ
ルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人檢事渥美友成ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代言人藤卷正太ノ陳述立會檢事池上三郎
ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
刑法第四百條ニ曰二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ストアリ
テ現ニ罪ヲ犯シタルモノハ其加功ノ多少ヲ問ハス悉ク之ヲ正犯ト爲シ各自ニ其刑ノ全部
ヲ科スヘキヲ定メタル刑法中ノ總則ナリ被告半藏外二名ハ被害者元次郎ニ對シ各自手ヲ
下シ輕傷ヲ負ハセタリトハ上告趣旨ニ於テ自ラ陳述シ加之現ニ元次郎カ身体ニ受ケタル
創傷ハ重輕十九ヶ所ニテ此ノ慘刻ナル所爲ニ倒レタルハ原裁判所カ各個ノ證據ニ照シ認
定シ確乎動カスヘカヲサレ事實ナレハ縱ヒ共犯者中負傷セシメタル其重キト輕キトノ差
異アルヲ問ハス共犯者同一體ニテ殺害ヲ遂ケタルモノト看做スヘキハ法律ノ然ラシムル

一一〇五

所ニテ各自同一ノ責ヲ受クヘキハ論ヲ俟タルナリ旁以刑法第三百八十條第一項ニ依リ處斷セラルヘキモノナリトノ上告ハ相立タス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ各棄却スル者也
大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第一千三百四十六號

○判文(強盜殺人ノ件) 明治十六年六月廿五日上告
同 十六年九月廿七日申渡

大坂府大和國添下郡大和田

村平民農業

與 西 甚 平

明治十六年六月
三十二年九月

強盜人ヲ死ニ致シタル被告事件ニ付明治十六年六月六日大坂重罪裁判所カ刑法第三百八十條ニ依リ死刑ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ被害者伊尾宇平ヨリ無實ノ事ヲ言ヒ掛ケラレ且期限來ラサル借金ノ返済ヲ促カサレタルヨリ彼是言ヒ争フ中終ニ腕力ヲ訴フル場合ニ至リ傍ヲニ在リタル横槌ヲ以テ宇平ノ面部ヲ毆打シ死ニ致ラシメタルモノニテ刑法第二百九十九條ヲ適用セラルヘキモノナルニ原裁判所ハ郡山警察署ニ於テ苛酷ノ尋問ヨリ成リ立チタル不實ノ申立チ偏信シ刑法第三百八十條ヲ適用シ處分セラレタルハ實ニ不服ノ至リニ堪ヘス因テ原裁判ヲ破毀セラレ更ラニ裁判アランヲ求ムト云フニアリ仍ホ上告辨明書ヲ以テ其事實ニ違ヒアリトノ趣旨ヲ反復痛論シ前意ヲ擴張セリ

對手人檢事笠原半九郎ハ上告趣意ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代官人中村正直ノ陳述立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由ハ被告甚平カ宇平ヲ殺害シタルハ鬪毆ニ原因セシ事實ナレハ刑法第二百九十九條ニ問擬セラルヘキモノナリト云フト雖モ刑法第二百九十九條ニハテ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ストアリテ其意止タ毆打創傷ヲ爲スニ止リ決シテ他ノ意アルニアラサルモノヲ指シタルモノニテ假令之レチ死ニ致ラシムルモ素ト是レ犯者ノ期スル所ニアラサルヲ以テ謀殺殺傷ノ罪ト異リ重懲役ノ刑ヲ以テ罰スヘキヲ定メタルモノナリ今被告甚平カ犯罪事實ノ如キハ之レニ適當セス即チ原裁判所カ正當ノ成規ニ法リ職權ニ因リ宇平カ携ヘ來リシ借用証書地券証等ヲ強取セン爲メ殺害シタルモノナリト確認セシ其事實ニ對シ適律ヲ擬シタルモノニテ確乎動カスヘキモノニアラサレハ刑法第二百九十九條ヲ適用セラルヘキモノナリト申分ハ相立タス其他郡山警察署ニ於テ苛刻ノ訊問ヲ受ケタリト云フモ果シテ其訊問ノ成規ニ觸レタル廉アルコトナケレハ是亦申分相立タス右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也
大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第一千三百四十七號

○判文(謀殺及竊盜ノ件) 明治十六年七月五日上告
同 十六年九月廿七日申渡

廣島縣備後國品治郡地方村

平民

岡田 岩右衛門

明治十六年六月
四十年一月

謀殺及竊盜被告事件ニ付明治十六年六月一日廣島輕罪裁判所會議局カ豫審終結ノ言渡ヲ認
可セシヲ不當トシ被告岡田岩右衛門ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ豫審判官ニ於テ告訴人柿本
政次郎ノ不實ノ陳述ヲ採用シ謀殺ノ犯蹟アリト認定セラレタルハ不當ナリト云ヒ又被告カ
忠海分署ニ爲シタル自白ハ訊問ノ嚴ナルニ忍フ能ハサルヨリ一時ノ遁辭ヲ構造セシテ過キ
スト云フニ在リ

原檢察官ハ本件上告ノ趣旨タル專ラ事實ノ當否ヲ論スルニ在ルヲ以テ上告ヲ爲スノ原由ナ
キモノト思量スル旨答辨セリ因テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

諸般ノ証憑ヲ採擇シ事實ヲ認定スルハ原裁判所ノ特有スル權内ニシテ越權等不法ノ廉ア
ルニ非サレハ輒シ其當否如何ニ論及スルヲ得サルモノトス本件被告ハ證據取捨ノ當否ヲ
論難シテ以テ上告ノ理由ト爲スト雖モ如此上告ハ治罪法第四百十條各項外ニ涉ルヲ以テ
到底無効ニ歸スヘキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノ也
大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第千三百四十八號

○判文(酒造稅則違犯ノ件)明治十六年七月六日上告
同 十六年九月廿七日申渡
栃木縣下野國芳賀郡芳志戸

村齣齣營業人

見 目 八三郎
明治十六年四月
四十三年

右八三郎カ酒造稅則違犯被告事件ニ對シ明治十六年四月十一日栃木輕罪裁判所宇都宮支廳
ニ於テ言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ大審院檢事長渡邊曠カ非常上告ヲ爲シタル要旨ハ被
告八三郎ハ齣齣營業者ニシテ濁酒壹石以上釀造シタルハ明治十五年第六十二號布告齣齣營
業稅則第十二條ヲ犯スモノナルニ付單ニ同則第十二條ニ依リ處斷スヘキモノトス然ルチ同
裁判所カ齣齣營業稅則第十三條ニ依リ五圓ノ罰金ヲ科シ仍ホ犯罪ニ係ル濁酒及ヒ器械ヲ沒
収シタル上更ニ明治十五年第六十一號布告酒造稅則附則第三條ニ照ラシ本則第二十九條ヲ
適用シ明治十三年第四十號布告酒造稅則第三條免許稅三十圓ノ二倍六十圓ノ罰金ヲ科シタ
ルハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルニ付治罪法第四百三十五條ニ因リ原裁判ノ破毀ヲ求
ムト云フニアリ

茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審案スルニ原裁判所於テ被告ハ明
治十五年第六十二號布告齣齣營業稅則第十二條ノ明文ニ反シ齣齣營業場内ニ於テ自用ノ濁
酒ヲ製造シタルヲ以テ同則第十三條ニ問ヒタルハ相當ナリト雖モ仍ホ明治十三年第四十號
布告酒造稅則附則第二十九條ヲ適用シ同則第三條ニ依リ免許稅ノ二倍六十圓ノ罰金ヲ科シ
タルハ上告旨趣ノ如ク其當ヲ得サルモノトス何トナレハ明治十五年第六十一號布告酒造稅
則附則第三條ニ自家用料ノ酒類ハ一家内ニテ一期製造高壹石ヲ超ルヲ得ス若シ之ヲ超ル

時ハ總テ本則ニ從フヘシトアルハ其自用壹石ヲ超ユレハ本則ニ從テ免許鑑札ヲ受クルノ云ヒニシテ總テ本則ニ從ヒ處斷セヨトノ法意ニアラス故ニ其自用壹石ヲ超過スルモノ、罰令ハ附則第八條ニ明載アル所ナリ又同則第一條ニ自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ免許鑑札ヲ受クヘシトモ明示シアリテ被告ハ是等ノ數罪ヲ併セ科スヘキモノナルニ原裁判茲ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之レヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

見 目 八 三 郎

原裁判所カ認定シタル事實ニ據リ醫麴營業場内ニ於テ濁酒壹石八斗三升六合ヲ製造シタルハ明治十五年第六十二號布告醫麴營業稅則第十二條ニ違フヲ以テ同則第十三條ニ照シ五圓ノ罰金ヲ科ス又自家用料ノ濁酒壹石ヲ超過シタルハ明治十五年第六十一號布告酒造稅則附則第三條ニ違フヲ以テ同則第八條ニ照シ三圓ノ罰金ヲ科ス又自用ノ濁酒ヲ製造シ免許鑑札ヲ受ケサルハ同則第一條ニ違フヲ以テ同則第八條ニ照シ三圓ノ罰金ヲ科シ併セテ罰金十一圓ニ處ス仍ホ醫麴營業稅則第十三條及ヒ酒造稅則附則第八條ニ依リ該濁酒并ニ製造シタル器械共沒收ス
大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス
第千三百四十九號

○判文〔官文増減變換ノ件〕明治十六年七月六日上告
同 十六年九月廿七日申渡
長野縣信濃國上伊那郡平手

村平民當時同國東筑摩郡北
深志村百八十八番地寄留

武 井 條 衛

明治十六年三月
三十四歲四ヶ月

明治十六年三月二十八日長野重罪裁判所ニ於テ右條衛ニ對スル官ノ文書ヲ増減變換シテ行使シタル被告事件ヲ審判シ刑法第二百三條ニ照シ輕懲役ヲ本刑ト爲シ其情狀ヲ酌量シ同法第八十九條九十條等ニ照シ二等ヲ減シ仍ホ同法第二百七條ニ依リ重禁錮一年半監視一年ニ處斷セリ

右裁判確定ノ後本院檢事長渡邊驥ハ明治十六年七月六日ヲ以テ非常上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ凡ソ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使スルノ罪ヲ構成スルニハ必ス眞實ヲ偽造若クハ増減變換シ仍ホ他人ニ害ヲ加フルノ意思及ヒ害ヲ生スルヲ得ヘキコアルヲ要ス若シ之ニ反シ其條件具備セサル時ハ未ダ以テ本案ノ犯罪ヲ構成シタリト云ヲ得サルハ固ヨリナリ而テ原裁判言渡ヲ檢案スルニ其事實ノ理由ニ曰ク「被告人武井條衛ハ明治十五年十一月七日右小松嘉久治ヘ對シ松本治安裁判所ヘ勸解出願及ツテ以テ該掛官ヨリ同人宛ノ召喚狀ヲ申受ケ送達スルモ同人儀出頭セサルヨリ明治十五年十一月十一日更ニ嘉久治村方戸長宛召喚狀ヲ乞フニ該掛官ハ曩ノ召喚狀ノ受領証ヲ閱セサル限ハ戸長宛ノ召喚狀渡シ難クテ尋常本人宛ノ召喚狀下付相成ル所到底尋常ノ召喚狀ニテハ嘉久治出頭致サ、ルハ必然ノ儀ト思量シ右召喚狀ノ中松本治安裁判所ト押捺之レアル左傍ヘ右村戸長ノ四字ヲ記入シ他人ヲシテ

之ヲ嘉久治ノ訴ヘ送達セシメタルモ同人於テ之ヲ收握セサルヨリ終ニ之ヲ右村戸長役場ヘ送達セシモノ也」云々ト此事實ヤ本書ヲ變換シタルノ實アルモ未ダ他人ニ害ヲ加ヘ及ヒ害ノ生ス可キ事實ヲ具備セズ果シテ然ハ未ダ其犯罪ヲ構成セサル者ナルコ之ヲ以テ官文書變造犯ト爲シタルハ法律ニ罰セサル所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ匹敵スル者ト確信セリ因テ原裁判ノ破毀ヲ請求スト云フニ在リ

茲ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ凡ソ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル犯罪ヲ構成スルニ必要ノ條件アリテ若シ之ヲ具備セサルハ其罪成立セサルモノトス而シテ原裁判言渡書ヲ始メ訴訟書類ヲ照査スルニ本案ノ召喚狀ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ハ被告武井條衛カ勸解願ノ對手人タル小松嘉久治ナル者ニ止リ而シテ同人ハ其身既ニ勸解廷ヘ出頭セサルヲ得サルノ位置ニ在ル者ナレハ被告條衛ニ於テ故ラニ該召喚狀ヲ以テ嘉久治ヲ害スルノ意思ヲ有セサルヲ及ヒ害ノ生スヘキ慮ナキヲハ言テ俟タス即チ必要ノ條件ヲ缺キシ者ニシテ未ダ本案犯罪ノ成立シタル者ト爲ス可カラサルヲ以テ原裁判ハ刑法第二百三條ヲ誤用シ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル不當ノ處分ナリトス依テ治罪法第四百二十五條ニ從ヒ之レヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

武井條衛

右ニ辨明スル理由ニシテ被告人ノ所爲ハ罪ト爲ラサルヲ以テ無罪且ツ放免スル者也
大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第一千三百五十號

○判文〔富籤犯ノ件〕明治十五年十一月廿一日上告
同十六年九月廿八日申渡

東京府淺草區吉野町百五番
地士族大秀寺住職

青木善充

明治十五年六月
三十七年

同日本橋區蠣壳町一丁目三

和田和三郎

明治十五年六月
三十四年二月

同淺草區吉野町九十四番地

平民鍛冶職

高柳市兵衛

明治十五年六月
四十一年五月

同日本橋區靈岸島濱町十七

番地平民雜業

山本萬吉

明治十五年六月
三十三年

同淺草區吉野町九十四番地

二二三

平民鐵物渡世

横山

兵衛

明治十五年六月

同區新吉原角町一番地平民

引手茶屋渡世

山本

茂助

明治十五年六月

同本郷區湯島切通町九番地

寄留千葉縣士族無職業

忠

興

明治十五年六月

右善充外六名カ被告事件ニ付明治十五年六月二十八日東京輕罪裁判所ニ於テ被告人等ハ明治十五年四月十七日同五月十七日ノ兩日淺草區吉野町大秀寺ニ於テ其名義ヲ佛具奉納助成講ニ託シ財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者トシ刑法第二百六十二條ニ依リ各重禁錮一月ニ處シ罰金五圓ヲ附加ス但兼テ押収シ置タル金五圓ハ犯罪ニ因テ得タルモノ又帳簿及ヒ籤ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ係ルヲ以テ何レモ沒收ス尙本案公訴事件ニ付証人呼出シ費用金九錢ハ被告人七名ニ於テ負擔シ之ヲ償却スヘシト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ同裁判所檢事補豊島久臣ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人共カ富興行ノ

央取押ヘタル現場富籤賣得金五拾九圓五拾貳錢及ヒ返テ割返スヘキ積金拾圓ハ該興行ニ因テ得タルノ明瞭ナレハ則チ刑法第四十三條第三項ニ依リ沒收ノ言渡ヲ爲ス可キモノナルニ是レニ據ラサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ對手人青木善充外六名答辯ノ要旨ハ五拾九圓五拾貳錢ハ助成講第二會ノ掛金ニシテ其當籤者ニ對シ現場ニ於テ渡サント欲シ居リタルモノナレハ素ヨリ富籤賣得金ニモ被告カ犯罪ニ因テ得タル物件ニモ非サルナリ將タ積金拾圓ハ返テ講員一統ヘ割戻スヘキモノナレハ是又被告カ犯罪ニ因テ得タル物件ニアラサルノ明瞭ナリ然ラハ右金圓ノ如キ犯人即チ被告等ノ所有ニアラス又所有主ナキモノニモアラスシテ講員ノ所有ニ係ルモノナレハ刑法第四十四條ノ正條ニ於テ之カ沒收ヲ爲シ得ヘキモノニアラスト云フニ過キス玆ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルノ左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ原檢察官上告旨趣ノ如ク既ニ原裁判所ニ於テ被告等カ所爲チ富興行ノ犯罪者ト認定シ刑法第二百六十二條ニ問擬シタル上ハ被告等カ該犯罪ニ因テ得タル財物即チ助成講ノ名義ナル第一會ニ於テ現ニ被告等カ所得セル金五圓ハ勿論其他取押ヘタル現場醜集金五拾九圓五拾貳錢及ヒ預ケ金拾圓ヲモ共ニ沒收スヘキモノトス何トナレハ原書類ヲ點檢スルニ右金五拾九圓五拾貳錢ハ第二會ニ於テ籤ヲ賣リ集メタル金額ノ部分ニシテ未タ當籤者ニ渡サ、ルニセヨ原ト是レ富興行ニ因テ醜集シタル所ノ金額タルヲ失ハス又預ケ金拾圓ハ第一會ニ於テスル醜集ノ部分ニ屬シ是又富興行ニ因テ得タル所ノ金額ニシテ假令ヒ割戻ス等ノ名義アルモ斯ル方法ナル上ハ豫メ其事アルヲ保チ難シトス到底孰レモ富興行ニ因

テ醜集シ以テ之ヲ該目的ニ使用セントシタル所ノ金額ニ相違ナク而シテ其未ダ被告等カ掌
握ニ存シ若クハ隨意ニ使用シ得ル間ハ自カラ之ヲ被告等カ所有ニ歸シタル財物ト謂ハサル
ヲ得ス則チ右等財物ハ夫ノ五圓ト同シク犯罪ニ因テ得タル物件トシテ刑法第四十三條第三
項ニ因リ總テ之ヲ沒收スヘキモノタルニ原裁判此ニ出テス被告等カ犯罪ニ因テ得タル財物
ノ内特ニ金五圓ノミヲ沒收シ其他ニ及ホサ、リシハ擬律ノ錯誤ナル不法ノ裁判ナルヲ以テ
治罪法第四百二十九條ニ遵ヒ此一部ニ對シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

- 青 木 善 充
- 岡 田 和 三 郎
- 高 柳 市 兵 衛
- 山 本 萬 吉
- 横 山 松 兵 衛
- 山 本 茂 助
- 辻 忠 興

右ノ理由ニ依リ原裁判所カ言渡シタル沒收物件ノ外仍ホ被告等カ犯罪ニ因テ得タル財物
即チ富興行ニ因テ醜集シタル金岡田和二郎預リ五拾九圓五拾貳錢並ニ久次米銀行支店へ
ノ預金拾圓(之レヨリ生スル相當割合ノ利子トモ)ハ刑法第四十三條第三項ニ依リ之ヲ
沒收スルモノナリ
大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千三百五十一號

○判文(毆打創傷ノ件)明治十五年十二月廿六日上告
十六年九月廿八日申渡

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡山

下町平民雜業

古 川

勝 次 郎
明治十五年九月
二十七年三月

同縣同國同郡鷹師馬場町士

族無職業

小 野

昌 秀
明治十五年九月
三十七年

右兩名カ毆打創傷被告事件ニ對シ明治十五年九月十一日鹿兒島縣輕罪裁判所ニ於テ刑法第三
百一條第三項同第三百五條同第四百二十五條第九項同第四百四條ニ依リ古川勝次郎ハ同第二
百一條第三項ニ照シ重禁錮二十五日小野昌秀ハ同第四百二十五條第九項ニ照シ拘留八日ニ
處スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告古川勝次郎カ上告爲シタル要領ハ被害者大橋万次郎
ヲ毆打シタルニアラス右万次郎ト鈴木長右衛門ト爭論シ居ルヲ仲裁セント手出シタル迄ナ
リ然ルニ漠然タル不完全ノ證言ニ據リ該宣告ヲ與ヘタルハ不當ナリト云ヒ被告小野昌秀カ
上告ノ要旨モ被害者大橋万次郎ヲ毆打シタルノ證憑ナシト論告スルニアリ同裁判所檢察官
於テハ原裁判相當ナリト答辯シタリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意

見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

治罪法第百四十六條ニ明示セル如ク都テ證據ノ取捨鑒別ハ承審官ニ任スル所ノモノナレハ其探証ノ當否ヲ論難シテ破毀ヲ求メントスルモ到底同第百十條ノ各項以外ニ涉リ上告ノ原由ト爲スヲ得ス況ンヤ被告小野昌秀ノ如キハ違警罪ノ範圍内即チ拘留八日ニ處セラレタレハ明治十四年第四十四號布告ノ制裁アツテ上告ヲ爲シ得ヘカラサルモノナルニ於テヲヤ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ併セテ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第千三百五十二號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年九月廿八日申渡

岩手縣陸中國西磐井郡永井

村平民農業

佐藤勇右衛門

明治十五年九月

三十年八月

岩手縣陸中國西磐井郡永井

村平民農業

後藤菊七

明治十五年九月
三十四年四月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年九月五日磐井輕罪裁判所會議局カ治罪法第百四十六條第三項ニ適當セサル故障ニ因リ豫審終結ヲ認可スト判決セシヲ不當ナリトシ民事原告人千葉元治ハ上告セリ其要領ハ豫審判事ニ於テ私訴ニ對シ何等ノ言渡モ爲サ、リシハ即チ越權ノ處分タルヲ以テ會議局ニ向ヒ不服ノ點ヲ明示シ故障ナシタルニ之ヲ只免訴ノ言渡ニ對シ非駁スルモノト認メラレ治罪法第二百五十四條ヲ援引シ且同第二百四十六條第三項以外ニ涉ルモノトノ理由ヲ付シ以テ之ヲ棄却シタルハ不法ナリ仰願ハ其事實ニ立入覆審ヲ求ムト云フニアリ

對手人佐藤勇右衛門後藤菊七ハ原判決至當ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

故障ノ趣意書ヲ見ルニ其要點ハ豫審判官ノ探証ヲ非難スルニ過キサルノミナラス更ニ私訴ニ付越權ノ處分アリタリトノ訴ヘアラサレハ原會議局ハ之ニ判定ヲ與フルニ由シナキモノトス假リニ私訴ニ付裁判ヲ與ヘラレサルハ越權ナリト故障セシモノナリトスルモ亦上告ノ理由ト爲スニ足ラス何ントナレハ治罪法第二百二十四條ニ免訴ヲ言渡タル場合ヲ定メタル末項ニ本條ノ場合ニ於テ被害者ハ民事裁判所ニ非レハ要償ノ訴ヲ爲スヲ得ストアレハナリ其他探証當否ノ非難ニ付故障ヲ爲スヲ得サル論ヲ俟タサレハ原會議局ハ之ヲ採用セサル允當ナルニ因リ上告ノ理由ト爲スヲ得ス又治罪法第二百五十四條ヲ適用セシハ此法律ニ適當ナル事項ヲモ發見セスト反復其理ナキヲ示シタルマテナレハ是亦不法ナリト云フヲ得サルナリ然リ而シテ治罪法第二百四十六條第三項ハ被告人ノ故障ニ對シ適當スヘキ民事原

告人ノ故障ニ付テハ同第二項ヲ適用スヘキモノナルニ原判決茲ニ出テス同第三項ニ依リタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト判定ス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百卅一條ニ依リ原判決ノ一部分ヲ破毀シ直ニ判決スル左ノ如シ

前辨明スル如クナルニ因リ佐藤勇右衛門後藤菊七ヲ豫審終結ヲ認可セシ判文中治罪法第

二百四十六條第三項トアルハ第二項ト更正スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第一千三百五十三號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十六年六月一日上告

同 十六年九月廿八日申渡

山梨縣甲斐國春日町二十七

番地寄留同縣同國東山梨郡

後屋敷村平民政信弟

三 富 義 鏡

明治十五年十月三十一年三月

右義鏡カ被告事件ニ付明治十三年十月十四日靜岡裁判所甲府支廳ニ於テ被告義鏡ハ田地ヲ重典賣シタルモノト認定シ戸婚律重典賣田宅條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ贓金百二十圓以上懲役十年ノ處一罪先ニ發シ已ニ懲役一年處刑中ナルヲ以テ二罪俱發例ニ依リ其一年ヲ除棄シ懲役九年申付ルトノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十三年十月十六日上告ヲ爲シタルニ依リ明治十三年十一月二十五日大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下

セラレ已ニ裁判確定セシ處被告義鏡ニ於テ治罪法第四百三十九條ノ手續ニ從ヒ明治十六年三月二十八日付ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判官判事補杉本朔ハ賄賂ヲ收受シ共犯者保坂新造等ト通謀シ同人ノ口供ヲ變造シ以テ其主犯タル新造ヲ從犯トナシ却テ從犯タル被告ヲ主犯トナシタルノミナラス被告ニ於テハ金員連借及ヒ保證人タルノ義務アルモノナレハ無罪者ニシテ新造ニ懲役十年言渡サ、ルハ不法ノ裁判ナリト辨疏スルニ在リ

本院檢事長渡邊驥ハ三富義鏡カ再審ノ訴旨ハ治罪法第四百三十九條中第一ヨリ第五マテニ明示スル再審ヲ爲スニ付之ヲ證明スヘキノ理由ニ適合スル所ノモノ一モ無之ヲ以テ本訴ハ無論棄却アルヘキモノトノ意見書ヲ差出セリ仍テ大審院會議局ニ於テ判決スル左ノ如シ

抑再審ノ訴ハ治罪法第四百三十九條ノ各項ニ適合スル原由アルニアラサレハ之ヲ爲シ得ヘカヲサルモノナリ今被告カ訴出ノ旨趣ハ擔任裁判官カ賄賂ヲ收受シ爲メニ無罪ノ被告ヲ有罪トシ刑ノ言渡ヲサレタルハ不當ナリト云フニ過キス其證據トシテ一號乃至十號ノ書類ヲ提出スト雖ヒ先キニ裁判ヲ受ケタル判文及共犯者ノ口供等ニ止リテ一モ治罪法第四百三十九條第一ヨリ第五項ニ適當スルモノ之ナキニ依リ本案ハ再審ノ原由アラサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ本訴ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第一千三百五十四號

○判文〔官林盜伐ノ件〕明治十六年六月十五日上告

同 十六年九月廿八日申渡

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大
村平民

荻田 龜太郎

明治十六年四月
五十七年十一月

右龜太郎カ被告事件ニ付明治十六年四月十日九龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高
松支廳於テ被告ハ官地ニ生立スル松木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第三百
七十六條ニ依リ重禁錮二月監視八月ニ附ス贓品ハ被害者ヘ還付セシメ犯罪ノ用ニ供シタル
鋸ハ沒收スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉於テ再審ノ訴ヲ爲
シタルノ要旨ハ被告カ代探セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戶長藤田富造筆生
山本鹿太郎於テ盜難届ヲ爲シタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡ヲ受ケルニ至リ
タルモ戶長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩キノ盜難届取消シテ届出テ併テ乙丙丁戊己號ノ徵
憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告カ
所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ原由アルモノト思料シ之カ訴ヲ爲スト云フニ在リ茲ニ
大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ
本件ヲ審按スルニ戶長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防
ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通被告ノ所有地ニシテ官有地ノ
證憑ナキヲ舊戶長藤田富造及戶長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタルモ
ノナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明セリ又乙丙號證ヲ觀ルニ被

告カ所有地タル地券狀寫丁號證ハ被告カ該地ヲ曩キノ買受タル證書其他戊己號證ハ該地
圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告カ明治十五年十二月中伐採シタル松木ハ官有地ニ繁茂
セシモノニアラスシテ被告所有地ニ係レルモノナルヲ證明スルニ足ルヘキ公正ノ證書ナ
リト認ムルヲ以テ舊戶長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タルヲ明確ナリ故ニ
本訴ハ治罪法第四百三十九條第五項ニ定メタル再審ノ原由アルモノト判定ス因テ同第四
百四十五條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシム
ルモノ也

大審院會議局ニ於テ判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大
村平民

藤田 勇八

明治十六年五月
四十九年

右勇八カ被告事件ニ付明治十六年五月一日九龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高松
支廳於テ被告ハ官地ニ生立スル樹木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第三百七
十六條ニ依リ重禁錮一月監視六月ニ附スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補
澤原宜貞吉於テ再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノ
ト誤認シ舊戶長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲ爲シタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セ
ラレ刑ノ言渡ヲ受ケルニ至リタルモ戶長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩キノ盜難届取消シテ

届出テ併テ乙丙丁戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ原由アルモノト思料シ之カ訴ヲ爲スト云フニ在リ茲ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通被告ノ所有地ニシテ官有地ノ證憑ナキヲ舊戸長藤田富造及戸長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタルモノナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明セリ又乙丙號證ヲ觀ルニ被告カ所有地タル地券狀寫丁號證ハ被告カ該地ヲ曩キニ買受タルノ證書其他戊己號證ハ該地圖並郡書記實地臨檢書ニシテ被告カ明治十六年二月中伐採シタル樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノニアラスシテ被告所有地ニ係レルモノナルヲ證明スルニ足ルヘキ公正ノ證書ナリト認ムルヲ以テ舊戸長筆生等カ曩キニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タルヲ明確ナリ故ニ本訴ハ治罪法第四百三十九條第五項ニ定メタル再審ノ原由アルモノト判定ス因テ第四百四十五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ラニ審判セシムルモノ也

大審院會議局ニ於テ判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大村平民

德

永

貞

造

明治十六年四月二十八日

右貞造カ被告事件ニ付明治十六年四月廿六日丸龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ被告ハ官地ニ生立スル樹木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第八十五條第八十六條第三百七十六條ニ依リ重禁錮十五日監視六月ニ附スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉於テ再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戸長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲナシタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタルモ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩ノ盜難届取消シテ併テ乙丙丁戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ原由アルモノト思料シ之カ訴ヲ爲スト云フニ在リ此ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通り被告ノ所有地ニシテ官有地ノ證憑ナキヲ舊戸長藤田富造及戸長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタルモノナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明セリ又乙丙號證ヲ觀ルニ被告カ所有地タル地券狀寫丁號證ハ被告カ該地ヲ曩ニ買受タルノ證書其他戊己號證ハ該地圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告カ明治十六年二月中伐採シタル樹木ハ官有地ニ繁茂

セシモノニアラスシテ被告所有地ニ係レルモノナルヲ證明スルニ足ルヘキ公正ノ證書ナ
リト認ムルヲ以テ舊戸長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タルヲ明確ナリ故ニ
本訴ハ治罪法第四百三十九條第五項ニ定メタル再審ノ原由アルモノト判定ス因テ同法第
四百四十五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモ
ノ也

大審院會議局ニ於テ判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大
村平民

下 川

明治十六年四月
四十六年

同縣同國同郡同村平民

下 川

明治十六年四月
三十一年九月

右ノ外一名カ被告事件ニ付明治十六年四月十二日九龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁
判所高松支廳ニ於テ被告等ハ官地ニ生立スル樹木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十
三條第三百七十六條ニ依リ各重禁錮二月監視八月ニ附ス贓品ハ被害者へ還付セシメ犯罪ノ
用ニ供シタル鏝ハ沒収スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉於テ
再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告等カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戸

長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲ爲シタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡
ヲ受ルニ至リタルモ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩ノ盜難届取消シテ届出テ併テ乙丙丁
戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セシモノニアラスシ
テ右被告等所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ原由アルモノト思料シ之ヲ訴ヲ爲スト云フ
ニ在リ茲ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ
如シ

本件ヲ審按スルニ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防
ノ樹木ヲ被告等カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通被告等ノ所有地ニシテ官有
地ニ証憑ナキヲ舊戸長藤田富造及ヒ戸長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シ
タルモノナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明セリ又乙丙號證ヲ觀
ルニ被告等カ所有地タル地券狀寫丁號証ハ被告等カ該地ヲ曩ニ買受タルノ証書其他戊己
號証ハ該地圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告等カ明治十六年四月四日伐採シタル樹木ハ
官有地ニ繁茂セシモノニアラスシテ被告等所有地ニ係レルモノナルヲ證明スルニ足ルヘ
キ公正ノ證書ナリト認ムルヲ以テ舊戸長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タル
ヲ明確ナリ故ニ本訴ハ治罪法第四百三十九條第五項ニ定メタル再審ノ原由アルモノト判
定ス因テ同法第四百四十五條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移
シ更ニ審判セシムルモノ也

大審院會議局ニ於テ判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大

村平民

荻田 德之助

明治十六年四月

三十四年六月

右德之助カ被告事件ニ付明治十六年四月二十七日九龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ被告ハ官地ニ生立スル樹木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第八十五條第八十六條第七十條第三百七十六條ニ依リ重禁錮十五日監視六月ニ附スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉於テ再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戶長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲナシタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタルモ戶長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩ノ盜難届取消シテ届出テ併テ乙丙丁戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ原由アルモノト思料シ之レカ訴ヲ爲スト云フニ在リ此ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ戶長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通り被告ノ所有地ニシテ官有地ノ證憑ナキヲ舊戶長藤田富造及戶長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタルモノナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明ヒリ又乙丙號證ヲ觀ルニ

被告カ所有地タル地券狀寫丁號證ハ被告カ該地ヲ曩ニ買受タルノ證書其他戊己號證ハ該地圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告カ明治十六年三月以來伐採シタル樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノニアラスシテ被告所有地ニ係レルモノナルヲ證明スルニ足ルヘキ公正ノ證書ナリト認ムルヲ以テ舊戶長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出テタルヲ明確ナリ故ニ本訴ハ治罪法第四百三十九條第五項ニ定メタル再審ノ原由アルモノト判定ス因テ同法第四百四十五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシムル者也

於大審院會議局判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大

村平民

荻田 權左衛門

明治十六年四月

三十七年四月

右權左衛門カ被告事件ニ付明治十六年四月二十六日九龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高松支廳於テ被告ハ官地ニ生立スル樹木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第八十五條第八十六條第三百七十六條ニ依リ重禁錮十五日監視六月ニ附スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉於テ再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戶長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲナシタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタルモ戶長代理用掛宮武國

彦ヨリ更ニ曩ノ盜難届取消シテ併テ乙丙丁戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ原由アルモノト思料シ之カ訴ヲ爲スト云フニ在リ此ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通被告ノ所有地ニシテ官有地ノ證憑ナキヲ舊戸長藤田富造及戸長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタル者ナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明セリ又乙丙號證ヲ觀ルニ被告カ所有地タル地券狀寫丁號證ハ被告カ該地ヲ曩ニ買受タルノ證書其他戊己號證ハ該地圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告カ明治十六年一月中伐採シタル樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノニアラスシテ被告所有地ニ係レルモノナルコト證明スルニ足ルヘキ公正ノ證書ナリト認ムルヲ以テ舊戸長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タルコト明確ナリ故ニ本訴ハ治罪法第四百二十九條第五項ニ定メタル再審ノ原由アルモノト判定ス因テ同法第四百四十五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也
大審院會議局ニ於テ判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大
村平民

萩 田 儀 平

明治十六年四月
五十一年三月

右儀平カ被告事件ニ付明治十六年四月二十六日九龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高松支廳於テ被告ハ官地ニ生立スル樹木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第八十五條第八十六條第三百七十六條ニ依リ重禁錮十五日監視六月ニ附スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉於テ再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戸長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲナシタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタルモ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩ノ盜難届取消シテ併テ乙丙丁戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ原由アルモノト思料シ之カ訴ヲ爲スト云フニ在リ此ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通被告ノ所有地ニシテ官有地ノ證憑ナキヲ舊戸長藤田富造及戸長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタルモノナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明セリ又乙丙號證ヲ觀ルニ被告カ所有地タル地券狀寫丁號證ハ被告カ該地ヲ曩ニ買受タルノ證書其他戊己號證ハ該地圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告カ明治十六年一月中伐採シタル樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノニアラスシテ被告所有地ニ係レルモノナルコト證明スルニ足ルヘキ公正ノ證書ナリ

ト認ムルヲ以テ舊戸長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タルヲ明確ナリ故ニ本訴ハ治罪法第四百三十九條第五項ニ定メタル再審ノ理由アルモノト判定ス因テ同法第四百四十五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

大審院會議局ニ於テ判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大村平民

荻

田

才

助

明治十六年四月二十八日

右才助カ被告事件ニ付明治十六年四月二十七日九龍治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ被告ハ官地ニ生立スル樹木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第八十五條第八十六條第七十條第三百七十六條ニ依リ重禁錮十五日監視六月ニ附スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉於テ再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戸長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲナシタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタルモ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩ノ盜難届取消シヲ届出テ併テ乙丙丁戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ理由アルモノト思料シ之カ訴ヲ爲スト云フニ在リ此ニ大審院會議局ニ於テ專任

判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號証ヲ閱スルニ財田川筋堤防ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通被告ノ所有地ニシテ官有地ノ証憑ナキヲ舊戸長藤田富造及戸長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタル者ナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨証明セリ又乙丙號証ヲ觀ルニ被告カ所有地タル地券狀寫丁號証ハ被告カ該地ヲ曩ニ買受タルノ証書其他戊己號証ハ該地圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告カ明治十六年二月中伐採シタル樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノニアラスシテ被告所有地ニ係レルモノナルヲ証明スルニ足ルヘキ公正ノ証書ナリト認ムルヲ以テ舊戸長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タルヲ明確ナリ故ニ本訴ハ治罪法第四百三十九條第五項ニ定メタル再審ノ理由アルモノト判定ス因テ同法第四百四十五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

大審院會議局ニ於テ判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大村平民

荻

田

芳

次

郎

明治十六年四月二十九日

同縣同國同郡同村平民

荻

田

寅

造

二三四
明治十六年四月
四十二年

右芳次郎外一名カ被告事件ニ付明治十六年四月十二日九龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ被告等ハ官地ニ生立スル松木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第三百七十六條ニ依リ各重禁錮一月監視六月ニ附スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉於テ再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告等カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戶長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲ爲シタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタルモ戶長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩ノ盜難届取消シテ届出テ併テ乙丙丁戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告等所有地ニ係レルヤ明ナリ因テ再審ノ理由アルモノト思料シ之カ訴ヲ爲スト云フニ在リ茲ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審接スルニ戶長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通被告等ノ所有地ニシテ官有地ノ證憑ナキヲ舊戶長藤田富造及戶長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタルモノナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明セリ又乙丙號證ヲ觀ルニ被告等カ所有地タル地券狀寫丁號證ハ被告等カ該地ヲ曩ニ買受タルノ證書其他戊己號證ハ該地圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告等カ明治十五年十二月十八日伐採シタル松木ハ官有地ニ繁茂セシモノニアラスシテ被告等所有地ニ係レルモノナルヲ證明スルニ足ルハ

キ公正ノ證書ナリト認ムルヲ以テ舊戶長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タルヲ明確ナリ故ニ本訴ハ治罪法第四百三十九條第五項ニ定メタル再審ノ理由アルモノト判定ス因テ同法第四百四十五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也
大審院會議局ニ於テ判決ス

愛媛縣讚岐國三野郡本ノ大
村平民

大 森 和 造
明治十六年四月
十九年二月

右和造カ被告事件ニ付明治十六年四月二十八日九龜治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ被告ハ官地ニ生立スル雜木ヲ盜伐セシモノト判定シ刑法第三百七十三條第八十一條第八十五條第七十條ニ依リ拘留十日ニ處スト言渡シタル裁判確定ノ後同裁判所檢察官警部補澤原宜貞吉ニ於テ再審ノ訴ヲ爲シタルノ要旨ハ被告カ伐採セシ樹木ハ官有地ニ繁茂セシモノト誤認シ舊戶長藤田富造筆生山本鹿太郎於テ盜難届ヲ爲シタルニ起因シ遂ニ有罪ト信認セラレ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタルモ戶長代理用掛宮武國彦ヨリ更ニ曩ノ盜難届取消シテ届出テ併テ乙丙丁戊己號ノ徵憑書類ヲ提出セシニ付仍ホ實地ヲ檢スルニ全ク官地ニ繁茂セルモノニアラスシテ右被告等所有地ニ係レルヤ明ナリ依テ再審ノ理由アルモノト思料シ之カ訴ヲ爲スト云フニ在リ茲ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長

ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ戸長代理用掛宮武國彦ヨリ差出シタル甲號證ヲ閱スルニ財田川筋堤防ノ樹木ヲ被告カ伐採シタル箇所ヲ調査スルニ地券狀寫ノ通被告ノ所有地ニシテ官有地ノ證憑ナキヲ舊戸長藤田富造及ヒ戸長代理筆生山本鹿太郎等ノ誤認ヨリ盜伐届ヲ爲シタルモノナレハ曩ニ右兩人ヨリ捧呈シタル届書ハ取消サレ度旨證明セリ又乙丙號證ヲ觀ルニ被告カ所有地タル地券狀寫丁號證ハ被告カ該地ヲ曩ニ買受タルノ證書其他戊己號證ハ該地圖并郡書記實地臨檢書ニシテ被告カ明治十六年二月中伐採シタル雜木ハ官有地ニ繁茂セシモノニアラスシテ被告所有地ニ係レルモノナルヲ證明スルニ足ルヘキ公正ノ證書ナリト認ムルヲ以テ舊戸長筆生等カ曩ニ差出シタル盜難届ハ錯誤ニ出タルヲ明確ナリ故ニ本訴ハ治罪法第四百二十九條第五項ニ定メタル再審ノ原由アルモノト判定ス因テ同法第四百四十五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

大審院會議局ニ於テ判決ス

第一千三百五十五號

○判文(騙取證書) 明治十五年十二月十一日上告
同 十六年九月廿九日發付

栃木縣下野國河内郡下田原

村平民農

早 瀬 孫 平

明治十五年八月
三十三歲

明治十五年八月三十一日宇都宮輕罪裁判所ニ於テ右早瀬孫平カ證書騙取被告事件ヲ審判シ犯罪ノ證憑ナキヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ナリトシ放免スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補吉野信三ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人カ大島平作妻「イト」ヲ脅迫シテ其組合タル池田伊三郎外六名連署ノ借用金證書ヲ騙取シタル事實證憑明白ナルニ原裁判所ニ於テ犯罪ノ證憑ナシト認定シタルハ不當ナリ又原裁判所カ孫平ニ於テ果テ騙取シタルモノトスルモ其證書ヲ以テ田中卯之吉ヨリ金圓ヲ借受ケ平作ノ負債ヲ辨償セシニ因リ無罪ナリト爲シタルニ至テハ實ニ解シ得ル能ハサル判決ト謂ハサルヲ得ス之ヲ譬フルニ他人ノ金員ヲ竊取シ自己ノ勝手ヲ以テ其被害者ノ爲メニ費消セシトテ之ヲ不問ニ置クト一般ナリ要スルニ原裁判ハ採用ス可キ證憑ヲ棄斥シテ輒ク無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

被告事件ニ付諸般ノ證憑ヲ採擇取捨シテ犯罪ノ有無ヲ決スルハ專ラ裁判官ノ判定ニ任從スル所ナレハ事實上ニ對シ當否ヲ論告スルヲ得スト雖モ其判定シタル事實理由ノ齟齬アル者ニ至テハ破毀シテ釐正セサル可カラズ本案事件ノ如キ是ナリ原裁判言渡書ヲ檢案スルニ前段ニハ被告人カ大島平作妻「イト」等ヨリ證書ヲ請取ルニ當リ恐喝又ハ欺罔ノ所爲アリヤ否ヤ信認シ難シトアリテ犯罪ノ證憑充分ナラストノ理由ヲ述ヘタルモ其中段ニ至リ然レ共若シ果シテ該證書ハ早瀬孫平ノ騙取ニ出タルモノトスルモ孫平ニ於テ之ヲ以

テ田中卯之吉ニ借金シ大島平作ノ負債ヲ辨償シ了ルハ參考人等ノ陳述ニ依リ明白ナリト
アルニ依レハ證書ヲ騙取シタリト認メタルモノ、如シ果シテ騙取ニ出タリトスル時ハ既
ニ犯罪ノ成立タルモノナルニ猶ホ罪ノ問フ可キナシト判定シタルハ即チ事實理由ノ齟齬
アル不法ノ裁判ト謂ハサルヲ得ス故ニ上告書中言渡ノ理由不當ナルヲ指斥シ無罪ノ證ト
爲スヲ得スト論辯スルハ其旨趣正當ニシテ原裁判ハ治罪法第四百十條九項ノ場合ニ適
當スル破毀ノ原由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ本案破
告事件ヲ水戸輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス
第千三百五十六號

○判文(限月米賣買ノ件)明治十五年十二月十二日上告
十六年九月廿九日中渡

山形縣羽前國西田川郡鶴岡

七日町平民

齋藤

庄藏

同縣同國同郡同所上肴町士族

田花

慶太郎

明治十五年八月
二十一年九月

同縣同國同郡同所南町平民

伊藤

善六

明治十五年八月
四十年

同縣同國同郡同所同町平民

宇三郎隱居

三浦

右衛門

明治十五年八月
四十五年三月

同縣同國同郡同所泉町士族

安藤

武憲

明治十五年八月
四十三年四月

同縣同國東田川郡横山村平民

大田

右衛門

明治十五年八月
五十九年五月

同縣同國同郡東堀越村平民

齋藤

增治

明治十五年八月
四十七年二月

同縣同國西田川郡鶴岡八軒

二二九

町士族

小島 義永 明治十五年八月

同縣同國同郡同所家中新町

士族

高田 吉則 明治十五年八月

同縣同國東田川郡藤岡村平

民

山口 甚太郎 明治十五年八月

同縣同國西田川郡鶴岡八坂

町士族

茂木 惟一 明治十五年八月

同縣同國同郡青山村平民

佐藤 吉郎 明治十五年八月

三十三年

米穀限月賣買被告事件ニ付明治十五年八月十七日酒田輕罪裁判所ニ於テ齋藤庄藏伊藤善六
 小島義永高田吉則ニ對シ明治十三年第二十一號布告ニ依リ各罰金十二圓五十錢三浦宇右衛
 門安藤武憲太田與右衛門齋藤增治山口甚太郎ハ各罰金十五圓ニ處シ田花慶太郎ハ其宅舎ヲ
 給與シタルヲ以テ同布告ニ依リ罰金十二圓五十錢茂木惟一ハ其帳簿書記ヲ爲シタルヲ以テ
 罰金十圓ニ處スト言渡シ同月二十一日佐藤吉郎ニ對シ限月賣買ヲ爲シタルヲ以テ罰金十五
 圓ニ處スト言渡シタル被告八十二名ハ其裁判ニ服セス各自上告ヲ爲シタルノ要旨ハ被告人
 等ニ於テ米穀限月賣買ヲ爲シ又ハ其場所ヲ給與シ及ヒ帳簿書記ヲ爲シタルノ事實ナキニ因
 リ隨テ犯罪ノ證據アルヘキ理由ナシ然ルニ原裁判所ハ單ニ告發人證人ノ申立ヲ信認シ犯則
 ニ關スル充分ノ證據及ヒ有罪タルノ理由ヲ明示セスシテ臆測誤認ノ裁判ヲ與ヘラレタルハ
 不法ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判
 決スルノ左ノ如シ

原裁判所ニ於テ被告人等ヲ以テ有罪ナリト爲シタルハ告發人ノ訴狀警察署ノ送致書及ヒ
 現場ヲ目撃セシ證人ノ陳述ニ據リ事實ヲ認定シタル者ニシテ言渡書ニ其事實證據ヲ明示
 シ之ヲ法律ニ照シ處斷シタルハ固ヨリ相當ノ裁判ニシテ毫モ違法ノ廉アルニアラス然ル
 ニ被告人等ハ其裁判ニ不服ノ旨ヲ訴フルト雖ヒ徒ラニ事實證據ノ有無ヲ陳辨シ裁判官カ
 認定ノ當否ヲ論告スルニ過キスシテ治罪法四百十條ノ各項ニ定メタル上告ヲ爲スヲ得
 ルノ理由ナキニ因リ上告ノ旨趣總テ相立サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス
第千三百五十七號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月十三日上告
同 十六年九月廿九日申渡

青森縣陸奥國中津輕郡弘前
住吉町山村篤井方同居平民

毛 内 千代之進

明治十五年九月

竊盜被告事件ニ付明治十五年九月十三日弘前輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮一年監視二年ノ刑ヲ言渡タル裁判ニ服セス毛内千代之進ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人ハ他人ノ所有物ヲ竊取シタル者ニ非サルニ因リ刑法第三百六十六條ノ刑ヲ受ク可キ理由ナシ又被告人ノ所持セシ物品ハ他人ノ被盜品ナリトスルモ被告人カ竊取セシ證據アルニ非ス然ルニ竊盜ノ罪アリト斷定セラレタルハ不法ニシテ事實ノ理由齟齬アル者ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルノ左ノ如シ
被告事件ニ付諸般ノ證據ヲ採擇シテ犯罪ノ有無ヲ決スルハ專ラ裁判官ノ判定ニ任從スル所ナレハ其判定シタル事實ニ對シ他ヨリ其當否ヲ論告スルコトヲ得サルモノトス本件ノ如キハ原裁判所ニ於テ被害者及ヒ各證人ノ陳述等ニ依リ被告人カ竊盜ノ所爲アリト認定シタルモノニシテ其言渡書ニ明示シタル事實及ヒ法律ノ理由毫無齟齬不當ノ廉アルニ非ス而シテ上告ノ旨趣ハ徒ニ竊盜ノ所爲ナシト陳述シ事實ノ覆審ヲ請願スルニ過キスニテ治

罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル上告ヲ爲スコトヲ得ルノ理由ナキニ因リ上告ノ效ナシト判定シ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千三百五十八號

○判文〔決水犯ノ件〕明治十五年十二月十四日上告
同 十六年九月廿九日發付

熊本縣肥後國菊池郡高島村

平民農

野 田 德五郎

明治十五年十月

五十二歲

明治十五年十月廿四日山鹿治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ右德五郎カ決水犯ノ被告事件ヲ審判シ刑法第四百十三條ニ依リ重禁錮一月罰金二圓ニ處斷セリ
德五郎ハ右裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ニ於テ字田中田井手ヲ切落シ田地ノ養水ヲ害シタリトノ證據何レニ在ルヤ見證人モ被告カ切落シタルヲ見認メタルニ非スト言ヘリ然ハ告訴ハ誣告ナリ又被告ヨリ村民ニ差入レタル證書ハ村民二十名餘ノ者ヨリ追ラレテ差出シタルモノニシテ壓制ニ成リシ證書ナリ然ルニ被告ヲ有罪ト判定セラレタルハ不當ナリト云ニ在リ

依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

凡ソ諸般ノ證據ヲ採擇シ事實如何ヲ判定スルハ事實裁判官ノ權内ニ屬スル者トス今原裁

判言渡書ヲ見ルニ警部補ノ辨明巡查ノ臨檢調書及ヒ證人田代惣四郎ノ陳述戸長ノ保證書
被告人ノ證書ニ據リ云々ト其採用シタル各種ノ證據ヲ舉示シ而テ該犯罪ノ事實アルヲ判
定シタル者ニシテ毫モ不法ノ點アルコトナシ而シテ上告ノ論旨ハ之ニ對シ徒ニ不服ヲ鳴ラス
ニ過キサレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第一千三百五十九號

○判文(印影盜用ノ件)明治十五年十二月廿五日上告
十六年九月廿九日申渡

山梨縣甲斐國中巨摩郡押原

村平民農業

小宮山大右衛門

明治十五年九月

二十七年三月

印影盜用證書偽造詐欺取財被告事件ニ付明治十五年九月十六日甲府輕罪裁判所カ刑法第三
條ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ其輕キ同第三百九十條ニ依リ五月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判
ニ服セス上告セリ其要領ハ曾テ野澤久米太郎へ貸與へ置キタル金員返濟ヲ督促セシニ久米
太郎實弟半次郎ノ後見ヲ爲シ居ルヲ以テ一家協議ノ上半次郎ノ所有地ヲ抵當トシ金員ヲ他
借シ返償ニ充ント其金策周旋ヲ頼マレ久米太郎共ニ甲府融通社ニ至リ本人野澤半次郎ハ不
在ニ付久米太郎代人ナル旨ヲ以テ談判ヲ爲シ証券差入金員借り受ケ被告大右衛門カ返濟ヲ

受ケタルモノニテ決シテ不正ヨリ成立タルニアラサルニ原裁判所ハ半次郎カ印影ヲ盜用シ
證書ヲ偽造シ金員ヲ詐取シタル首犯ナリトシ處斷セラレタルハ不法ナリト云フニアリ
對手人檢事補澁谷孝世ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判所モ不當ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處双方協議ノ上半次郎ノ所有地ヲ抵當ト爲シタルモノニテ不正ヨリ成
立タルニ非スト云フモ各種ノ証憑ヲ取捨シ之カ事實ヲ認定スルハ原裁判所ノ職權内ナレ
ハ其認定セシ事實當否ヲ論難スルモ破毀ヲ求ムル原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法
第四百十條第一ニヨリ第十一ニ至ル定規ニ適當セサレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タス
右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第一千三百六十號

○判文(恐喝未得財ノ件)明治十五年十二月廿六日上告
十六年九月廿九日申渡

滋賀縣近江國栗太郡南笠村

居住平民農業

岡田與兵衛

明治十五年十月

六十一歲

恐喝未得財被告事件ニ付明治十五年十月十八日大津輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ハ曾
テ木下「イヲ」へ賣渡シタル田畑賣渡證書ヲ恐喝シテ取戻シ而シテ該證書ヲ以テ山本仁兵衛

ニ係リ借金返濟田地取戻シト題シ大津始審裁判所へ出訴シ意ノ如ク裁判ヲ受ケ未ダ執行セ
 カル犯罪ナリト判定シ「イテ」ニ對スル所爲ハ新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ
 依リ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ノ輕ニ從ヒ賊盜律恐喝取財條ニ依リ竊盜未得財ニ準シテ論シ一
 等ヲ加ヘ懲役五十日ニ該リ仁兵衛ニ對スル所爲ハ刑法第三百九十條同第三百九十七條同第
 百十二條ニ照シ處斷スヘキ處ニ罪俱發ナルヲ以テ刑法第三百條末項ニ從ヒ第二ノ所犯ヲ重ト
 シ重禁錮一年罰金十圓ニ處シ仍ホ刑法第三百九十四條ニ依リ監視一年ヲ附加セリ
 被告岡田與兵衛ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シ其趣意ヲ四條ニ開列セリ其第一條第二條ハ本件
 實際ノ手續キ事實ノ理由ヲ痛論シ到底無罪ニ歸スヘキ者ナリト述ヘ其第三條ハ假ニ原裁判
 官ノ認定ヲ相當ナリトスルモ其裁判ハ治罪法第四百十條第九項第十項ニ適當ナル破毀ノ原
 由アル旨ヲ陳辨セリ其言ニ曰夫レ上告人カ山本仁兵衛ニ係リ田畑取戻シノ請求ヲ爲セシハ
 明治十四年一月中其端ヲ開キ大津區裁判所ニ勸解ヲ出願シ同年十一月中田地橫掠ノ告訴ヲ
 爲シタリ故ニ本件ヲ惡意アルモノトスルモ其罪跡ハ既ニ明治十四年中ニ在レハ舊法ノ輕ニ
 從ヒ處斷アルヘキ者ナリ然ルニ單ニ刑法ニ依リタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ其第四條ハ上告
 者カ木下「イテ」ヨリ田地賣渡證書ヲ取戻シタルヲ恐喝ニ出タル者ノ如ク裁判セリ抑恐喝ト
 ハ其動作人チシテ充分畏懼ノ念チ生セシムヘキ者ヲ指シテ例セハ汝云々セサレハ身
 首所チ異ニス可シ家屋財産ヲ灰燼ニス可シ等ノ類ヲ云フ條理人情ニ於テ畏懼ス可カラサル
 場合ニ在テハ如何ニ危險ノ言行ヲ爲スモ法律上恐喝ト名ク可キ者ニアラサルナリ今原裁判
 所カ被告事件ヲ恐喝ナリト認メタルハ屢木下「イテ」方ニ至リ田畑賣渡證書ノ遺殘ナル旨ヲ

述ヘ其返戻ヲ促シ若シ其言ヲ聽カサルトハ官裁ヲ仰キ他ノ田地ヲモ併セテ之ヲ取戻ス可シ
 ト陳言セシノモノナリ故ニ原裁判言渡書ニ「明治十四年七月以來屢木下「イテ」方ニ到リ
 明治十年八月廿二日付其方ヨリ「イテ」ヘ差入タル田畑賣渡證ハ遺殘ノモノニ付之ヲ差戻サ
 レハ其筋へ出訴シ同人カ手ニ在ル字三倉田ヲモ共ニ引上ケ可ク杯ト恐喝シ」云々トアリ
 此所爲タルヤ條理ニ照シ人情ニ問フモ毫モ人チ畏懼セシムヘキ者ニアラス何トナレハ假令
 法術ニ起訴スルモ條理ヲ以テ之ヲ辨明スレハ理非曲直判然ス可レハナリ何ソ畏懼ノ念ヲ生
 スルニ足ランヤ然ルヲ恐喝ナリト判定セシハ即チ治罪法第四百十條第九項ニ所謂事實理由
 ノ齟齬アル者ナリ以上ノ原由ニ依リ原裁判破毀アランヲ求ムト對手人檢事補久保覺郎ハ
 上告第三條ニ論辨スル所ハ刑法第三條後項ノ解釋上一ニ歸着セリ夫レ該法ノ精神タル其願
 布以前ヨリ願布後ニ繼續シテ犯シタル者ニ適用スヘキ意ニアラスシテ全ク願布以前ノ犯罪
 ニシテ願布後裁判スヘキ場合ニ適用スヘキチ云フナリ又第四條ハ恐喝ノ所爲ニアラスト言
 フト雖モ被害者「イテ」ハ婦女ニシテ連日其家ニ坐シ證書取戻ノ事ヲ追促シ若シ渡サ、ルニ
 於テハ「イテ」カ所有地ヲモ取戻スヘキ道アリトノ言ハ尋常平易ノ所爲ト云フ可ラサレハ固
 ヲリ恐喝取財タルヲ免レストノ旨ヲ答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ上告ノ要旨タル第一恐喝シ
 テ證書ヲ騙取シタルヲナシ第二若シ被告ハ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタリトスルモ明治十四年ヨ
 リ同十五年迄繼續シタル所爲ナレハ舊法ノ輕キニ從ヒ處斷ス可キ者ナリト云フノ二點ニ過
 キス其第一理由ハ徒ニ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フル者ナレハ固ヨリ上告ノ理由ト爲ス可

キ者ニ非ズ第二理由ハ畢竟法律ヲ誤解シタルニ出テタル者ナレハ當然上告ヲ棄却アレシ
テ望ムト辨明セリ仍テ判決スルヲ左ノ如シ

本案上告第一條第二條ニハ事實ヲ論辨シテ被告事件無罪ナル理由ヲ主張スト雖モ徒ニ口
頭ノ陳述ノミナレハ固ヨリ採ルニ足ラサルモノトス其第三條ハ犯罪ノ起頭明治十四年ニ
在テ其結局明治十五年ニ至リタル者ナレハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從テ處斷ス可キ
者ト言フト雖モ凡繼續犯罪ニ就テハ其最終ノ日ヲ以テ處斷ヲ爲スヘキハ勿論本案被告人
カ田地取戻シ又ハ横掠等ノ事ヲ以テ勸解ヲ願出告訴ヲ爲シタルヲアリトスルモ之ヲ以テ
未タ犯罪ヲ構造シタル者ト言フ可ラス其最終民事裁判上勝訴ト爲リタル日即チ明治十五
年二月二日ヲ以テ犯罪ノ成立タル者トス故ニ原裁判官カ大津始審裁判所ニ於テ意ノ如ク
裁判ヲ受ケタルモ未タ執行セサルヲ以テ詐欺取財ノ未遂犯ナリト判定シ單ニ刑法第三百
九十條同第三百九十七條ヲ適用シタル所以ナレハ其裁判ヲ不當ナリト爲スチ得ス其第四
條ハ木下「イチ」ニ對シ爲シタル談判ハ恐喝ニアラスト辨說スレハ裁判官カ必證ニ資リ認
定シタル事實ハ之ヲ動カスニ由シナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第一千三百六十一號

○判文(私印偽造ノ件) 明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年九月廿九日申渡

山形縣羽前國東田川郡余目

村平民

佐藤 金之助

年齡不詳

右金之助カ私印並ニ證書偽造被告事件豫審終結免訴ノ言渡ニ對シ檢事補飯田直行ハ酒田輕
罪裁判所書記局ニ故障申立ヲ爲シタル處明治十五年十月九日同裁判所會議局ニ於テ故障ノ
理由ナキモノトシ豫審終結ノ言渡ヲ認可セシ裁判ヲ不當ナリトシ右飯田直行ハ上告ヲ爲シ
タリ其要領ハ被告ハ罪ヲ犯サントシテ既ニ其事ヲ行ヒタルモ意外ノ障礙ニ據リテ遂ケサリ
シ者ニテ豫備ヲ爲シタル耳ニアラス其犯罪ノ所爲ニ在テハ被告自ラ佐藤房吉ヲシテ佐藤松
右衛門父良助ノ實印ヲ摸擬彫刻セシメ又醬油八拾石ノ預リ證券ヲ偽造シ該偽印ヲ松右衛門
名下ニ押捺シ完全有効證ニ擬シ行使スルニ先チ松右衛門ノ聞知スル所ト爲リ詰問ヲ受ケ之
ヲ遂クル能ハサリシモノナレハ刑法第二百八條及ヒ第二百十條第二百一十一條ニ依リ未遂犯
罪ノ例ニ照シ其重キ第二百八條ノ刑ヲ減輕シテ處斷スヘキモノタリ然ルニ會議局ニ於テハ
犯罪ノ豫備ヲナシタルモノトシ豫審掛カ免訴シタル終結言渡ヲ認可セシハ擬律ノ錯誤ニ出
テタル判決ナリト云フニ在リ被告金之助ハ會議局ノ判決相當ナリト答辨ヲ爲セリ此ニ專
任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
被告ハ佐藤松右衛門父良助ノ實印ヲ偽造シ醬油八十石松右衛門ヨリ被告ニ受取ルヘキ預
リ證書ヲ認メ松右衛門名下ニ該偽印ヲ押用シタル所爲ヲ松右衛門ノ聞知スル處トナリ詰
問ヲ受クルニ當リ大沼健之助ヨリ貸金ノ抵當ニ受取タル證書ナリト主張シ相拒ミタル事

實ハ告訴狀及ヒ被告ノ供述其他ノ各調書ニ徴シ明カニシテ事實裁判官ニ於テ確認スル所ナリ是即チ豫備ノ區域ヲ脱シ執行ニ着手セシモノニシテ未遂犯罪ナルニ原裁判官ニ出テス豫審免訴ノ言渡ヲ認可セシハ不當ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判官ヲ破毀シ適當ノ判決ヲ受ケシムル爲メ福島輕罪裁判所ニ移ス者也
大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第千三百六十二號

○判文(證書増減變換ノ件)明治十五年十二月廿七日上告
十六年九月廿九日申渡

和歌山縣紀伊國名艸郡山口
西村居住平民農業

飯田 久之

明治十五年九月
二十三歲五ヶ月

證書ヲ増減變換シタル被告事件ニ付明治十五年九月十一日大坂輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ハ養女引戻シ告訴ノ依頼ヲ受ケ奥田「ウタ」若津明道ヨリ受取置キタル委任狀ノ末文ニ「最入費貳百圓追テ可相渡事」ト記入シタル者ト判定シ刑法第二百十條ニ依リ重禁錮一年罰金拾圓ニ處シ仍ホ刑法第二百十二條ニ從ヒ監視十月ヲ附加セリ
被告飯田久之カ之レヲ不法トシ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ本件ノ起因タルヤ奥田「ウタ」ヨリ養女「サノ」ニ係ル不侍養犯罪ノ告訴委任ヲ受ケタルモ未タ入費金ノ契約ナキニ付若津明道ニ對シ談判ニ及ヒ酒宴中同人ノ指定ニ從ヒ其目前ニ於テ被告人筆ヲ執リ最入費云々ノ十二

字ヲ記入シタルニ在リ其入費金契約ノ成リタル證據ハ被告人カ曾テ明道ヨリ負債アリタルヲ用捨シ證書ヲ返却シテ其契約金ノ部分ニ充テタルナリ又之ヲ情理ニ要ムルモ警識ナキ明道ノ依頼ニ應シ屢大坂神戸間ヲ奔走周旋スルニ何ソ入費ノ契約ヲ爲サ、ルノ理アランヤ然ルニ原裁判官ハ若津明道カ其義務ヲ免レントスルノ証言ヲ信用シ又ハ奥田「ウタ」カ陳述ヲ參考ニ供シタルハ法律ニ觸ル、不法ノ裁判ナリトス何ントナレハ明道ハ民事原告人ノ位置ニアリ「ウタ」ハ婦女且ツ八十有余歳ノ老衰者ニシテ其言罪證ノ要具ト爲ス可カラサレハナリ其他奥田「ウタ」ノ調書中(都合カ惡敷故)云々トアルヲ裁判官ハ證書ノ都合カ惡敷ト供述セシ者ノ如ク誤解シ又織田「ツヤ」カ不實ノ陳言ヲ採リ以テ被告人ヲ有罪ナリト判定セラレタリト雖モ毫モ完全ナル證據アリト言フ可ラス刑ノ疑ハシキハ是レ輕クセヨトハ法理ノ原則ナリ況ヤ本件被告事件ノ如キ入費金云々ノハ事實及ヒ道理ニ徴スルモ其契約アルハ當然ナレハ原裁判官破毀シ無罪ノ言渡アラソシテ惘願スト云フニ在リ
對手人檢事補戸田荒太郎ハ上告趣意ハ一モ治罪法ニ許サレタル條項ニ適スル所アルヲ見ス單ニ事實ニ不服ヲ鳴ラシ大審院ニ向テ覆審ヲ求ムルニ外ナラサレハ上告ノ權利ナキモノナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ原警察官同一ノ趣旨ヲ辯明セリ仍テ判決スルヲ左ノ如シ

原訴訟書類并ニ其言渡書ヲ閱スルニ毫モ法律ニ抵觸シタル廉アルヲナシ上告人カ若津明道ヲ証人ト爲シ奥田「ウタ」ヲ參考人ト爲シタルハ不法ナリト論辨スレハ明道ハ民事原告

人ノ資格ヲ有スルモノニアラス又「ウタ」ハ婦女ニシテ高齡ナリト雖モ固ヨリ参考人トシテ其陳述ヲ聽シコトヲ得ルハ論ヲ俟タス其他開列スル處ノ論旨ハ總テ事實認定上ノ當否ヲ可否スルニ外ナラスシテ治罪法ニ定メタル上告ノ場合ニ適當スル原由アルヲ見ス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

和歌山縣紀伊國名艸郡山口
西村居住平民農業

飯田久之

明治十五年九月
二十三歲五ヶ月

証券印稅規則違犯被告事件ニ付明治十五年九月十一日大阪輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ヲ審判シ詐爲ノ文書ニ係ルヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ

被告飯田久之ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタル趣旨ハ偽證書ニアラスシテ真正ノ證書ニ減稅シタレハ相當ノ處分ヲ受クヘキコト當然ナリト論述セリ

對手人檢事補大野吉利カ答辨ノ要旨ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ上告ヲ許サハハ勿論本件毫モ規則違犯ニ關係ナキ者ナレハ不法ノ上告ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
本案上告ハ他ニ證書ヲ増減變換シタル犯罪ノ處斷ニ牽連シ其實事ノ認定ヲ非難シ延テ本件真正ノ證書ニ印紙ヲ不足ニ貼用シタルハ證券印稅規則ニ違ヒタリト論辨スルモ治罪法

第四百十條ノ規定外ニ涉リ上告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス
第一千三百六十三號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年九月廿九日申渡

鳥取縣因幡國岩井郡荒金村
百八十三番地居住平民日傭
稼

北村松太郎

明治十五年十月
二十歲五ヶ月

竊盜犯罪被告事件ニ付明治十五年十月九日鳥取輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ハ明治十五年八月十一日以來谷口惣次郎宅外ニケ所ニテ金品ヲ竊取シ又ハ山本作太郎方土藏ノ窓網ヲ破毀シタル者ト判定シ刑法第三百六十六條同第四百十八條ヲ適用スヘキニ罪俱發スルヲ以テ刑法第三百條三項ニ依リ竊盜ノ罪ヲ重ト爲シ重禁錮七月ニ處シ刑法第三百七十六條ニ從ヒ監視八月ヲ附加セリ

原裁判所檢事補福田武規ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ被告人カ山本作太郎土藏ノ窓網ヲ破毀シタルハ單ニ土藏内ニ忍入り竊盜ヲ爲サントスルノ目的ニ出テ他ノ事故アリテ破毀シタルニアラサルコトハ其陳述ト形蹟トニ徴シ明瞭ナリ即チ刑法第三百六十八條ニ照

シ他ノ數罪ト併セ重キニ從テ處斷スヘキ者ナルチ原裁判ハ窓網ヲ破毀シタル所爲ハ刑法第四百十八條ニ該ルヘキモノトシ處斷爲シタルハ法律ノ精神及ヒ其適用ヲ錯誤シタル者ト思料シ原裁判破毀ヲ求ムト謂フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ本案被告人カ谷口惣次郎外ニケ所ニ於テ竊盜ヲ爲シタル所爲ニ對シ刑法第三百六十六條ヲ適用スヘキハ論ヲ俟ス又山本作太郎ノ土藏ニ於ケルヤ適戶締ヲ怠リ鎖鑰ナキモ同一ナレハ同第三百六十六條ニ依ルヘキ者ノ如シト雖モ決テ然ラス被告人カ登初該土藏ノ窓網ヲ破毀シタルノ意思ヲ推究スルニ竊盜ノ目的ニ外ナラサルコトハ被告人カ任意ノ口供ニ因テ明白ナリ果シテ然ラハ被告人ノ所爲ハ刑法第三百六十八條ニ該當ス可キハ法理ノ當サニ然ルヘキ所トス然ルニ刑法第四百十八條ヲ適用シタルハ錯誤ノ裁判ト言ハサル可ラト開陳セリ仍テ之ヲ檢案スルニ

被告北村松太郎カ明治十五年九月廿二日夜山本作太郎方土藏ニ忍入り竊盜ヲ爲シタルハ初メ該土藏ニ階ノ窓ヨリ入ラント欲シ階子ヲ架ケ攀登リ鐵網ヲ少々破リタレハ容易入ルコト能ハサルヨリ再ヒ表戶ノ鍵穴ニ指ヲ差入レ引開ケタルニ直ニ開キタルニ付忍入タリトハ被告人カ任意ノ口供ニ成リタル者ナリ果シテ然レハ最初ヨリ竊盜ヲ行フノ目的タル言ヲ俟ス只其窓ヨリ入ラスコト表戶ヨリ入りタルモ其竊盜ヲ遂ケタルニ至テハ一罪ナリ然ルニ原裁判官ハ被告人カ作太郎方ニ於テハ竊盜ト窓網毀壞ト二罪ヲ犯シタル者ト爲シ刑法第三百六十六條同第四百十八條ヲ併用セリ抑刑法第四百十八條ニ掲グル處ノ物件毀壞ナル者ハ一念只他人ノ物件ヲ暴害スルニ止ル所爲ニ適用スヘキ明文ニシテ本件ノ如キ竊盜ヲ爲スノ目的ニ

出テタル者ヲ制裁スヘキ法律ニアラサルナリ故ニ被告人カ竊盜ヲ犯ス爲メ土藏ノ窓ニ屬スル鐵網ヲ毀壞シタルハ即チ刑法第三百六十八條ニ依リ處斷スヘキ者ニシテ上告ノ趣意ヲ允當ナリトス依テ治罪法第四百十條第十項及ヒ第四百二十九條ニ原キ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スルコト左ノ如シ

北村 松太郎

右ノ理由ナルチ以テ被告人ハ明治十五年八月十一日以來谷口惣次郎小倉金次郎宅ニ於テ物品ヲ竊取シ山本作太郎方ニ於テハ土藏ノ窓鐵網ヲ毀壞シ又續イテ表戶ヲ開キ金品ヲ竊取シタル數罪俱發セシ者ト判定ス依テ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百六十八條門戶墻壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ其前條第三百六十七條ノ刑罰ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ストアリ又刑法第三百七十六條此節ニ記載シタル輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付テ同法第百條第三項ニ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ストアルニ照シ山本作太郎方ニ於テ犯シタル竊盜ノ罪ヲ重ト爲シ重禁錮七月ニ處シ監視八月ヲ附加シ仍ホ刑法第四十八條ニ依リ現在ノ贓品ハ各事主ニ還付シ刑法附則第五十四條ニ原キ結城編單物一枚ハ竹内房次郎ヨリ山本作太郎ニ還付セシムル者也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

第一千三百六十四號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十六年七月十九日上告
同 十六年十月一日發付

高知縣土佐國香美郡土居村

居住平民農業當今同縣同國

土佐郡中島町寄留

本 久

助 彌 太

明治十六年六月
三十六歲

詐欺取財被告事件ニ付明治十六年六月十八日高知輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ハ偽造
ノ舊金銀貨幣ナルコトヲ知テ賣買行使シタル犯罪ナリト判定シ刑法第九十條同第八十二
條ニ照依シ無期徒刑ヨリ二等ヲ減シ處斷スヘキ重罪犯ニ該ルヲ以テ治罪法第三百六十條ニ
依リ管轄違ヲ言渡シ同第三百六十一條ニ從ヒ當裁判所ノ會議局ニ送付ストノ言渡ヲ爲シタ
リ

被告本久助彌太ハ該裁判ヲ不法トシ上告ヲ爲シタル趣旨ハ原裁判言渡中證人ノ陳述又ハ警
察官ニ對シ爲シタル口供トノミアリテ如何ナル部分カ犯罪ノ證據トナリタル歟假令差押ア
ル貨幣ハ偽造ナルモ其偽造ヲ知テ取受行使シタリトハ何ヲ以テ之ヲ證據立タル歟毫モ必要
ナル事實及ヒ法律ノ理由ヲ明示セサルハ治罪法ノ規定ニ違ヒタル不法ノ裁判ナリ又本案舊
一分銀ニ朱金ノ偽造ナルコトヲ知テ取受シタリトスルモ刑法第八十二條ニ所謂内國通用ノ
金銀貨ト稱スル者ハ現ニ發行セラル、所ノ各貨幣ヲ指ス者ニシテ舊金銀貨ノ如キハ明治七
年第九十三號布告ヲ以テ一般ノ通用ヲ廢止セラレタルヲ以テ通用貨幣ト稱ス可ラサルコト明

瞭ナリ然ルチ原裁判所ハ偽造ノ貨幣ヲ受取行使シタル者トシ刑ノ適用ヲ爲シタルハ錯誤ト
言ハサルチ得ス依テ治罪法第四百十條第九項第十項ノ原由アルヲ以テ破毀ヲ求ムト謂フニ
在リ

對手人檢事補村田穗ハ上告人カ原裁判言渡ニ對シ事實及ヒ法律ノ理由ヲ付セス又ハ擬律錯
誤アリト開陳スレトモ其理由ノ點ハ該言渡書ニ載セテ明カナレハ敢テ細論セス其擬律錯誤
ノ點ニ至テハ論辨ナキニアラスト雖モ未ダ上告スヘキ場合ニアラス會議局判決ノ如何ヲ待
テ後初テ上告スルチ適當ナリト信スルヲ以テ本件ハ速ニ棄却アラント望ムト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ上告ノ理由トスル所ハ原
裁判ハ治罪法第四百十條第九項及ヒ第十項ニ定メタル破毀ノ原由アル者ナリトノ二點ニ過
キス依テ其言渡書ヲ閱スルニ明治十六年三月中偽造ノ舊金銀貨幣ナルコトヲ知テ云々其貨
幣ヲ取受行使シタル犯罪ノ證據充分ナリト認定ストアリテ明カニ其事實ノ理由ヲ付シタリ
又被告人カ偽造ノ情ヲ知テ取受行使セシ所ノ者ハ通用ノ金銀貨ニアラスシテ舊金銀貨ナリ
ト雖モ其罪ハ尙ホ通用ノ偽造貨幣ヲ行使シタルト同一ニシテ齊ク刑法第九十條ヲ適用ス
可キハ當然ナリトス之ヲ如何ソ擬律ノ錯誤ト言フチ得ン依テ本案上告ハ棄却アル可シト辨
明セリ

茲ニ之ヲ檢案スルニ原裁判官ハ本件ノ事實證據ヲ舉示シ之ニ相當スル法律ノ正條ヲ掲ケ重
罪裁判所ノ管轄ナルニ因リ其言渡ヲ爲シ會議局ニ送付シタル者ナレハ毫モ不當ノ廉アルコ
ト上告人ハ原裁判所カ各供述中證據トシテ取捨シタル部分ノ理由ヲ明示セス又ハ刑法ノ

明文ヲ記載セサルヲ不法ナリト論告スト雖モ凡事實ノ理由ハ裁判官ノ心証ニ資リタル者ヲ
 舉示シテ其犯罪ヲ確認スルヲ以テ充分ナリトス又刑法ハ適用スヘキ條目ヲ掲クレハ其律意
 ハ了解スルニ足ルヲ以テ別ニ法律ノ理由ヲ明示セサルモ治罪法第三百四條ニ違背シタリト
 言フヲ得ス又舊貨幣ハ金銀貨幣價額表ニ明記シタルカ如ク各貨幣ノ價直ヲ有スルハ論ヲ待
 タス假令民間取引上ニアリテ之ヲ廢止セラレタルモ租稅及ヒ海關稅等ニ對シ其上納ヲ待
 キハ明瞭ナリト爲ス故ニ其偽造ナルヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ刑法第九十條及ヒ第百八
 十二條ニ依照シ處斷ス可キハ當然ナリトス依テ上告ノ理由不相立治罪法第四百二十七條ニ
 從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千三百六十五號

○判文〔銀行條例犯則ノ件〕明治十五年十二月廿八日上告
 同 十六年十月一日發付

愛知縣尾張國葉栗郡島村平
 民農業

小島 助次郎

明治十五年八月
 三十六年四月

金錢預リ手形發行被告事件ニ付一ノ宮治安裁判所ニ於テ名古屋輕罪裁判所カ銀行條例第十
 一章第八十八條及ヒ明治十四年第七十二號布告第四條ニ依リ五圓ノ罰金ニ處スト言渡タル
 裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ銅貨ノ拂底ニテ公租徵收ニ際シ支障ヲ生スルヨリ金一錢ノ
 預リ切手ヲ製造シ端錢ヲ要スルニ當リ相渡シタルモノニテ紙幣ト同シク通用セシメタルニ

アラス各其渡スヘキ人名ヲ記シ且ツ租稅引換トノ印章ヲ押捺シアレハ通用セシムヘカラサ
 ルノ一証ニテ他人ト他人ノ間之ヲ受授セシヨアルモ被告助次郎カ關リ知ル所ニアラス然ル
 ニ原裁判所ハ國立銀行條例ヲ以テ罰金ノ處分ヲ言渡サレタルハ不法ノ裁判ニテ服從スル能
 ハス因テ破毀ヲ求ムト云ヒ又上告追伸書ヲ以テ原檢察官ノ答辨ニ對抗シ仍ホ前意ヲ擴張セ

對手人檢察官警部下政恒ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ論駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代言人下村四郎ハ上告趣旨ヲ擴張辨明シ
 立會檢事林三介ハ原裁判允當ナリトノ意見ヲ開陳セリ因テ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル金錢預リ切手ヲ製造スルモ其受取ルヘキ人名ヲ記載シ相渡タルモノニ
 テ國立銀行條例第十一章第八十八條ニ適當スヘキモノニアラスト云フノ點ニアリト雖モ
 其金錢預リ手形ヲ見ルニ〔金一錢此券引換書面ノ金員相渡候也〕トアリテ其裏面ニ何ノ誰
 ト記載シ或ハ小彌岩彌杯ト畧語ヲ記載シ〔租稅引換〕トノ印章ヲ押捺シタルモノニテ其受
 授セシ年月日ヲ記サス拂渡スヘキ期限ヲモ掲載セサレハ人民相互ノ預リ金証券又ハ爲換
 金証券ト見ルニ由シナク又受授セシ人名ヲ記載シ租稅引換トノ押印アルモ他人ノ使用通
 用ヲ差許サ、ルノ証ナクトモ見ルヘキナク到底銀行條例第十一章第八十八條ニ掲載アル
 政府發行ノ貨幣同様に通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ云々トアルニ適當スヘキモノ
 ト言ハサルヲ得ス因テ上告ノ趣旨相立、ス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第千三百六十六號

○判文(強盜ノ件)明治十五年十二月廿三日上告
同 十六年十月一日發付

兵庫縣神戸區相生町六丁目
平民勝五郎長男古着商

塚 本 安 藏

明治十五年十月
二十七年一ヶ月

強盜被告事件ニ付明治十五年十月十九日兵庫重罪裁判所カ刑法第三百七十八條同第三百七十九條ニ依リ先ニ發シタル犯罪ニ付受ケタル二年ノ重禁錮ノ刑ハ未確定前ナルニ付同第三百二條ニ照シ十二年ノ有期徒刑ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ被告ニ於テ盜贓タルヲ知テ將ニ買取セント爲シタルヲハアルモ強盜ナシタル覺ヘナシ然ルニ原裁判所カ信スヘカラサルモノニ必憑テ資リ以テ被告ヲ強盜犯者ト斷定セシハ不法ナリト云フニ在リ仍ホ再應進伸書ヲ差出スモ前趣旨ヲ擴充シ以テ事實覆審ヲ求ムルニ外ナラス
對手人檢事補三侯秀彦ハ上告趣意ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不法ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代官人畔柳時行ノ陳述立會檢事林三介ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

凡ソ事實ノ認定ハ諸般ノ証憑ニ據ラサルハナシ而シテ其証憑取捨鑒別ノ權ハ事實判官ノ職權ニ屬スルモノタル治罪法第四百十六條ニ被告入ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアルヲ以テ明瞭ナリ今ヤ被

告安藏カ申立ル處強盜ナシタルニアラス盜贓タル情ヲ知テ買取セント爲シタルマテナリト云ヒ又進伸書ヲ以テ指名シタル証人ヲ呼出サレサルヲ不服ナリト云フモ總テ事實判官ノ權内ニ侵入シ採証當否ヲ論難スルニ過キサレハ破毀ヲ求ムル理由ト爲スヲ得ス因テ上告ノ趣旨相立ダス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本接上告ヲ棄却スル者也

第千三百六十七號

○判文(遺失物隱匿ノ件)明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十月一日申渡

岐阜縣美濃國不破郡關ヶ原
村平民

淺 野 吉

桐 山 次郎

三 輪 末松

栗 田 彌吉

北 村 善兵衛

明治十五年十月
四十一歲

二六一

二六二
 明治十五年十月
 古田 德次郎 五十四歲
 明治十五年十月
 兒玉 重太郎 二十九歲
 明治十五年十月
 山本 留吉 二十歲
 明治十五年十月
 二十三歲

明治十五年十月十日大垣治安裁判所ニ開キタル岐阜輕罪裁判所ニ於テ右八名カ遺失物ヲ得テ隱匿シタル被告事件ヲ審判シ其所爲法律ニ正條ナシトシテ無罪ノ言渡シヲ爲シタリ
 同裁判所檢察官警部補大森督政ハ右裁判ヲ不當トシテ上告セリ其要點ハ被告八名ハ遺失ノ鶏ヲ拾得テ其所有主ニ還付セス又官署ニ申告セスシテ人ニ賣却シタル者ナルコト刑法ニ正條ナシト爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ニ在リ

依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原裁判言渡書ニ舉示シタル事實ノ理由ニ曰ク「其方共ニ於テ明治十五年九月十二日不破郡關ヶ原村平民北村吉三郎ノ頼談ニ依リ同人方ノ店先ニ逃走スル所ノ牝鶏一羽ヲ假リニ賣主トナリ其代價トシテ右吉三郎方ニ於テ飲食ヲ爲シタル事實ハ云々右牝鶏ハ同町平民高木早太ノ所有ニシテ」云々トアリ然ラハ被告八名ハ其飼養主ノ所ニ逸出シテ街頭ニ彷徨スル鶏ヲ拾得シナカラ官署ニ届ケ出テヌ又其主ヲ尋テ還付スルノ手續キヲモ爲サス私カニ之ヲ賣却セシ所爲アルヲ右舉示スル所ニ依リ明晰ニ

シテ乃チ刑法第三百八十五條ノ支配スヘキ犯罪ノ性質ヲ具備シタル者トス然ルニ原裁判所ニ於テ法律ニ正條ナシトシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナルコト因リ茲ニ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ直チニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

淺野 淺吉
 桐山 兵次郎
 三輪 末松
 栗田 彌吉
 北村 善兵衛
 古田 德次郎
 兒玉 重太郎
 山本 留吉

右辨明ノ如クニシテ被告八名カ遺失ノ物ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又官署ニ申告セサル犯罪ノ事實及ヒ証憑ハ原裁判言渡ニ舉示スル所ヲ以テ明確ナリ且未ダ該犯人ハ誰タルヲノ發覺セサル以前關ヶ原分署ニ自首シタル事實ハ同分署長ノ送付意見書及ヒ其調書ニ據リ判然タリトス依テ刑法第三百八十五條ニ照シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ以テ本刑ト爲シ同第八十五條及ヒ第七十條第七十一條ニ從ヒ一等ヲ減シ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第八十九條第九十條ニ照シ二等ヲ減シ五十錢以上五圓以下ノ範圍内ニ於テ淺吉兵次郎彌吉善兵衛德次郎重太郎留吉ハ各科料五十錢ニ處シ末松ハ十六歲以上二十歲以下ナルヲ以テ尙刑

法第八十一條ニ照シ一等ヲ減シ即チ罰金ヲ減盡スルヲ以テ科料三十錢ニ處スル者也
第千三百六十八號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月廿六日上告
十六年十月一日申渡

高知縣土佐國高岡郡若井村
平民作吾養子

清 遠 伊 太 郎

明治十五年十月
二十八年五月

右伊太郎カ被告事件ノ豫審故障ニ付明治十五年十月十四日中村輕罪裁判所會議局ニ於テ被告ハ養父作吾ト竹内十太郎カ共有ノ杉板十六枚ヲ竊取シタルモノトシ養父ニ對スル所爲ハ刑法第三百七十七條ニ依リ論斷スルモ共有者十太郎ニ對スル所爲ハ同法第三百六十六條ニ該當スルニ依リ中村輕罪裁判所ヘ移スト豫審言渡ハ相當ナルヲ以テ之ヲ認可スト判決シタル所同裁判所檢事柳田正介ハ之ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲スノ要領ハ被告カ竊取セシ杉板ハ養父作吾ト竹内十太郎カ共有物ニシテ其所有權ノ分ツ可カラサルモノナレハ父ノ物件ヲ竊取シタルモノト爲シ刑法第三百七十七條ニ照シ處斷スヘキモノナリト云フニ在リ因テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
本件ヲ審按スルニ被告伊太郎カ竊取シタル杉板ハ養父作吾ト竹内十太郎ノ共有ニシテ其物質ノ所有權ヲ分割スヘカラサル以上ハ十太郎ニ於テモ被害者タル無論ナレハ被告カ所爲ヲ刑法第三百六十六條ニ該當スルモノトシ中村輕罪裁判所ヘ移ストノ言渡ハ適當ナル

ニ依リ此言渡ヲ認可スト判決シタルハ最モ當然タルヲ以テ上告ノ旨趣ハ相立ダサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也
第千三百六十九號

○判文〔官吏ニ抗拒及毆傷ノ件〕明治十五年十二月六日上告

十六年十月一日判決

新潟縣越後國三島郡出雲崎

住吉町平民材木渡世

伊 藤 源 藏

明治十五年九月
四十年

右源藏カ被告事件ニ付明治十五年九月二十日長岡輕罪裁判所ニ於テ被告ハ巡查チ毆傷シ之ニ抗拒セシ証憑充分ナラサルヲ以テ無罪放免ストノ裁判言渡ヲ不當ナリトシ同裁判所檢事補中原正夫カ上告爲シタル要領ハ被告ノ証憑ヲ五箇條ニ列擧シ又被告カ利益ト思想スル証憑ニ對照シ前五ヶノ証憑ハ完全無欠ナリ然ルチ原裁判所カ証憑充分ナラスト判決セシハ所謂擬律ノ錯誤ナリ云々論告スルニアリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

治罪法第四百十六條ノ制裁アツテ其證據ノ取捨鑒別ハ原裁判官ノ心証判斷ニ任スル所ノモノナレハ其採證ノ當否如何ヲ論難シテ破毀ヲ求ムルモ同第四百十條ノ各項以外ニ涉リ上告ノ理由ト爲シ得ヘカラサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第千三百七十號

二六六

○判文〔竊盜ノ件〕明治十六年四月廿八日上告
年十月一日判決

兵庫縣淡路國三原郡笑原村
平民酒小賣商

神

代

實

藏

明治十五年十二月
二十八歲

右神代實藏ハ竊盜ノ被告事件ニ付明治十五年十二月廿八日洲本治安裁判所ニ開キタル神代
輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十八條第三百六十九條第三百七十六條ニ照シ重禁錮五年ニ
處シ監視二年ニ付ストノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ依テ本院檢事ノ意見
ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本件書類ヲ閱ルニ上告申立ハ明治十六年一月六日ヲ以テシ而シ其趣意書ハ同月十七日附
ヲ以テ差出アリ是治罪法第四百十七條ニ於テ趣意書ヲ差出スニ付定メタル五日ノ期限ヲ
經過シタル者ナリ故ニ其論告ノ旨趣如何ヲ問ハス同法第二十條ノ制裁ニ從ヒ既ニ訴權ヲ
失シタル無効ノ上告ナリトス因テ之ヲ棄却スル者也
第千三百七十一號

○判文〔財産藏匿ノ件〕明治十五年十一月廿二日上告
十六年十月一日申渡

沖繩縣小祿間切湖村百四十
三番地平民農業

平

長松
明治十五年六月
五十二年六月

右松カ家資分散虚偽負債増加ノ被告事件ニ付明治十五年六月十六日沖繩縣裁判所ニ於テ刑
法第三百八十八條同第二百十條及ヒ同第二百十二條ニ照シ二罪俱發スルヲ以テ同第百條第
三項ニ依リ同第二百十條第一項ニ照シ處斷スヘキ處同第八十九條同第九十條ニ依リ二等ヲ
減シ重禁錮二月附加罰金二圓監視六月ニ付ストノ裁判ニ對シ同裁判所檢事補緒形維則カ上
告爲シタル要領ハ本犯松カ家資分散ニ關シ不正ノ利益ヲ得ルノ目的ニテ證書ヲ偽造シ已ニ
其施行ノ所爲ヲ盡スト雖意外ノ理由ニ因リ其成功ヲ妨ケラレ未ダ證書面金額ヲ受取ラサル
内ハ該證ノ性質ニ據テ見レハ之ヲ行使スルトハ證面ノ金額ヲ收メタルモアルヲ以テ未ダ
犯罪ノ全部ヲ遂ケタルモノト云フヲ得ス是レ則チ犯罪ノ遂ケサルモノナルニ之ヲ既遂トシ
テ判決ナシタルハ不當ナリト云フコアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ原檢察官カ未遂犯罪ヲ以テ處
分スヘキトノ理由ハ相立タスト雖該証書偽造ノ點ハ原裁判ヲ破毀スヘキモノト思量スルニ
依リ茲ニ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ抑モ刑法第二百十條ノ如キ其偽造シタル証書ヲ以テ
己レカ義務ヲ遁レ或ハ爲メニ不正ノ權利ヲ裝フ等ノ所爲ヲ罰スルノ法意ニシテ本案事件ノ
如ク被告カ甲債主ニ對シ身代限ノ處分ヲ受クルノ際虚偽ノ負債ヲ増加セシメ爲メ無實ノ証書
ヲ乙丙等ニ與ヘ置キタルモノナレハ該証書ノ如キハ絶テ權義ノ生スヘキナキ虚無ノ文書ナ
ルヲ以テ刑法第二百十條ノ精神トハ全ク異ナリ畢竟如此文書ハ即虚偽ノ負債ヲ増加セント

二六七

欲スルノ一點策ニシテ刑法第二百八十八條ノ管理スル所ナルヤ明ケシ因是觀之ハ本案事件ハ單ニ虛偽ノ負債ヲ増加シタル一點ヲ以テ處斷スヘキヲ至當トス然ルチ原裁判茲ニ出ス偽造證書ノ罪アリトシ數罪俱發ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ因テ判決スル左ノ如シ

原檢察官於テハ刑法第二百十條ニ云フ偽造證書行使ノ未遂犯罪ナリト論告スレモ被告ノ口供中ニ偽造證書ハ分配金御下渡ノ際ニ臨ミ發覺ストアリテ該金額ヲ得ルノ目的ハ達シ得サルモ業已ニ偽證書ノ行使タルハ明瞭ナルニ非スヤ然レトモ本院檢事附帶上告ノ如ク本案ニ對シテハ其同第二百十條ノ未遂已遂ニ拘ハラス同條ト數罪俱發ヲ以テ論スルノ限リロアラス何ントナレハ該文書タルハ虛偽ノ負債ヲ増加セントスルノ一策ニ止リ偽造證書授受ノ双方間ニ在ツテハ權義ヲ生スルニ至ラサレハ也因テハ虛偽負債増加ノ一罪ヲ以テ處斷スヘキモノナルニ原裁判茲ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ判定ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ則リ之ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルヲ左ノ如シ

平 長 松

原裁判所カ認定シタル事實ニ據リ刑法第三百八十八條ニ照シ家資分散ノ際云々又虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ依リ重禁錮二月ニ處スルモノ也

第一千三百七十二號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月廿七日上告
同 十六年十月二日發付

熊本縣託麻郡上南部村平民
農業

岡 本 廣 次
明治十五年十月二十九日

右廣次カ毆打創傷被告事件ニ對シ明治十五年十月七日熊本縣罪裁判所於テ刑法第三百條ニ依リ重禁錮二年四月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告カ上告爲シタル要領ハ被害者林爲藏ヲ水中ニ突キ落シタル迄ニテ其際骨ヲ折リ癱疾ニ至ラシメタルヲナキニ該刑ニ處セラレタルハ不當ナリト縷述スルニアリ同裁判所檢事補世古祐次郎ハ原裁判相當ナリト答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本案被告ハ被害者林爲藏ヲ癱疾ニ至ラシメタルヲナキニ云々論告スルニアレモ公判始末書中ニ「林爲藏ヲ水ニ投倒シタルハ無相違モ其儘逃走セシニ付爲藏カ負傷セシヤ否ハ一切承知致サス」ト答辨シタルニ非スヤ然ラハ其負傷ノ果シテ癱疾ニ至ルヤ否ハ則チ醫師ノ診斷書ト其他ノ證言ニ據ツテ原裁判官カ認定シタル事實ナレハ今更之ヲ論難スヘカラサス因テ該上告ハ相立タサルニ付同第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第一千三百七十三號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年十月二日發付

山口縣長門國美禰郡嘉方上

郷村平民農業

安

富源

明治十五年十月
二十一年五月

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月二十七日山口輕罪裁判所カ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ三月ノ重禁錮ニ處シ十月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ原裁判所ハ上利万藏所有ノ炭四俵ヲ竊取シタルモノト認メラレタレト谷村喜介ヨリ貸金辨償ノ代リニ受取り吳候様依頼ヲ受テ持去リタルモノナレハ刑法第七十七條ヲ適施セラルヘキ筈ナルニ刑法第三百六十六條ニ依リ所斷セラレタルハ不法ナリト云フニアリ對手人檢事松長光吉ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判所モ不法ニラスト答辨セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各證據ニ照シ其實實ハ万藏カ所有ニ係ル炭四俵ヲ竊取シタルモノト認定シタル其事實ニ對シ徒ニ不服ヲ申立ルト雖モ事實認定ハ原裁判所ノ特任セシ權内ナレハ之カ當否ヲ論シ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル定規ニ適當セサレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タス右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第千三百七十四號

○判文(住居侵入ノ件) 明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十月二日發付
高知縣土佐國土佐郡廿代町

士族

土

方

久成

明治十五年八月
三十二年

右久成カ被告事件ニ對シ明治十五年八月二十一日高知輕罪裁判所ニ於テ被告ハ營テ相姦セシ情婦松村幸ナル者葛目延方ニ滞在爲ス際尙ホ姦通ヲ爲サン爲メ明治十五年七月二十四日午後八時過キ右延邸宅ニ忍入タルハ即チ夜間故ナシ人ノ住居ヲ侵セシ者ト判定シ刑法第七十二條ニ依リ重禁錮六月ニ處ストノ裁判言渡シテ不當ナリトシ被告久成カ上告爲シタル要領ハ引合人松村幸ナル者ト私通シ居タル處右幸ハ葛目延ナル者方ニ相越シ居幸ノ求メニ應シ明治十五年七月二十四日午後八時頃立越シタルモノナレハ故ナク延ノ邸宅ニ入りシニアラス又假リニ故ナク邸宅ニ入ルモノトシ論スルモ減等ノ寬典ニ處セザルヘキモノト信スルナリ又該夜遁去ラントスルヲ取押ヘラレ振放タントスルモ之ヲ放タス其故ヲ問ハス拔刀ヲ以テ數ヶ所ニ切付ケタル延ノ現狀ハ刑法第三百十六條ニ云フ己ムコヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限リニ在ラストアルニ當リ決シテ罪ヲキモノト云フヘカラサルニ之ヲ不問ニ置キタリ又裁判言渡書ニ當時不在ノ判事ヲ記名シ檢事モ共ニ實際ノ立會員ト相違セルハ治罪法第四百十條ノ二項ニアル裁判所ノ構成ニ違フモノト云ハサルヲ得ス云々縷述スルニアリ同裁判所檢察官於テハ原裁判相當ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ玆ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告ハ引合人幸ナルモノト私通シ居タル爲メ該邸宅ニ立越シタルモノナリ又假リニ之ヲ

罪アルトスルモ減等アルヘキモノナリト云フニアレハ斯ハ事實上ノ認定及ヒ酌量減輕ノ當否ヲ論難スルニ止マレハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス何トナレハ治罪法第四百十六條ノ制裁アツテ事實ノ判定ハ都テ原裁判官ニ任スル所ニシテ輒ク之ヲ他ヨリ動カス可カラサレハナリ又葛目延カ所爲ニ對シ爲シタル裁判ノ不當ヲ訴フルト雖モ人ノ受ケタル裁判ニ付上告ヲ爲スノ權ハ之ナキモノトス又原裁判言渡謄本中判事ノ記名ハ擔當書記ノ誤寫タルヲ證明シアリテ全ク謄本ニ誤寫アルモノナリ立會檢事ハ布野萬長ナルヲハ公判始末書ニ明記アリテ謄寫ニ誤アラサルヲ證スルニ足レリ而謄本ニ判事ノ記名誤寫アルトテ之ヲ以テ裁判所構成規則ニ違ヒタルモノト謂テ得ス故ニ本按上告ハ總テ相立、サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第千三百七十五號
○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月一日上告
同 十六年十月二日判決

石川縣加賀國金澤區下小川
町八十四番地居住平民建具
職

中須賀市三郎

明治十五年九月
二十三年七月

竊盜犯罪被告事件ニ付明治十五年九月十八日金澤輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ヲ審判シ刑法第三百六十八條ニ依リ同第三百六十七條ニ照シ重禁錮八月ニ處シ刑法第三百七十六

條ニ從ヒ監視七月ヲ附加セリ

被告中須賀市三郎ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ本件竊盜ヲ犯シタル者ハ寺西幸太郎カ所爲ニシテ自分ハ止タ盜品ト知ラスシテ大西直藏ヨリ質入ノ周旋ヲ頼マレタリ迄リ其幸太郎カ所爲タルヲハ拘留中同人ヨリ談話シ且其筋へ自首シタリ然ルニ其審理ヲ爲サスニテ被告人ニ刑ヲ言渡シタルハ不服ナリト謂フニ在リ

對手人檢事補森繁彦カ答辨ノ要領ハ被告人ハ未ダ曾テ供述セサル言ヲ以テ上告ノ理由トスレハ被告人ノ所爲ハ當時ノ供情ト證人等ノ申述トニ因リ罪證顯著ニシテ原裁判ハ至當ナリト開陳セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ

原裁判ハ事實及ヒ證據ヲ舉示シ之ニ相當スル刑ヲ適用シタルハ毫モ不法ト言フ可ラス而シテ上告ノ論旨ハ單ニ事實ニ對シ覆審ヲ求ムルノ精神ニ外ナラサレハ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ理由ナキ者トス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第千三百七十六號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十二月廿二日上告
同 十六年十月三日發付

神奈川縣相模國大住郡田村不
明當今同縣橫濱區北方村平民
德右衛門借店人力車挽夫

茂田金次郎

二七三

明治十五年十一月

三十九年三月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十一月八日横濱輕罪裁判所カ刑法第三條第二項ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ刑法第三百九十條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ安西儀助ナル者へ抵當ニ差入レタル人力車ハ告訴人松澤福太郎ヨリ借受ケ居タルニアラス會テ田澤彌五郎ヨリ金八圓ニテ買受ケタルモノナルモ被告金次郎ハ寄留ノ身分ナレハ檢印ヲ願フ能ハサルニ付全ク其名義ノミヲ借り受ケタルモノニテ他人ノ物品ヲ携帶セシニアラス依リニ一步ヲ譲リ福太郎ヨリ借受ケタル車ヲ抵當ニ差入タリトスルモ其車ハ未ダ賣却セシニアラサレハ民事上ノ責メニ留ルヘキモノナルニ原裁判所ハ相當ナル證人ヲモ喚問セス輒ク携帶セシモノト認メ處斷セラレタルハ審理ヲ不盡サス且擬律錯誤ノ裁判ナリト云フコアリ

民事原告人安西儀助モ亦上告セリ其要領ニ曰被告金次郎ヨリ抵當ニ受ケ取リタル人力車ハ會テ田澤彌五郎ヨリ買受ケタルコトハ儀助ニ於テモ承知セシコトニテ決テ不正ノ所爲ヨリ得タル車ニアラサルニ原裁判所ハ相當ノ證人モ喚問セス輕忽ニ金次郎カ携帶セシモノトシ抵當ニ取置ク人力車ハ本主松澤福太郎請来ノ通り同人ニ還付シ貸渡タル金三圓五十錢ハ被告金次郎ヨリ儀助へ償却セシムト言渡サレタルハ審理不盡ノ裁判ナルニ因リ破毀ヲ求ムトノ對手人檢事補清水純孝ハ原裁判言渡ハ至當ナリトノ趣旨ヲ答辨シ併セテ本案上告ハ治罪法第四百十四條ノ定期ヲ過キタル無効ノモノナリト開陳セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

原裁判言渡ハ明治十五年十一月八日ニテ其上告申立ハ同十一月十一日趣意書ヲ差出シタルハ同十一月十五日ニアリ治罪法第四百十四條ニ上告ヲ爲ス期限ハ三日ナリトス云々又同第十八條ニ此ノ法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスル者ハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セストアリ然ラハ則原裁判言渡ノ翌日ヨリ第三日ニテ其期限内ニアルト明瞭ナレハ定規ヲ經過セシト原檢察官ノ申立ハ効ナキモノトス

被告金次郎カ上告ノ理由トスル處ハ事實判官ノ各證據ニ照シ認メタル事實ニ對シ安西儀助へ抵當ニ差入タル人力車ハ自己ノ所有物ナリト云ヒ又假令借り受ケタルモノトスルモ抵當ニ差入タルマテニテ賣却セシニアラサレハ民事上ノ責アルヘキモ罪トナルヘキモノニアラスト徒ニ不服ヲ訴フルト雖モ破毀ノ原由ト爲スチ得ストナレハ事實ノ認定ハ原裁判所ノ特有スル權内ナレハ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル上告ヲ爲スチ得ヘキチ定メタル規則中之ヲ掲載シアラサレハナリ因テ上告ノ趣意相立ハス

民事原告人安西儀助ノ上告ハ前辨明ノ如クナレハ從テ私訴裁判ハ動カシ得ヘカラサルモノナリトス故ニ上告ノ趣意相立ハス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第千三百七十七號

○判文(賭博ノ件) 明治十五年十二月廿六日上告 十六年十月三日發付

長野縣信濃國西筑摩郡吾妻 村平民農業

志 水 萬 治

明治十五年十月
三十五年十一月

同縣同郡同村平民木挽職

志 水 太 重

明治十五年十月
三十二年五月

賭博犯罪被告事件ニ付明治十五年十月二十七日福島治安裁判所ニ於テ松本輕罪裁判所カ刑
 法第二百六十一條ニ依リ同第八十五條ニ照シ各重禁錮一月十五日ニ處シ罰金十一圓二十五
 錢ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ檢査官警部補小澤和一郎ハ上告セリ其要領ハ被告志水萬
 治志水太重ハ明治十五年十月十三日夜志水末次郎宅ニ於テ大藏卯八等ト賭博ヲ爲シタル際
 巡査石浦定之助外一名カ卯八等ヲ逮捕ノ節被告兩名ハ現場逃走セシモ到庭其罪ヲ難遁ト思
 考シ同月十五日自首セシモノニシテ既ニ連累ナル卯八等ヨリ官署ニ對シ被告ノ郷貫氏名マ
 テ申告シタレハ事既ニ發覺後ノ自首ニ係ルハ論ヲ俟タス然レハ則單ニ刑法第二百六十一條
 ナ以處斷スヘキヲ同法第八十五條ヲ適用シ減輕ノ處分ニ及ヒタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルニ
 依リ破毀ヲ求ムト云ニアリ

對手人被告志水萬次志水太重ハ答辨書ヲ差出サス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

刑法第八十五條ニ罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減
 ストアルハ官未タ其犯者ノ誰タルヲ知ラサルニ先ダチ自首シタル者ヲ指シタルモノニシテ

本接賭博犯ノ如キハ他ノ犯罪ト異ナリ固ヨリ現行犯ニシテ一旦現場逃走セシモ其現場於テ
 既ニ巡査ニ撞見セラレ事發覺シタル後自首セシ場合ニ適當スヘキ律意ニアラサルナリ然ル
 ニ原裁判所カ被告兩名ハ現場逃走スルト雖自首スルヲ以刑法第八十五條ニ照シ本刑ニ一等
 ヲ減シ處分シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルニ因リ治罪法第四百十條第十項ニ該ル上告ノ理由
 アルモノト判定ス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

志 水 萬 治
 志 水 太 重

原裁判言渡ニ確認シタル事實ノ理由及ヒ證據トニ依リ賭博罪ヲ犯シ現場逃走シ發覺後自
 首シタルヲ明白ナリ即チ此事實ヲ法律ニ照スニ刑法第二百六十一條財物ヲ賭シ現ニ博奕
 ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スト
 アルコ該ル

右ノ理由ニ依リ被告志水萬治志水太重ヲ各重禁錮二月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加スル者也

第千三百七十八號

○判文(擅ニ人ヲ逮捕ノ件)明治十五年十二月十三日上告
 十六年十月三日發付

靜岡縣駿河國庵原郡小島町
 士族當時同縣三島警察署三
 澤分署長警部補代理

静岡縣巡查

鈴木

高規

明治十五年八月

明治十五年八月十九日静岡輕罪裁判所ニ於テ鈴木高規カ程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シタル被告事件ヲ審判シ被告人カ堤由右衛門ヲ犯罪人ナリト認メ現行犯ニ准シ直チニ之ヲ逮捕セシメタルハ明治十四年第四十六號布告第四項ニ其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ云々ト法律ノ明許スル處ニ從ヒ司法警察官タル者ノ當然ノ處置ナルヲ以テ無罪ナリトスト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補三浦翁輔ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人カ堤由右衛門ヲ逮捕シタルハ程式規則ヲ遵守セス人ヲ逮捕シタルノ罪ヲ免カルコト能ハサルモノトス何トナレハ由右衛門ニ於テ犯罪人ト思料スヘキ舉動アルニ非ス假令幾分ノ罪證アルモ其現行犯ニ非サルヲ以テ命令ヲ待タスシテ直チニ逮捕スルコト得サレハナリ然ルニ原裁判所カ被告人ヲ以テ明治十四年第四十六號布告第四項ニ依リ現行犯ニ准シ處分シタル者ト爲シ無罪ト言渡シタルハ不當ナリ抑右布告ノ精神ハ多少犯罪ノ證憑アル者ハ皆准現行トシテ逮捕セヨト云フニ非ス犯罪ノ證アルモ尙ホ其舉動ニ付犯人ナリト思料スヘキノ理由アル者ニシテ現行犯ニ准スヘキ場合アルニ非サレハ之ヲ適施スルコト得サルナリ裁判官ニ於テ果シテ右布告ニ依リ處分ヲ爲シタリト認定セハ必ス其舉動犯人ト思料シタルハ此點ニ在リトノ理由ヲ明示セサル可カラズ其理由ヲ明示セサルハ違法ノ裁判ニシテ布告ノ解釋ヲ誤リタルニ出テタルモノナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

明治十四年第四十六號布告第四項ニ治罪法第一百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルコト得トアルハ右ニ列記シタル場合ニ非スト雖モ犯人ト思料スヘキ舉動アル者ニ對シテハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ許シタル法律ニシテ本件被告人カ堤由右衛門ニ對シ其舉動犯人ト思料スヘキ者アリト爲シテ直チニ逮捕セシメタル如キハ右布告ノ明許スル所ニ從ヒ處分シタル者ナレハ法律ニ違背セリト謂フコト得サルナリ而シテ原裁判言渡書ニ由右衛門ニ於テ犯人ト思料スヘキ舉動アリトノ事實ヲ明示シ被告人カ准現行犯ノ處分ヲ爲シタルハ當然ノ處置ナルニ因リ無罪ト判定シタルハ其理由ヲ明示セサルモノニ非ス又布告ノ解釋ヲ誤リタルニ非スシテ毫モ違法ノ裁判ト認ムヘキ廉アルニ非サルヲ以テ破毀ノ原由ナキモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

第千三百七十九號

○判文(証券印稅犯則ノ件) 明治十五年十二月十四日 上告
 同 十六年十月三日 申渡

島根縣石見國那賀郡原井村
 平民弘願寺住職
 田 中 秀 哲
 明治十五年六月
 五十一歲
 同縣同國同郡淺井村平民船
 乘職

西田

喜十郎

明治十五年六月

三十五歲

同縣同國同郡原井村平民蠟燭掛職

燭掛職

小川

鐵三郎

明治十五年六月

四十一歲

明治十五年六月二十四日濱田輕罪裁判所ニ於テ右三名カ證券印稅規則違犯ノ被告事件ヲ審判シ所犯新法實施前ニ係リ既ニ二年ヲ經テ發覺シタルニ依リ舊惡減免例圖ニ照シ其科ヲ免ストノ言渡ヲ爲シタリ

同裁判所檢事補鈴木量ハ之ヲ不當トシテ上告セリ其要旨ハ本案被告事件ハ繼續犯ニシテ明治十五年二月ニ至リ發覺シタル者ナルニ舊惡減免例ニ依リ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ

依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

印稅規則違犯ノ如キハ當初其証書ヲ授受セシ以來其証書ノ効ノ存スル間ハ常ニ脫稅ノ所爲ヲ犯セル者ナルヲ以テ即テ繼續犯ト爲シテ論スヘキ者トス本案犯則証書ハ明治十一年七月二十九日ニ成立ナリテ明治十五年二月ニ至リ發覺シタル者ナレハ之ヲ舊惡減免例ニ照シ處分シタルハ不當ノ裁判ナリト雖ヒ今原裁判言渡書ニ舉示スル所ヲ見ルニ其事實ハ一ハ貳錢減稅ノ証書ヲ授受シ一ハ壹錢減稅ノ証書ヲ授受シタル者ニシテ其刑ハ証券

印稅規則第四則第七條ニ依リ之ヲ渡シタル者ハ減稅高十倍ノ科料之ヲ受取タル者ハ同五倍ノ科料ニ該リ共ニ違警罪ニ止ル事件ナルニ付其裁判言渡ニ對シテハ明治十四年第四十四號布告ニ照シ上告ヲ許サハル者トス依テ本件上告ヲ棄却スル者也

第千三百八十號

○判文(賭博ノ件)明治十五年十二月九日上告

同十六年十月三日判決

栃木縣下野國芳賀郡鳥生田

村住平民農業

小森

金四郎

明治十五年八月

五十三歲

明治十五年八月二十六日宇都宮輕罪裁判所ニ於テ右金四郎カ賭博並ニ巡查ノ職務ヲ妨害シタリトノ事件ヲ審判シ治罪法第二百五十八條ニ依リ免訴ノ言渡ヲ爲シタリ

同裁判所檢事補吉野信三ハ右裁判ヲ不當ナリトシテ上告セリ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日內ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シトアリ是趣意書ヲ差出スヘキ期限ヲ定メタル者ナリ而シテ又同法第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シトアリ今訴訟書類ヲ見ルニ上告申立ハ明治十五年八月二十九日ニシテ趣意書ハ同年九月六日附ヲ以テ差出シ其定期五日ヲ經過シタル後ニ係ル者ナリ而シテ何等

ノ事故ニ因リ遲滞シタルヤ上告者ニ於テ其辨明ナキニ付之ヲ確知スルニ由ナシ唯訴訟書類ニ添付セル原裁判所書記カ差出シタル書面ニ（書類ナキカ爲メ趣意書差出期限經過候趣云々）トアルヲ見レハ或ハ書記ヨリ一件書類ノ回送遲滞セシニ原由スル者ト雖ヒ却テ上告趣意書ヲ見レハ原裁判ハ事實ニ齟齬アリ擬律ニ錯誤アリト云ニ過キス而シテ上告者ハ現ニ其裁判言渡ノ公廷ニ立會タル者ニシテ其言渡ニ對シ論告スルニ外ナラサレハ一件書類ノ回送ヲ得サレハ趣意書ヲ差出シ能ハストノ理由ハ決シテ之アル可カラヌ要スルニ特別ニ猶豫ヲ與フ可キ場合ト認ムヘキ點毫モ之ナキニ付本件上告ハ既ニ其權ヲ失シタルヲ以テ成立ダサル者トス依テ之ヲ棄却スル者也

○判文〔證券印税犯則ノ件〕明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十月三日申渡

三重縣伊勢國鈴鹿郡阪下村
平民農業

高 家 七 重 郎
明治十五年八月

六 十 一 年

同縣同國同郡同村平民農業

石 田 貞 藏
明治十五年八月

二 十 八 年 八 月

同縣同國同郡同村平民農業

阪 本 安 松
明治十五年八月

四 十 一 年

明治十五年八月四日安濃津輕罪裁判所ニ於テ右高家七重郎石田貞藏阪本安松カ被告事件ヲ審理シ賣主石田貞藏保證人阪本安松ト買主高家七重郎トノ間ニ山林畑代金百拾圓ノ請取證書ニ印紙ヲ貼用セシテ授受シタル者ト判定シ刑法第五條ニ基キ明治十四年第七十二號布告第三條ニ照シ證券印税規則第二則第一條第四則第二條ニ依リ脱税金壹錢ノ二十倍即チ金貳拾錢ノ科料ニ該リ高家七重郎ハ脱税高金壹錢ノ十倍即チ金拾錢ノ科料ニ該リ本刑科料ナルヲ以テ之ヲ違警罪ナリトスルニ證書授受ノ日ヨリ滿六月ヲ經過シ公訴アリシモノナレハ治罪法第十一條ニ依リ免訴ヲ言渡シ坂本安松ハ證券印税規則第四則第九條ニ依リ貳拾五圓以下ノ範圍ニ於テ金拾五錢ノ科料ニ處セリ

安濃津輕罪裁判所檢事武内維積ハ右ノ裁判ニ對シ上告ヲ爲シタルニ付專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

上告ノ要旨ハ證書授受人ナル高家七重郎石田貞藏ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ニ非スト雖モ其證人ナル坂本安松ニ對シテ科料ノ刑ヲ言渡シタルハ權衡ヲ失シタル不當ノ裁判ナリト云フニ在ルモ原裁判所カ證書ヲ授受シタル高家七重郎石田貞藏ヲ期滿免除ヲ經タル者トシ免訴ノ言渡ヲ爲シ獨リ其保證人タル坂本安松ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ一ハ證券印税規則第四則第二條ニ依リ脱税高ヨリ算出シテ科料ニ止ルヲ以テ違警罪トシ一ハ同規則第四則第九條ニ依リ罰金ノ範圍ニ在ルヲ以テ輕罪トシ期滿免除ノ期限ヲ算定シタ

ル者ナル可シ然レモ被告事件ノ基本タル犯罪ニシテ違警罪即チ科料ノ刑ニ止ル者ナレハ其保證タル者本犯ヨリ重クス可ラサルハ法理ノ當サニ然ルヘキ處ニシテ固ヨリ同一ノ裁判ヲ與フヘキ者ナリ然ルニ原裁判所カ本主タル被告人ヲ免訴シ附從タル坂本安松ノミニ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判タルヲ免レサル者トス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スルコト如シ

坂 本 安 松

右ノ法理ニ原キ被告人ハ證券印稅規則第四則第九條及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ照シ科料金拾五錢ニ處スヘキ處治罪法第十一條ニ照シ免訴スル者也

第一千三百八十二號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十二月十二日上告
同 十六年十月三日判決

秋田縣羽後國南秋田郡神田
村平民農

佐 藤 銀 藏

明治十五年八月
四十四歲

明治十五年八月二十八日秋田輕罪裁判所ニ於テ右銀藏カ被告事件ヲ審理シ竊盜未遂犯ノ事實アリト判定シ刑法第三百六十六條及ヒ第三百七十二條等ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ヲ以テ本刑ト爲シ而テ明治十五年五月輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ付刑法第九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘ二月二十六日以上三年九月以下ノ範圍ト

爲シ重禁錮二年ニ處シ尙第三百七十六條ニ依リ二年ノ監視ニ付シタリ

被告銀藏ハ右裁判ヲ不當トシテ上告セリ其要旨ハ竊盜ヲ爲シタル事實毫モ之ナシ然ルニ原裁判所ニ於テ犯罪ノ證據ハ被告カ自供ノ一部ト證人大野專次郎齋藤甚之助ノ陳述ニテ充分ナリトセラレタレモ被告ハ竊盜ノ自供ヲ爲シタルコトナク又證人兩名ハ何等ノ申立ヲ爲シタルヤ被告人ヘ明示モナク被告ノ辨解ヲモ審理セスシテ隱ニ兩名ノ陳述ノ信セラレシハ不當ナリ且ツ刑ノ適用ニ至テハ其未遂犯ヲ以テ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ヲ以テ本刑ト爲シ而シテ再犯ヲ以テ一等ヲ加フル時ハ一月二十六日以上三年九月以下トナル然ルニ二月二十六日以上ト爲シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

上告人ニ於テ原裁判官カ判定シタル事實ト探證上ニ付縷々論難スル所アリト雖モ是事實裁判官カ相當ノ權内ニ於テ爲シタル處分ニシテ毫モ不法ノ點アルコトナシ其証人ノ陳述ヲ被告ハニ示シテ辨解ヲ聽カサリシ旨論告スレモ原裁判所ノ公判始末書ヲ見ルニ其明治十五年八月廿六日ノ開廷ニ於テ証人兩名ヲ訊問シ而シテ被告ハ面前ニ其陳述ヲ聽キ(自分ハ飽迄竊取セシニ非ス)トノ答辭ヲ以テ抗辨セリ然ハ是無根ノ論告ナリトス依テ以上ノ論旨ハ皆以テ上告ノ理由ト爲スチ得サル者ナリ獨再犯加等ニ付刑ノ範圍ニ於ケル論點ハ其埋アリトス抑一月十五日以上三年以下ヨリ一等即チ四分ノ一ヲ加フレハ一月二十六日以上三年九月以下トナルヘキハ固ヨリナリ然ルニ二月二十六日以上ト爲シタルハ其錯誤タル言ヲ俟タス依テ治罪法第四百三十一條ニ照シ原裁判言渡中右錯誤ニ係ル部分ヲ破毀シ直チニ言渡ヲ爲ス左

佐藤 銀藏

其窃盜未遂犯罪ノ事實及ヒ本刑ノ適用等ハ總テ原裁判言渡ニ從ヒ而シ再犯ナルニ付刑法第九十二條及ヒ第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ一月二十六日以上三年九月以下ノ重禁錮範圍内ニ於テ重禁錮二年ニ處シ尙刑法第三百七十六條ニ從ヒ監視二年ヲ附加スル者也
第千三百八十三號

○判文〔賄賂收受ノ件〕明治十六年七月十六日上告
同 年十月四日發付

滋賀縣近江國滋賀郡阪元村

平民鹿兒島輕罪裁判所詰判

事

伊藤 忠雄

右忠雄カ賄賂被告事件ニ付鹿兒島輕罪裁判所檢事山崎萬幹ハ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シタリ
其要旨ハ全裁判所詰判事伊藤忠雄カ賄賂收受被告事件當裁判所ニ對シ豫審請求ニ及ヒタルモ被告ハ從來當衙詰ノ判事ニシテ廳中ノ官吏ハ舉テ交際アルヲ以テ當衙ニ於テ該事件ノ處分ヲ爲スハ裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサルノ嫌疑有之ヲ以テ裁判管轄ヲ移スノ判決アラシコトヲ請求スト云フニ在リ對手人忠雄ハ原檢事ノ意見ハ素ヨリ希望スル所ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告本院檢事長渡邊驥ノ意見トコ據リ判決スル左ノ如シ

被告伊藤忠雄カ身分ハ鹿兒島輕罪裁判所ノ判事ニシテ全衙官吏ハ平素ノ交際アルヲ以テ裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサルモノト認定ス因テ治罪法第四百五十七條及ヒ第四百五十條ノ規則ニ法リ長崎輕罪裁判所ニ移シ裁判セシムル者也
第千三百八十四號

○判文〔窃盜ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同 十六年十月四日發付

島根縣出雲國大原郡加茂中

村平民日雇稼

益太 郎

明治十五年七月十六歲八ヶ月

明治十五年七月二十二日松江輕罪裁判所ニ於テ右益太郎カ窃盜犯ノ被告事件ヲ審判シ刑法第三百六十六條第三百七十六條及ヒ第八十一條第八十五條ニ依リ其本刑ニ二等ヲ通減シテ重禁錮二月監視六月ニ處斷セリ
同裁判所檢事補岸本重整ハ右裁判ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被害者カ盜難ヲ覺知シテ官ニ訴ヘタルハ明治十五年五月十七日ニシテ被告人カ首出シタルハ同年七月十一日ナレハ則チ既ニ其盜難事件發覺後ノ自首ナルニ未發自首ノ如ク刑法第八十五條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
凡ソ犯罪ノ事件既ニ發露スルト雖モ未タ犯人ノ誰タルヲ覺知セサル場合ニ於テハ則チ刑法第八十五條ニ事未ダ發覺セサル前云々トアルコ該當スル者トス本件訴訟書類ヲ査閱スル

ニ被害者ニ於テ盜難ニ罹リシハ夙ニ官ニ申告シタリト雖モ被告人カ首出スル前ニ在テ果ソ是被告入カ所爲タルコノ發覺シタル證據アルナシ然ハ原裁判所ニ於テ刑法第八十五條ヲ適用シ減等ノ處分ヲ爲シタルハ相當ノ擬斷ナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ本件上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也
第一千三百八十五號

○判文〔米商會所條例違反ノ件〕明治十六年七月十九日上告
同 十六年十月四日申渡

京都府下京區第二十六組上

二ノ宮町住平民當今輕禁錮

四人

前 川 新 五 郎

年齡不詳

右新五郎カ米商會所條例違反被告事件ニ付明治十五年九月十八日京都輕罪裁判所ニ於テ罰金五百圓ニ處スト言渡シタル裁判確定ノ後明治十六年六月二十二日被告新五郎ハ再審ノ訴ヲ爲シタリ其要領ハ被告ニ於テハ米商仲買人ニアラス高田平次郎ノ依頼ニ據リ名義ヲ貸與ヘタルモノニシテ專テ平次郎一己ノ商業ナリ又假リニ自分商業ト認メラル、モ平次郎ヘ總代理人委任セシ上ハ該犯則者ハ平次郎ニシテ新五郎ニ非ラサレハ罰セラル、理由ナシト平次郎ヘ仲買人名義貸與ヘタル約定書ト米商會所ヘ差出シタル總理代人屆書ノ寫トヲ以テ之ヲ證明スト云フニ在リ原裁判所檢事補川畑克ハ再審ノ理由ナキモノトノ意見書ヲ差出セリ

茲ニ專任判事ノ報告本院檢事長渡邊驥ノ意見書ニ據リ判決スル左ノ如シ

本件ノ訴旨タルヤ事實ノ當否ヲ論難シテ之カ不服ヲ唱フルニ過キサレハ治罪法第四百二十九條各項以外ニ涉ルヲ以テ再審ノ理由ナキモノトス因テ該訴ハ之ヲ棄却スル者也
第一千三百八十六號

○判文〔官吏侮辱ノ件〕明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十月四日申渡

青森縣陸奧國北津輕郡五所

川原村居住平民農業

板 谷

豐 太 郎

明治十五年九月十九歲七ヶ月

巡查ノ職務ニ對シ侮辱シタル被告事件ニ付明治十五年九月十九日五所川原治安裁判所ニ開キタル弘前輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ヲ審判シ刑法第四百一十一條ニ依リ同第八十一條ニ照シ仍ホ刑法第八十九條同第九十條ヲ適用シ重禁錮十五日罰金二圓五十錢ニ處斷セリ原裁判所檢察官警部補大堀武ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シ其趣意ヲ三條ニ開列セリ其一被告入ノ年齡ヲ擧ケサルハ事實ヲ揭ケストノ一其二証人太田芳助ヲ訊問シテ其方式ヲ履行セストノ一其三裁判所并ニ裁判官其他ノ氏名ヲ揭ケストノ一ヲ以テ原裁判ハ違法ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ依リ檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ上告第一條ニ述ル所ハ原裁判言渡ハ事實ノ理由不備ナリトノ趣旨ナレハ原判文ヲ閱スルニ被告氏名ノ左傍ニ十

九歳七ヶ月ト記載シアレハ必シモ本文中ニ記入セサルモ之ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラ
ス其第二條ニ述ル所證人云々ノ事項ハ法文ニ無効ノ記載ナキニ因リ當時異議ノ申立ヲ爲ス
ニ非サルヨリハ後日上告ノ理由ト爲スヲ得ス其第三條ニ述ル所ハ治罪法第三百十四條末項
ニ所謂裁判言渡書ニハ其言渡ヲ爲シタル裁判所年月日等ヲ記載ス可シトアルニ違ヒタリト
言フニ在レト今原判文ヲ閱スルニ總テ之ヲ明記シアリテ一モ該條ニ違背シタルノ點ヲ見ス
由是觀之原裁判言渡ハ到底破毀ノ理由ナキ者ト思考スルニ因リ棄却アラソク望ムト辨明
セリ仍テ判決スルヲ左ノ如シ

上告第一條第三條ノ論旨ハ治罪法第三百十四條同第三百十四條ニ違ヒタル裁判ナリト謂フ
ニ在レト原言渡書ニハ被告人ノ年齢ヲ掲ケ且式ニ因リ其裁判所并ニ年月日等ヲ記載シア
レハ一モ違法ノ虞アルヲ見ス其第二條ニ證人太田万吉ヲ誦問シテ治罪法第八十九條ノ
程式ニ從ハサル旨ヲ論辨スレト之ヲ履行セサルヲ以テ裁判無効ト爲スノ限ニ在ラサルノ
ミナラス其證言ハ公判廷ニ於テ公ケニ聽取シ被告人モ亦其證言ノ相違ナキ旨ヲ承認シタ
ルヲハ載セテ公判始末書ニ明亮ナレハ毫モ被告事件ニ利害ノ影響アルニ非ス從テ破毀ヲ
求ムルノ理由ト爲スヲ得ス到底本件ハ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ理由ナキニ付
治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也
第一千三百八十七號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年十二月廿五日上告
全 十六年十月四日發付 埼玉縣武藏國入間郡下藤澤

村平民農間種商

齋 藤 清 吉

明治十五年十一月
四十五年八月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十一月四日浦和輕罪裁判所カ刑法第七十七條ニ依リ無罪
ト言渡タル裁判ニ對シ檢事補中谷倉太郎ハ上告セリ其要領ハ被告清吉カ齋藤直三ト連滞ニ
テ原村知長外三名ヨリ金員借受其抵當トシテ地所ヲ書入レ明治十三年ニ至リ債主知長ノ承
諾ヲ得タル趣ヲ以テ戶長橋本要作連借人直三ヲ欺キ更ニ公正ヲ經テ右抵當地ノ内二反九畝
二十一歩代金二百圓ニテ橋本政次郎ニ賣付セシモノニテ刑法第三百九十三條第二項及ヒ第
三百九十條ニ依リ罰スヘキモノナルニ原裁判所ハ其實政次郎ヲ錯誤ニ陷ラシメ却テ自己ヲ
利セシニアラサレハ縱令債主ハ其抵當ノ地所ヲ戶長役場ニ提供シタルヲ知ラサルモ被告ニ
於テ之ヲ爲シ得ヘキノ事ナリト自信シ賣付セシモノナレハ罪ヲ犯スノ意ナキモノトシ刑法
第七十七條ニ依リ處斷セシハ事實理由ノ齟齬シタルモノナリ因テ破毀ヲ求ムト云フニアリ
對手人齋藤清吉ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
原裁判言渡ヲ見ルニ(中) 被告齋藤清吉カ齋藤直三ト共同シ明治十二年七月二十一日原村知
長外三名ヨリ金百六十圓ヲ借受ケ其抵當トシテ書入タル五筆ノ地所ノ内宇筑地二反九畝二
十一歩ノ畑地ヲ明治十三年十二月九日之ヲ橋本政次郎ニ賣付シタリト云フニアリトス然ル
ニ被告ハ右ノ地所ヲ賣付セシハ債主原村知長ノ承諾ヲ得テ行ヒタリト云フト雖モ其證憑ア

ラス又橋本政次郎ハ其情ヲ知ラスシテ買取セシ事ハ政次郎代人橋本濱二郎カ豫審廷ニ於テ申述タルノミナラス本訴被告カ此點ヲ爭ハサルヲ以テ視レハ其事實疑フヘキ無シトアルハ即チ一ノ犯罪ヲ構造セシ事實ヲ見ルニ足ルカ如シ而シテ其後段ニ「政次郎ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ却テ自己ヲ利セント爲セシニアラサルノ實アリトス何ントナレハ證人橋本要作ノ申述及ヒ齋藤直三ノ申述ヲ參考シ仍ホ橋本要作カ提出セシ抵當換ノ記録ナルモノヲ閱スレハ被告カ自己ノ負擔ヲ辨濟センカ爲メノ元資ヲ得ルニ因シ彼ノ畑地ヲ橋本政次郎ニ賣付スルト雖モ因テ債主ニ損害ヲ蒙ラシメサランカ爲メ特ニ齋藤直三ト商議シ豫備ノ抵當トモ名ツク可キ二筆ノ地所ヲ兵長役場ニ提供シタルヲ以テ觀レハ假令債主則チ原村知長等ハ之ヲ知ラスト雖モ被告ニ在テハ之レヲ爲シ得ヘキノ事ナリト自信シ以テ之ヲ舉行シタルモノト認定スルニ足レハナリトアリテ其被害者ニ損害ヲ與ヘサラシメン爲メ二筆ノ地所ヲ兵長役場ヘ差出シタルヲ以テ直ニ損害ヲ加フルノ念慮ナキモノトモ認メ難ク又一步ヲ進メ被害者ニ對シ秋毫ノ損害ヲ加ヘサルモノナリトスルモ一旦爲シタル不正ノ所爲ヲ消滅セシムヘキ道理アルコトナシ到底前後撞着セシ事實ノ理由ニテ治罪法第四百十條第九ノ場合ニ適當スル事實理由ノ齟齬セシ上告ノ原由アル裁判ナリト判定ス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシメン爲メ東京輕罪裁判所ニ移ス者也

第一千三百八十八號

○判文(私書偽造ノ件)明治十五年十二月十四日上告
十六年十月五日發付

岡山縣美作國北條郡鐵砲町當

今同郡茅町寄留士族無職業

射場

萬藏

明治十五年九月

三十四年二月

私書偽造被告事件ニ付明治十五年九月十三日津山輕罪裁判所カ刑法第二百十條同第二百一
一條同第二百十二條及ヒ同第三百九十條同第三百九十七條同第三百九十四條ニ依リ同第百
條ニ照シ一ツノ重キ其第二百十條第二十一條ニ從ヒ五月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附
加シ仍ホ八月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ岸萍輔ヨリ金借ノ爲
メ木村宗一郎ヘ預リ置タル甲第一號及ヒ甲第二號證書ノ年月日ノ所ヘ添筆ヲ爲シ文字ヲ變
換シ擅ニ宛名ヲ記入シタルニアラサルコト事實明白ナルニ原裁判所ハ證據ヲ研究セス自己ノ
意見ヲ以テ推測ニ思料ヲ取リ被告萬藏ヲ罪ニ坐シタルハ不法ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云フ
ニ外ナラス仍ホ上告追伸書ヲ以テ前意ヲ擴張スルニアリ

對手人檢事林精政ハ上告趣意ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處被告萬藏ハ証書ノ年月日及ヒ宛名ヲ擅ニ變換セシモノニアラサルニ
原裁判所ハ輒シ推測ヲ下シ有罪ト認メラレタルハ不服ナリト云フト雖モ原裁判所ハ正シ
ク定規ヲ履ミ認メタル事實ニテ之ニ對スル論難ハ或ハ控訴實施ノ日當リ覆審ヲ求ムルノ
資料タルヘキモ上告シテ破毀ヲ請フノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十條

ニ上告ヲ爲スヘキ項目中事實認定ニ對シ其當否ヲ論シ之カ原因ト爲スヲ得ヘキヲ定メタル法文アラサレハナリ故ニ上告ノ趣旨相立、ス

右ノ如クナルコ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也
第千三百八十九號

○判文(謀殺ノ件)明治十六年七月十六日上告
十六年十月五日發付

岩手縣陸中國江刺郡伊手村
平民農業

佐藤辰治
明治十六年五月
五十年六月

同縣同國同郡同村平民農業
稻田重四郎
明治十六年五月
二十八年六月

同縣同國同郡同村平民農業
菱沼榮之助
明治十六年五月
三十年二月

同縣同國同郡同村平民農業
佐々木清五郎
明治十六年五月
三十一年四月

同縣同國同郡同村平民農業
菊地清十郎
明治十六年五月
二十四年九月

同縣同國同郡同村平民農業
山崎丑松
明治十六年五月
五十四年六月

同縣同國同郡同村平民農業
佐藤順吉
明治十六年五月
二十六年

右長治外六名カ被告事件ニ係ル豫審終結言渡ノ故障ニ付明治十六年五月十七日盛岡輕罪裁判所磐井支廳會議局ニ於テ治罪法第二百五十三條ニ依リ判事一名ヲシテ更ニ豫審ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシメ被告ノ内長治重四郎榮之助清五郎清十郎ハ明治十五年八月廿一日夜宮城縣士族大瀧定茂ヲ殺害セシハ被告人等カ明治十五年八月十九日男澤多兵衛方ニ於テ定茂ヲ實卷ニスルトノ相談ヲナセシニ起因スレハ豫メ謀テ殺害シタル者ニシテ丑松順吉ハ之レカ幫助ヲナシタル者ナルニ豫審判官ノ判定玆ニ出テサリシハ不當ナリトシ治罪法第二百五十二條第二項ニ照シ豫審判官ノ爲シタル言渡ヲ取消シ更ニ被告長治外四名ノ所爲ハ刑法第二百九十二條第四百條ニ該リ丑松外一名ノ所爲ハ刑法第二百九十二條第四百九條ニ該ル重罪ナリトシ治罪法第二百二十七條ニ依リ被告事件ヲ岩手重罪裁判所ニ移シ且ツ宮城控訴裁判

所檢事長ノ指揮アルマテ被告人ヲ盛岡輕罪裁判所ノ監倉ニ留置スル旨言渡シタル處被告七名ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判所會議局ニ於テ簀卷云々ノ語ヲ以テ謀殺ノ原由トセラレタレモ素ヨリ殺意アリテ言ヒタルニアラス故ニ冒頭ニ懲シメノ爲メ云々トアルニモ拘ハラス刑法第二百九十二條ニ該ルヘキ犯罪ナリト判決セラレタルハ不法ナリト云フニアリ原裁判所檢事補庄田金次郎於テハ被告共カ上告ハ原由ナキ旨ヲ答辨シ且ツ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ同會議局於テ檢察官ノ故障ヲ至當ナリトシ治罪法第二百五十三條ニ依リ更ニ取調ヲ爲シナカラ同第二百二十條ノ規則ニ從ヒ檢察官ノ意見ヲ聽カスシテ判決セシハ同法第四百十條第六項ニ該當スル不法ノ判決ナリト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

本件ヲ審案スルニ被告共ノ行爲ハ大瀧定茂ヲ懲ラシメノ爲メ簀卷ニスヘシトノ相談ヲナシタルニ起因スル迎撃ノ謀殺ノ判定ヲ下シ難キ者ニ似タリト雖モ治罪法第四百十六條第二項ノ制裁アルアリテ探証及ヒ事實ノ判定ハ承審官ニ特任スル所ノ職權ナレハ本院ニ於テ其職權内ニ立入り其判定シタル事實ノ如何ヲ是非スルヲ得ス況ンヤ本案事件ハ未タ豫審中處分ニ係リ猶ホ第二着即チ公判ニ附スヘキノ餘地ヲ存スルモノナレハ本院ニ於テ其實事ヲ確定ノモノト見認ムル能ハサルニ於テオヤ然而シテ原檢察官附帶上告旨趣ノ如ク原裁判所會議局於テ豫審不充分ナリトノ故障申立ヲ受理シ治罪法第二百五十三條ニ基キ判事一名ヲシテ更ニ豫審條件ノ取調ヲ爲シシメタル以上ハ通常豫審手續ノ如ク同法第二百二十條ノ規定ニ遵ヒ檢察官ノ意見ヲ聽カサル可カラズ然ルチ此規則ヲ履行セシメテ直

チニ故障ノ判決ヲ爲シタルハ不法ノ處分ニシテ同法第四百十條第六法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時トアル上告ノ原由ニ該當スルヲ以テ同法第四百二十八條ニ則トリ原裁判ヲ破毀シ該事件ヲ仙臺輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也
第一千三百九十號

○判文(監視規則違反ノ件) 明治十五年十二月十一日上告
同 十六年十月五日判決

滋賀縣近江國阪田郡志賀谷

村平民北川團藏厄介魚商

北川

音次郎

明治十五年八月十四年九月

明治十五年八月十九日彦根輕罪裁判所ニ於テ右北川音次郎カ監視規則違反事件ヲ審判シ被告人ハ曩キニ岐阜輕罪裁判所ニ於テ重禁錮一月監視六月ノ刑ヲ受ケ其主刑滿限ノ後監視執行ノ爲メ岐阜縣大垣警察署ヨリ旅券ヲ付シ其住居ノ地滋賀縣長濱警察署へ送致スル途中逃走シ刑ノ執行ヲ遁レタル者ナルモ其何地ヨリ何地へ逃走シタルヤ明瞭ナラスシテ犯罪ノ地ヲ認定スルニ由ナキニ因リ裁判ノ管轄ヲ定ムルコトヲ得サルヲ以テ本件公訴ハ受理ス可カラサルモノトスト言渡シタル闕席裁判ニ對シ同裁判所檢事補吉川雅都ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人ハ其住居ノ地ニアル長濱警察署ニ出頭シ旅券ヲ差出スヘキ筈ナルニ逃走シテ其所在知レサルモノナレハ其犯罪ハ長濱警察署ニ於テ監視ノ執行ヲ受ケサルノ一點ニアリ故ニ犯罪ノ地ハ長濱警察署ニシテ即チ原裁判所ノ管轄ナルハ明瞭ナルニ裁判官ニ於テ公訴受

理ス可カラスト判決シタルハ法律ニ背キ公訴ヲ受理セサルモノナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

被告人ハ其住居ノ地ニ於テ監視ヲ受クヘキニ逃走シテ刑ノ執行ヲ遁レタル者ナレハ其監視ノ執行ヲ受ク可キ地即チ被告人住居ノ地ヲ以テ犯罪ノ地ト判定セサル可カラズ而シテ被告人住居ノ地ハ原裁判所ノ管轄内ニ在ルヲ以テ其犯罪ヲ管理スヘキハ論ヲ俟ダズ然ルニ原裁判所ハ其何地ヨリ逃走シタルヤ明瞭ナラサルニ因リ管轄未定トリトシ之ヲ受理セザリシハ即チ法律ニ背キ公訴ヲ受理セサル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ本案被告事件ハ原裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノト判定シ治罪法第四百二十八條同第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ更ニ大津輕罪裁判所彦根支廳ニ於テ審判ス可キ旨ヲ言渡スモノナリ

第千三百九十一號

○判文(兇徒聚衆ノ件) 明治十六年九月十九日上告
同 十六年十月五日發付

福島縣岩代國耶麻郡新合村
平民農

飯田新五郎

明治十六年二月
三十三歲

右飯田新五郎カ兇徒聚衆被告事件ニ對シ明治十六年二月二十日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ裁判セシ旨趣ハ(相當官吏ノ調査現場及赤城平六方ニ於テ差押タル證據物件共犯人ノ

供述等ニ依レハ汝^{被告}ハ赤城平六瓜生直七等カ多衆ノ村民ヲ嘯聚シ喜多方警察署ニ喧鬧シタル際現ニ其場ニ臨マザルモ其嘯聚ニ應シ村惣代ノ任ヲ受ケ多衆ノ人民ヲ煽動シ之カ勢ヲ助ケ追テ自首シタルモノト確認ス云々(刑法第三百七條ニ兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ云々其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ストアルニヨリ刑法第六十九條ニ照シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ該ル然ルニ自首ハ事已ニ發覺ノ後ニ在ルヲ以テ首減ヲ與ルノ限ニ在ラサルモ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ)云々重禁錮二年ニ處斷セリ

大審院檢事長渡邊驥ハ右裁判ヲ不法ナリトシ裁判確定後即明治十六年九月十九日非常上告ヲ爲セリ其主點ハ刑法第三百七條ニ其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者トアルハ全ク暴動ノ際其嘯聚ニ應シ現場ニ臨ミ多衆ノ人民ヲ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ヲ云フ故ニ事實裁判官ニ於テ現場ニ臨マサル者ト認定シタル上ハ本條ノ刑ヲ言渡スコトヲ得ス乃チ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百三十五條ニ從ヒ非常上告ヲ爲シ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

大審院ニ於テ明治十六年十月五日公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ裁判スルノ理由ハ

原判文ニ被告カ犯罪ナリトシテ曰ク相當官吏ノ調査現場及赤城平六方ニ於テ差押タル證據物件共犯人ノ供述云々其目ヲ列舉シタルモ其犯罪ヲ証明スルニ足ルノ點チ一モ明示セザレハ果シテ其犯罪ノ證據ト爲スニ由ナキモノトス玆ニ原書類ニ就テ被告カ事實ヲ鑑査スルニ

明治十五年十一月二十八日人民多數喜多方警察署へ喧鬧セシ際被告ハ其現場ニ臨マサルモ
ノトス然レハ被告ノ所爲ハ刑法第三百二十七條ノ所謂其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者
ヲ以テ論スヘキモノニ非ルハ明カナリ既ニ原裁判所カ事實ヲ承審シ被告ヲ暴動ノ現場ニ臨
マサルモノト認了シナカテ本條ノ法律ヲ適用シテ刑ヲ言渡シタルハ即法律上罰セサルノ所
爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリトス抑刑法第三百二十七條ヲ適用スルニハ本條ノ首
魁又ハ教唆者ヲ除クノ外ハ皆暴動ノ現場ニ臨ミ其勢ヲ助ケタル者ニ非レハ之ヲ適用スルチ
得サルコトハ論ヲ竣タサルニ原裁判所カ被告ノ事實ニ對シ本條ノ刑ヲ言渡シ既ニ確定シタル
ハ治罪法第四百三十五條ノ場合ニ相當スル破毀ノ原由アルモノトス因テ原裁判ヲ破毀シ同
條第二項ニ據リ大審院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條理由ノ如ク飯田新五郎被告事件ハ犯罪ノ証據ナキノミナラス法律上罰スヘキモノニ
非ス即治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪直ニ放免ス

第千三百九十二號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十二月十五日上告
同 十六年十月六日發付

熊本縣肥後國熊本區妙躰寺

町士族無職業

鳥

居

忠

義

明治十五年九月
四十七年二月月

受寄財物費消及ヒ證書騙取被告事件ニ付明治十五年九月二十五日熊本輕罪裁判所カ刑法第
三百九十五條同第三百九十條ニ依リ仍ホ同第百條ニ照シ一ツノ重キニ從ヒ三月ノ重禁錮ニ
處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ八月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ赤尾
蘇淡ヨリ寄託セラレタル財物ヲ費消セシニ非ス又山田久ノ證書ヲ騙取セシニアラス各其所
以アルヘキコトナルニ原裁判所ハ刑法第三百九十五條同第三百九十條ノ罪ヲ犯シタルモノト
認メ刑ヲ言渡サレタルハ不法ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人檢事補三浦隆臣ハ上告趣意ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處寄託ノ財物ヲ費消セシニアラス又義務ノ證書ヲ騙取セシニアラス各

其所以アルコトナリト不服ヲ唱フルト雖モ原裁判所ハ正シク法規ヲ踐行シ認定シタル事實

ナレハ之ニ對スル論難ハ或ハ控訴實施ノ日ニ至リ覆審ヲ求ムル資料タルヘキモ上告シテ

破毀ヲ請フノ原因ト爲スチ得ス何ントナレハ上告ヲ爲スチ得ヘキチ定メタル治罪法第四

百十條第一ヨリ第十一ニ至ル法文以外ニ涉ル願訴ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立ス

右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第千三百九十三號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年十月六日申渡

德島縣阿波國板野郡德命村

居住平民龜太郎長男

明治十五年九月十九日

竊盜犯罪被告事件ニ付明治十五年九月十二日德島輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ヲ審判シ刑法第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ルト雖モ二十歳未滿且盜罪ヲ自首シテ其贓物ノ全部ヲ返還シタルニ付刑法第八十一條同第八十五條同第八十六條ニ照シ本刑ニ四等ヲ減シ一月ノ重禁錮ニ處シ刑法第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト言渡セリ

原裁判所檢事補印南富彦ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタル趣旨ハ被告人ノ所爲ニ對シテハ各法律ニ照シ本刑ニ四等ヲ減スレハ乃チ減盡スルニ因リ主刑ヲ免シテ只監視ニ付スヘキト當然ナルヲ原裁判官カ四等ヲ減スト言ヒナカラ一月ノ重禁錮ニ處斷シタルハ錯誤ノ裁判ナリト謂フニ在リ

大審院檢事林三介ハ原裁判言渡ハ勿論其上告趣意ニ於テモ法理ニ適セサル旨ヲ陳ヘ附帶ノ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ原裁判言渡書ニ因リ其事實ヲ推考スルニ被告人ハ犯時二十歳未滿ニシテ盜贓ノ全部ヲ還償シタル者ナレハ刑法第八十一條同第八十五條同第八十六條ニ依リ同第七十條同第七十一條ニ照シ禁錮ヲ減盡スルヲ以テ拘留ニ處スヘキ者ナルニ原裁判茲ニ出サルハ擬律錯誤ノ裁判ナルニ因リ本院ニ於テ直ニ適法ノ裁判アラソク望ムト謂フニ在リ

茲ニ之ヲ檢案スルニ被告人ノ所爲ニ因リ原裁判所カ刑法第三百六十六條ニ原キ同第八十一

條同第八十五條同第八十六條ニ照シ本刑ニ四等ヲ減スヘキ者ト爲シタルハ相當ナリト雖モ刑法第七十條ニ禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス云々同第七十一條ニ禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下算數壹圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得トアルニ依リ被告人ニ適施スヘキ本刑乃チ刑法第三百六十六條ノ刑期ヨリ四等ヲ通減スレハ減盡スルニ因リ被告人ヲ拘留ニ處スヘキ者ナリ又刑法第三百七十六條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルヲ以テ拘留ノ刑ニ監視ヲ附加スヘキ者ニアラスト然ルチ原裁判所カ重禁錮一月監視六月ニ處シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ附帶上告ノ趣旨ヲ相當ナリトス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スルヲ左ノ如シ

富平藏

前ニ辨明スル如シナルヲ以テ被告人ハ犯時二十歳未滿ニシテ竊盜罪ヲ自首シ全贓還給シタルニ付刑法第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ヲ以テ本刑ト爲シ刑法第八十一條同第八十五條同第八十六條ニ照シ本刑ニ四等ヲ通減シ刑法第七十條同第七十一條ニ則リ拘留七日ニ處スル者也

第千三百九十四號

○判文(兇徒聚衆ノ件)明治十六年九月十九日上告
年十月六日判決

福島縣岩代國耶麻郡米岡村

平民農業

大竹 庄次右衛門

明治十六年三月

三十四歳

右大竹庄次右衛門カ兇徒聚衆被告事件ニ對シ明治十六年二月廿一日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ裁判セシ顛末ハ(司法警察官及ヒ豫審掛ノ訊問ニ對スル汝^{被告}カ任意ノ白狀本部則チ赤城平六方并ニ現場ニ於テ差押タル証據物件等ニ依リ又ハ共犯人ノ陳述ヲ參照スレハ赤城平六爪生直七等カ多衆ノ村民ヲ嘯聚シ宇田成一等ノ勾留セラレタル事由ヲ尋ル等ヲ以テ口實トシ明治十五年十一月廿八日喜多方警察署ヘ喧鬧シタル際其嘯聚ニ應シ特派委員ノ任ヲ受ケ多衆ノ人民ヲ煽動シ之レカ勢ヲ助ケタルモノト確認ス(云々)刑法第三百七條兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ云々其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ストアルニ依リ同第六十九條ニ照シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ該ルヲ以テ重禁錮三年)ニ處斷セリ

大審院檢事長渡邊驥ハ右裁判ヲ不法ナリトシ裁判確定後即チ明治十六年九月十九日非常上告ヲ爲セリ其主點ハ原裁判言渡書中庄次右衛門カ犯罪ノ証憑トシテ漫然其目ヲ擧ケタルモ一モ犯罪ヲ證明スルノ點ヲ明示セサルノミナラス一件書類ニ徴スルニ庄次右衛門ハ車道開鑿事件出訴ノ爲メ特派委員ノ任ヲ受ケタル事實アリテ更ラニ暴動ノ爲メ特派委員ノ任ヲ受ケタルノ事實ナシ原言渡書ハ訴訟ト暴動ト事体ノ殊別ナルニ拘ハラス出訴ノ特派委員ヲ誤認シテ暴動ノ特派委員ト爲シ云々庄次右衛門カ所爲ハ法律ニ於テ罰スヘキモノニ非ラス因

テ治罪法第四百三十五條ノ成規ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ更ラニ相當ノ裁判アルヲ請フト云フニ在リ

大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルノ理由ハ原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其證憑タル被告カ任意ノ白狀トハ乃チ何等ノ白狀ナルヤ本部及ヒ現場ニ於テ差押ヘタル證據物件トハ乃チ如何ナルモノナルヤ共犯人ノ陳述トハ乃チ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之ヲ明示セサレハ之レヲ知ルニ由ナキノミナラズ一件書類中ニ徵照スルモ又斯ク認知シ得ヘキモノアルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ付其特派委員トナリシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月二十八日人民カ喜多方警察署ヘ喧鬧セシ舉動ノ特派委員ノ任ヲ受ケシ證跡アルヲ見サルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキノ所爲ニ非ラサルニ原裁判所カ刑法第三百七條ニ問ヒ重禁錮ニ處斷シタルハ即チ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ言渡タルモノトス因テ同條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條理由ノ如ク大竹庄治右衛門カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス即チ治罪法第三百五十八條ニ法リ無罪直チニ放免ス

第千三百九十五號

○判文(兇徒聚衆ノ件)明治十六年九月十九日上告
年十月六日判決

福島縣岩代國耶麻郡米室村

平民富次長男農

宇

田

英義

明治十六年二月二十八日

右宇田英義カ兇徒聚衆被告事件ノ公訴ニ對シ明治十六年二月二十一日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ裁判シタルノ要點ハ汝^{被告}ノ舉動相當官吏ノ調書本部及現場ニ於テ差押タル証據物件等ニ依リ或ハ共犯人ノ供述ヲ參照スレハ赤城平六爪生直七等カ多衆ノ村民ヲ嘯聚シ宇田成一等ノ勾留セラレタル事由ヲ尋ル等ヲ以テ口實トシ喜多方警察署ニ喧鬧シタル際其嘯聚ニ應シ多衆ノ人民ヲ煽動シ之カ勢ヲ助ケタルモノト認定シ刑法第三百七條及第六十九條ニ照シ重禁錮二年ニ處シタリ大審院檢事長渡邊驥ハ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十六年九月十九日非常上告ヲ爲シタリ其綱領ハ原裁判ハ治罪ノ一大原因ニ違背シ其權測ヲ輾轉シテ罪トナラサル事實ヨリ曾テ見ルヘキナキノ事實即前段^零ノ事實ヲ誤認セシモノニシテ治罪法第四百三十五條ノ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノナレハ之ヲ破毀シ更ニ至當ノ裁判アルヲ請求スト云フニ在リ大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ裁判スルノ理由ハ

原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其證據タル被告ノ舉動トハ乃チ如何ナル舉動ナリシヤ相當官吏ノ調書トハ乃チ調書中何等ノ點ニ係リシモノヤ本部及現場ニ於テ差押ヘタル證據物件トハ乃チ如何ナルモノヤ共犯人ノ供述トハ乃チ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之ヲ示サ、レハ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス一件書類中ニ徵照シテ亦斯ク認知シ得ヘキモノナルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ干渉セシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月二十八日人民カ喜多方警察署ヘ喧鬧セシ舉動ニ何等關與セシ證據アルヲ見出サ、ルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキノ所爲ニ非ルニ原裁判所カ之ヲ刑法第三百二十七條ニ問ヒ重禁錮ノ刑ニ所斷シタルハ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノトス因テ同條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條理由ノ如ク宇田英義カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス即チ治罪法第三百五十八條ニ法リ無罪直ニ放免ス

第千三百九十六號

○判文〔犯姦ノ件〕明治十五年十二月廿八日上告
 全 十六年十月六日發付

茨城縣常陸國眞壁郡猫島村
 平民農業

水

柿

勘

明治十五年八月三十八日

犯姦被告事件ニ付明治十五年八月十日土浦輕罪裁判所ニ於テ刑法第三條ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ刑法第三百五十三條及ヒ同第八十九條同第九十條ニ依照シ六月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ姦婦「シノ」ハ有夫ノ婦タル事ハ更ニ知ラサルヨリノ所

爲ナルモ其知ラサルヲ證スルハ特リ口頭ノ陳述ノ外アルヘキ理ナシ然ルニ原裁判所ハ本夫鈴木岩吉ト妻「シ」トノ間夫妻ノ名實相當ナルヤ否ヤヲ審究セス輒ク判決ヲ與ヘラレタルモ服従スルヲ能ハスト云フニアリ

對手人檢事補恒川修一郎ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ論辨シ原裁判允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ上告ノ理由ハ原裁判所カ認定シタル事實ニ對シ之ヲ論難スルニ過キカレハ一モ相立タサルモノナリ本案ハ他ニ破毀ヲ求ムヘキ原由アリ故ニ附帶上告スト其要點ニ曰抑刑法第三百五十三條末項ニ此ノ條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストアリ又治罪法第九條公訴ヲナスノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス其第二項ニ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ被害者ノ棄權又ハ私和トアリ上告書類ヲ閱スルニ告訴人本夫岩吉ハ明治十五年八月十四日原裁判確定前ニ於テ檢察官ニ宛私和シタルニ付公訴消滅セシメラレ度旨願出テダレハ則治罪法第九條第二項ニ相當シ該公訴ハ消滅セシムヘキモノナレハ自ラ原裁判ハ擬律ノ錯誤ニ歸スルモノナリトス因テ破毀ヲ求ムトノヲ爰ニ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ正當ノ法規ヲ踐行シ認メタル事實ニ對スル論難ニテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲スヲ得ヘキ項目外ニ涉リタルモノナレハ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス附帶上告趣旨ノ如ク刑法第三百五十三條其末段ニ明掲アリテ本夫ノ告訴ニ依リ始テ公訴ヲ喚起スヘキモノナレハ其公訴權ハ特リ本夫ノ有スルモノナル論ヲ俟タス而シテ本夫ト其被告トノ間之カ私和ヲナシ訴權ヲ消滅セシモノナレハ從テ公訴ハ

消滅セシメスンハアルヘカテサルハ理ノ最モ親易キ處ナリトス加ルニ治罪法第九條第二項ヲ見ルモ明晰ダレハナリ本案上告書類中告訴人本夫岩吉ハ明治十五年八月十四日附正當ノ代人ヲ以テ被告勸次トノ間私和セシ旨原檢察官ヘ宛申出テ併テ告訴願下ケ度ト申請セリ然ラハ則其請願ニ任セ公訴消滅セシメスンハアルヘカテ況ヤ被告勸次カ裁判宣告ヲ受ケ未タ確定ニ至ラサル前ナルニ於テテヤ以上辨明スル理由ナレハ原裁判ハ其當時ニアリテハ敢テ違法ナラサルモ今ヨリ之ヲ觀レハ擬律錯誤ニ係ル裁判ナリト云ハサルヲ得ス因テ治罪法第四百十條第十項ノ原因アル附帶上告ナリト判定ス
右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却シ附帶上告ニ付治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ直チニ治罪法第三百五十八條ニ依リ被告水柿勘次ニ對シ免訴放免ヲ言渡ス者也

第千三百九十七號
○判文(遺失物隱匿ノ件)明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十月八日發付

茨城縣常陸國筑波郡谷田部
町平民農業

荒 卷 久米吉

明治十五年八月
三十年一月

右久米吉カ被告事件ニ付明治十五年八月十八日土浦輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年五月十五日宮本治郎右衛門雇人松永金藏カ遺失セシ金五圓ヲ拾得シテ一圓拾得シタリトノ不
三〇九

實ノ届ヲ爲シ殘金四圓ヲ隱匿シタリトノ公訴事件ヲ審理スルニ諸證人及ヒ被告ノ供述三岐ニ派レ其金額相符合セズ犯罪ノ證據充分ナラサルニ付無罪放免ス但シ證據物トシテ引上ケシ一圓紙幣ハ土浦警察署牛久分署へ返付スル旨言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補山口重理上告ヲ爲スノ主要ハ原裁判所於テ無罪ノ理由トシテ明示シタル事實ハ前後曖昧ニシテ且阻礙アルノミナラス證人等ノ證言ヲ審究セズシテ輒ク之レヲ排却セルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審案スルニ上告ノ旨趣ハ事實ノ齟齬及ヒ越權ノ處分ナリト論告スルモ到底治罪法第四百六條ノ原則ニ於テ承審官ニ特任シタル所ノ採証及ヒ事實認定上ノ當不ヲ論難スルニ過キサレハ之レヲ以テ上告ノ原由ト爲スチ得ヘカラサルモノナリ故ニ上告ノ旨趣ハ相立タサルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ隨ヒ該上告ヲ棄却スルモノ也

第一千三百九十八號

○判文〔烟草稅犯則ノ件〕明治十五年十二月廿二日上告
 同 十六年十月八日發付

埼玉縣武藏國入間郡川越西

町第十番地士族

齋 兼 重

明治十五年十月
 四十九年

右兼重カ被告事件ニ付明治十五年十月十四日浦和輕罪裁判所ニ於テ被告カ鍛冶町九番地渡邊吉右衛門所有土藏ノ差懸ニ間口九尺奥行六尺ノ店ヲ開キ製造煙草ヲ小賣シタル事ハ被告

人ノ自陳スル處ニ依リ明瞭タリ然レモ被告人ハ已ニ卸賣營業鑑札ヲ受ケ居ルモノナレハ別ニ小賣營業鑑札ヲ受ケルニ及ハスシテ小賣ヲ爲シ得ルモノグリ則チ明治八年第五百十號布告烟草稅則第一則第二條ニ卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營業鑑札ヲ願受ケルニ及ハスト雖モ小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼候義ハ不相成候事トアルヲ以テナリ然ラハ被告人カ小賣ヲ爲シタルヲハ法律ノ明許スル處ナルヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スモノナリト言渡シタル裁判ニ對シ結城檢事補上告ノ要旨ハ被告カ毎月九回ノ市日更ラニ他人所有ノ土藏ニ差懸ケアル間口九尺奥行六尺ノ店ヲ開キ煙草小賣鑑札ヲ掲ケス製造煙草ヲ小賣シタルハ明治八年第五百十號布告烟草稅則第三則第三條ニ依リ處分スヘキモノナリ何ントナレハ第一烟草營業鑑札ハ一定ノ場所ニアラサレハ其効力ヲ有セス第二卸賣小賣共ニ必ラス看板ヲ戶外ニ掲ケサルヘカラス第三兼賣トハ同一ノ場所ニ於テスルニ限ルヲ以テナリ因テ原裁判所ニ於テ被告カ所爲ハ法律ノ明許スル所ナリト認定シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告事件ノ公判始末書ニ「自分ハ已ニ明治十一年二月十三日出賣鑑札ヲ受ケ居ルヲ以テ其鑑札ヲ携帶スル上ハ不都合ナキ事ト心得本年九月十六日ヨリ市日毎ニ渡邊吉右衛門カ土藏差懸ケテ借り受ケ煙草小賣ヲ致シタリト陳述シ云々又ダ九尺ニ六尺ノ差懸ケニ僅カニ月九回朝ニ出テ夕ニ歸ルニ於テハ無論出賣ト心得出賣鑑札ヲ所持シ販賣シタル旨ヲ答フトアルニ依レハ被告ハ自宅ノ外別ニ家屋ヲ設ケ煙草小賣店ヲ開キ居商ヲ營ミタルモ

ノニアラス然ラハ烟草卸賣營業人ニシテ出賣鑑札ヲ相携ヘ毎月九回ノ市日毎ニ煙草小賣ノ出賣ヲ爲シタル所爲ニ對シ明治八年第五百十號布告烟草稅則第一則第二條ニ明許スルモノトシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ素ヨリ相當ノ裁判ナリトス因テ該上告ハ其理由ナキモノトシ治罪法第四百二十七條ニ依リ之レヲ棄却スルモノ也

第一千三百九十九號

○判文(凶徒聚衆ノ件)明治十六年九月十九日上告
十六年十月八日申渡

福島縣岩代國耶麻郡平林村
平民農業

飯島

幸太郎

明治十六年二月
三十九年七月

兇徒聚衆被告事件ニ付明治十六年二月十六日福島縣裁判所若松支廳ニ於テ刑法第三百三十七條同第六十九條ニ依リ重禁錮三年六月ニ處スト言渡タル確定裁判ニ對シ同年九月十九日大審院檢事長渡邊驥ハ職權ヲ以テ非常上告ヲ爲スノ要領ハ右言渡書中幸太郎カ犯罪ノ證據トシテ汝ノ舉動共犯人ノ陳述相當官吏ノ調書及ヒ陳述其他證據物件等ト記載アレモ漫然其目ヲ列舉シタルノミヨシテ其犯罪ヲ證明スルノ點ヲ明示セサルノミナラス如何ナル陳述ヲ爲シ如何ナル物件ヲ指シタルヤ共ニ之ヲ認ムヘキ所ナシ而シテ一件書類ニ徵スルニ幸太郎カ道路開鑿事件出訴ノ爲メ副都理ノ任ヲ受ケタルノ事實アルモ更ニ暴動ノ爲メ副都理ノ任ヲ受ケタルノ事實ナシ固ヨリ訴訟ト暴動ト事體ノ殊別ナルニモ拘ハラヌ暴動ノ副都理ト誤

認シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ治罪法第四百三十五條法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ云々トアルニ相當スルヲ以テ非常上告ヲ爲シ破毀ヲ求ムト云ニアリ

大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ裁判スル理由ハ

原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其證據タル被告カ舉動及陳述トハ何等ノ點ニ係リシモノヤ證據物件トハ乃チ如何ナル者ヤ共犯人ノ陳述トハ乃チ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之ヲ示サ、レハ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス一件書類中ニ徵照シテ又斯ク認知シ得ヘキモノアルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ干涉セシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月二十八日人民カ喜多方警察署ヘ喧鬧セシ舉動ニ關與セシ證據アルヲ見出サ、ルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキ所爲ニ非サルニ原裁判所カ刑法第三百三十七條ニ問ヒ重禁錮三年六月ニ處斷シタルハ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノトス因テ同條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條理由ノ如ク飯島幸太郎カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス即チ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪直ニ放免ス

第一千四百號

○判文(兇徒聚衆ノ件)明治十六年九月十九日上告
年十月八日判決

大堀喜太郎

明治十六年二月二十四日

右大堀喜太郎兇徒聚衆被告事件ニ付明治十六年二月十九日福島縣輕罪裁判所若松支廳ニ於テ刑法第三百二十七條同第六十九條ニ依リ重禁錮三年ニ處スト言渡タル確定裁判ニ對シ明治十六年九月十九日大審院檢事長渡邊驥ハ職權ヲ以テ非常上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告喜太郎ノ所爲タル公判始末書其他一件書類ニ據ルニ暴動ノ際即チ明治十五年十一月二十八日ニハ他用ノ爲メ新合村赤城平六宅ヘ到リタルト明瞭ナルモ其囂聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタルノ證憑毫モアルトナケレバ法律ニ於テ罰スヘキ者ニ非サルヤ明カナリ然ルニ原裁判所カ此ノ如キ無證ノ事實ニ對シ刑ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百三十五條ノ成規ニ從ヒ非常上告ヲ爲シ破毀ヲ求ムト云ニアリ

大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル理由ハ原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其證憑タル被告カ舉動及ヒ相當官吏ノ調書トハ何等ノ點ニ係リシモノヤ現場及本部ニ於テ差押タル証據物件トハ如何ナルモノヤ共犯人ノ陳述トハ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之ヲ示サレハ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス一件書類中ニ徵照シテ又斯ク認知シ得ヘキモノアルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ干渉セシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月二十八日人民カ喜多方警察署ヘ喧

關セシ暴動ニ關與セシ證跡アルヲ見出サ、ルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキ所爲ニ非サルニ原裁判所カ刑法第三百二十七條同第六十九條ニ問ヒ重禁錮三年ニ處斷シタルハ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ言渡タルモノトス因テ同條第二一項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條ノ理由ノ如ク大堀喜太郎カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス即チ治罪法第二百五十八條ニ依リ無罪直ニ放免ス

第千四百一號
○判文〔兇徒聚衆ノ件〕明治十六年九月十九日上告
年十月八日判決

福島縣岩代國耶麻郡新合村
平民農業

渡邊數馬

明治十六年二月四十一日

兇徒聚衆被告事件ニ付明治十六年二月十四日福島縣輕罪裁判所若松支廳ニ於テ刑法第三百二十七條同第六十九條ニ依リ重禁錮四年ニ處スト言渡タル確定裁判ニ對シ同年九月十九日大審院檢事長渡邊驥ハ職權ヲ以テ非常上告ヲ爲シタリ其要領ハ右言渡書中犯罪ノ證憑ト爲シ掲載スル處ハ當時ノ舉動共犯人ノ陳述其他證據物件トノミアリテ其犯罪ヲ證明スルノ點ヲ明示セサルノミナラス尙一件書類ニ據ルモ亦如此認ムヘキモノアラス因テ惟フニ該裁判ハ治

罪ノ原則ニ違背シ其推測ヲ輾轉シテ罪トナラサル事實ヨリ曾テ無キ所ノ事實ヲ誤認シタルモノナリトス依テ治罪法第四百三十五條ノ成規ニ基キ非常上告ヲ爲シ破毀ヲ求ムト云ニア

大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル理由ハ原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其證據タル被告カ當時ノ舉動トハ何等ノ點ニ係リシモノヤ其犯人ノ陳述トハ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ證據物件トハ如何ナルモノヤ其判文中之ヲ示サレハ之ヲ知ルニ由シナキノミナラス一件書類中ニ徵照スルニ又斯ク認知シ得ヘキモノアルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ干渉セシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月廿八日人民カ喜多方警察署へ喧鬧セシ舉動ニ關與セシ證據アルヲ見出サレナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキ所爲ニ非サルニ原裁判所カ刑法第三百三十七條ニ問ヒ重禁錮四年ニ處斷シタルハ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ言渡タルモノトス因テ同條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條ノ理由ノ如ク渡邊數馬カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス即チ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪直チニ放免ス

第千四百二號

○判文(委託物費消ノ件)明治十五年十二月廿六日上告 同 十六年十月八日判決

宮崎縣日向國那珂郡郷ノ原
村百九十三番戶居住士族農
業

柳 田 重 周

明治十五年十一月
三十二年十一月

同縣同國同郡同村九十三番
戶住居士族農業

藤 田 紋 藏

明治十五年十一月
五十一年十一月

費用受寄財産被告事件ニ付明治十五年十一月四日宮崎輕罪裁判所ニ於テ右重周紋藏ノ所爲ヲ審判シ被告人等ハ同村人其他ヨリ金圓貸借方ノ依頼ヲ受ケ即チ原口郡司ヨリ金圓借入レタルニ因リ各依頼者ノ爲メ正實ニ保全及ヒ配賦スヘキヲ當然ナルニ福岡平吉等ニ渡スヘキ金圓ノ内三百九十五圓ヲ擅ニ費用シタル者ト認定シ所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ從ヒ新舊ノ法ヲ比照シ新法ノ輕キニ從ヒ刑法第三百九十五條ニ依リ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條及ヒ第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ各重禁錮二月ニ處斷セリ

被告柳田重周外一名ハ該裁判ニ對シ各上告ヲ爲シタリ其趣意トスル處ハ互ニ事實ノ理由ヲ辨駁シテ共犯ニアラストノ旨ヲ述ヘ重周ハ紋藏ノ所爲ナリト主張シ紋藏ハ重周ノ所爲ナリ

ト主張ス此場合ニ當リテハ宜ク裁判官タル者其曲直何レニアリシヤチ判セサル可ラス然ル
テ原裁判ハ輒ク兩名ニ對シ各刑ヲ當行シタルハ法律ヲ濫用シタル不當ノ裁判ナルニ付破毀
ヲ求ムト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ閱スルニ事實及ヒ徵憑ヲ掲ケ各證人ノ陳述ニ因リ本件貸借金ハ被告兩名
間ニ於テ當然負擔スヘキ者ナルヲ輒ク費消シタルハ即チ連帶ノ犯罪ナリト認定シ相當ノ
刑ヲ適用シタル者ナリ然ルヲ被告人等ハ各分擔ノ義務アルヲ以テ共犯ニアラストノ旨ヲ
主張スレトモ裁判官ノ職權ヲ以テ判定シタル事實ハ徒ニ口頭ノ陳辨ヲ以テ動カストヲ得サ
ル者トス仍テ本件ハ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲スノ場合ニ適當セサルニ因リ
治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也
第千四百三號

○判文〔漂流物隱匿ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
同 十六年十月九日發付

熊本縣肥後國下益城郡馬場

村平民農業

酒 井

只 平

明治十五年九月
四十二年三月月

熊本縣肥後國下益城郡馬場

村平民下足職

嘉 悅

熊 太郎

明治十五年九月
二十二年八月月

熊本縣肥後國下益城郡岩下

村平民農業

伊 津

野 吉 平

明治十五年九月
三十三年生月不知

熊本縣肥後國下益城郡岩下

村平民船乘業

村 田

勝 太郎

明治十五年九月
二十六年十月月

漂流物ヲ隱匿セシ情ヲ知テ買取リタル被告事件ニ付熊本輕罪裁判所ノ言渡タル裁判ニ對シ

檢事補森田廣矩上告一件法式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ

本案原裁判言渡ハ明治十五年九月廿八日ニアリ檢察官上告申立ハ同十月二日ナリ〔十月一
日曜〕定規ニ合スルモ其上告趣意書ヲ差出シタルハ同十月九日ニテ上告申立ヨリ第七日
ニ當レリ然ラハ則チ治罪法第四百十七條上告申立ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日內ニ趣意
書ヲ差出スヘシトノ規則ヲ犯シタルモノニテ治罪法第二十條ニ依リ上告ノ權ヲ失ヒタルモ
ノト判定ス因テ之ヲ棄却スルモノ也

第千四百四號

○判文(証券印税犯則ノ件)明治十五年十一月廿日上告
同 十六年十月九日發付

茨城縣常陸國行方郡若海村
平民農

原 田 次郎 介

明治十五年七月
五十六年

同縣同國同郡潮來村士族農

宮 本 寬 太郎

明治十五年七月
三十八年七月

証券印税規則違犯事件ニ付明治十五年七月二日土浦輕罪裁判所カ証券印税規則第四則第七條ニ照シ次郎介ハ罰金拾圓貳拾錢寬太郎ハ罰金五圓拾錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ本案犯則ノ證書タル四百三拾圓ニ關スル金錢約條證書ニシテ之ニ合金千三拾五圓ト記載アルハ其約定金額ノ起因ヲ掲ケタルニ外ナラス然ルニ原裁判所カ千三拾五圓ヲ以テ犯則ノ金額ト爲シ罰金ヲ科シタルハ不當ナリト云フニ在リ因テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

訴訟書類ヲ閱スルニ被告等ハ立木買受証ト題セル證書ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シテ互ニ授受セシモノナリ而シテ該證書ノ目的タル金額ハ四百三十圓ナリト雖モ素ト賣買ニ原因スルモノナレハ其證書面記載ノ金額即チ千三拾五圓ニ相當スル印紙ヲ貼用スルヲ以テ至當ト爲ス故ニ原裁判所カ証券印税規則第四則第七條ニ依リ次郎介ハ其減稅高ノ十倍罰金拾圓

貳拾錢寬太郎ハ減稅高ノ五倍罰金五圓拾錢ニ處スト言渡シタルハ至當ノ裁判ニシテ毫モ破毀ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
第千四百五號

○判文(氏名詐稱ノ件)明治十五年十一月三十日上告
同 十六年十月九日判決

大坂府和泉國大鳥郡下石津
村平民常吉長男

三 里 市 松

明治十五年六月
二十五年七月

右市松カ被告事件ニ付明治十五年六月二十二日堺輕罪裁判所ニ於テ被告ハ曩キニ犯シタル窃盜罪ノ審理ヲ受シル際氏ヲ坂口年齡ヲ二十一年ト詐稱シタル所爲アルモノトシ而テ其所爲ハ罪ヲ科スヘキモノニアラサルヲ以テ免訴スト言渡シタル裁判チ不當ナリトシ同裁判所檢事補松野貫義カ上告ヲ爲シタル旨趣ハ被告カ所爲ハ刑法第二百三十一條ノ明文アルアリテ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノニアラス即チ該條ヲ適用シ仍ホ先キニ處斷ヲ受ケタル窃盜罪ト二罪俱發例ニ照シ處分スヘキモノナリト云フニ在リ本院檢事池上三郎ハ上告ニ對スル意見ヲ陳辨シ且附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ窃盜罪ノ審判ヲ受ルノ際氏及ヒ年齡ヲ詐稱シテ其處斷ヲ受ケ裁判確定ノ後ニ至ルマテ繼續シテ其詐稱ノ氏年齡ヲ以テ監獄署ニ在ルモノナレハ其確定後ノ詐稱罪ハ刑法第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ處斷スヘキモノト思料スルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ因テ之ヲ審接スルニ原裁判官ニ於テ認

メタル證據ト事實ニ依レハ被告市松ハ先キニ竊盜罪ノ審判ヲ受ル際氏ヲ坂口ト年齢ヲ二十一年〔此年齡ハ舊歲ニシテ其生月ヲ知ラサルニ〕ト詐稱セシヲ以テ宥恕減輕法ニ依リ本刑ニ一等減ノ處斷ヲ受ケ裁判確定ノ後其刑ノ執行即チ重禁錮三月ヲ役過スル迄連續シテ官署ニ對シ詐稱ノ氏年齢ヲ稱呼シタルモノナレハ即チ繼續犯ニシテ前裁判確定後ニ係ルヲ以テ其所爲ハ刑法第二百三十一條官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス同第九十二條先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ係ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ同第七十條禁錮罰金ニ該ル者減輕スヘキ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ストアルニ照シ罰金貳圓五十錢以上二十五圓以下ノ範圍内ニ於テ相當ノ罰金ニ處斷スヘキモノトス然ルニ原裁判官カ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤アル不當ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

三 里 市 松

前ニ辨明スル理由ナルヲ以テ被告カ犯罪ノ證據及ヒ事實ハ原裁判官ノ確認スル所ニ依リ刑法第二百三十一條第九十二條第七十條ニ照シ罰金三圓ニ處スルモノナリ
第千四百六號

○判文〔放火ノ件〕明治十六年七月廿八日上告
同 十六年十月九日申渡

埼玉縣武藏國高麗郡下廣谷

村五十七番地平民

小 林

文 藏

明治十六年六月
五十八年二月

右文藏カ被告事件ニ付明治十六年六月廿六日群馬重罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年三月三日群馬縣上野國西羣馬郡大久保村平民星野馬藏方同居人小侯「トミ」ハ姦淫ヲ挑ミ竟ニ其情ヲ遂ケ猶又同月三十日「トミ」カ田圃ニ耕シ居タルヲ以テ俱々逃走セント誘ヒシモ「トミ」ニ於テハ管ニ其意ニ從ハサルノミナラス被告カ暴行ヲ加ヘントスルヲ恐レ居宅ヘ駈ケ歸リ締リ戸ヲ鎖シ被告ノ侵入シ來ルヲ防禦シタルユリ被告ニ於テハ戶外ヨリ種々脅嚇スルモ「トミ」ニ於テ其言ニ從ハス潛匿シテ出テ來ラサルヲ憤リ所持ノ摺付木ヲ以テ同家即チ星野馬藏家屋北裏軒下ニ積ミアル粟売木葉ヘ放火シ終ニ該家ヲ燒燬ニ至ラシメタルモノト判定シ刑法第四百二條ニ照シ對質ノ上死刑ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ被告文藏ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ「トミ」ヘ始メテ挑淫セントノ當時ハ他ノ場所ニ在リシ而已ナラス陽物ヲ損傷シ居リテ實際淫事ヲ舉行スル能ハサルヲ以テ其旨ヲ申立ル上ハ主治醫ヲシテ其實否ヲ檢査セシメサル可カラス又「トミ」ニ於テハ強姦ノ訴ヲ爲シ居ルニ強姦セシモノニアラサルカ如ク原判文ニ示シアリ又脅嚇トハ何事ヲ指スモノカ殊ニ放火罪ノ刑ニ處セントセハ必ヤ惡意有無ノ判定即チ該家ヲ燒拂ハントノ惡意ヨリ放火セシモノナルカ將タ「トミ」ヲ驚カサントノ意ニ過キサルモノナルカノ理由ヲ明示セサルヘカラス然ルニ原裁判所ニ於テハ陽物如何ノ檢査ヲ爲サルノミナラス證據ノ不充分ナルニモ拘ハラス又脅嚇ノ事柄及ヒ惡意

有無ノ理由ヲ明示セシテ輒ク放火犯ナリトノ判定ヲ下シ死刑ヲ言渡サレタルハ不當ナルニ付該裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ原裁判所檢察事太田義顯ニ於テハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由アラサル旨答辨セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事中山盛有ノ報告ニ據リ上告代官人今村長善ノ陳辨及ヒ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ代官人ニ於テハ原判文中被告カ放火シタル粟壳木葉ノ積ミアリシ場所ハ果シテ家屋ニ密接シ居リシヤ否ヤノ理由及ヒ其分量ノ多寡ヲ明記セサルハ審理不盡ノ裁判ニシテ其審理次第ニテハ被告ハ他ニ適條即チ刑法第四百六條ノ如キヲ以テ處セラル、ニ至ルモ亦未ダ知ルヘカラス又公訴裁判費用ノ全部又ハ幾分ヲ擔當スヘキノ言渡ヲ爲サ、リシハ治罪法第二百七條ニ背馳セル不法ノ裁判ナレハ旁原裁判ノ破毀ヲ求ムル旨辨明シ檢察官ニ於テハ被告カ上告ノ旨趣ハ勿論代官人ノ新クニ申立ル事柄ト雖モ更ニ上告ノ原由ト爲スニ足ラサル旨陳述セリ因テ之ヲ判決スル左ノ如シ

本件ハ承審官ニ於テ被告ハ「トミ」ノ言ニ從ハス潛匿シテ出來ラサルヲ憤リ所持ノ摺付木ヲ以テ星野馬藏家屋北裏軒下ニ積ミアル粟壳木葉等へ放火シ終ニ該家ヲ燒燬ニ至ラシメタル者ト判定シタルトハ載セテ原判文ニ在レハ其故意アリテ爲シタル所以及ヒ其點火シタル粟壳木葉ノ家屋ニ密接シタル場所ニ積アリテ家屋ヲシテ燒燬ニ至ラシムルニ足ルノ理由ハ自ラ明瞭ナリトス將テ治罪法第二百七條ハ公訴ノ裁判費用アリテ後始メテ適用スヘキ規則ニシテ是等ノ費用ヲキ限リハ素ヨリ適用スルニ及ハス本件ノ如キハ是等ノ費用即チ豫審公判ニ付呼出シタル證人等ヨリ旅費日當等ヲ要求セサレハコソ之ヲ擔當セヨトノ言渡ヲ爲サ、リシモノト見做サ、ルヲ得サレハ到底審理不盡又ハ事實ノ理由ヲ明示セ

ストノ論旨ハ勿論治罪法第二百七條ノ規則ニ違背セリトノ申分ニ至テモ更ニ相立サル者トス其他一件書類ヲ審閱スルニ原裁判上一トシテ違法ノ廉アルニアラサレハ上告ノ旨趣ハ總テ相立サル者トス

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ノ規則ニ遵ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

第千四百七號

○判文(空物賣買ノ件) 明治十五年十二月七日上告
同 十六年十月九日申渡

山口縣長門國阿武郡裁細工
町居住士族

尾 形 岩 龜

明治十五年七月
二十四年八月

右岩龜カ被告事件ニ對シ明治十五年七月廿四日裁治安裁判所ニ開キタル山口輕罪裁判所ニ於テ木綿賣買ト唱ヘ空物ヲ賣買爲シタルモノト判定シ刑法第五條同第四百四條同第四十三條第二項三項及ヒ明治十三年第二十一號公布ニ照シ罰金十五圓ニ處シ紀罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ得タル金錢共悉皆沒收スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告岩龜カ上告爲シタル要領ハ刑法第四十三條ニ依リ金錢物品トモ悉皆沒收ナリタルハ不當ノ裁判ナリ如何トナレハ明治十三年第二十一號ノ公布云々其末尾ニ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシトアリ此法ニ就テ考案スルニ必ス金錢物品ハ下付セラルヘキヲ沒收シタルハ不當ナリト云フニアリ同裁判所檢察官ハ原裁判相當ナリト答弁セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ

意見ヲ聽クニ明治十三年第二十一號公布ノ精神ハ單ニ其賣買ヲ無効ニ屬セシムルニ止リ敢テ其物件ヲ官沒スルノ意ニ非ヌ故ニ刑法第四十三條ニ云々ノ明文アルモ本件ハ該條ノ例外法ト思考スト云フニアリ因テ之ヲ審察スルニ明治十三年第二十一號ノ公布タル其賣買取引ヲ以テ無効ニ歸セシムルニ止メ刑法第五條第二項及ヒ同第四十三條等ニ依照スヘキモノニ非ス何ントナルニ該公布ハ諸法律規則ト異リ其官許ヲ得タル米商會所及ヒ橫濱取引所等ノ内外ダリトモ之ニ類似シタル取引ヲ爲スモノヲ處斷スヘキ單行ノ罰則ナレハナリ然ラハ原裁判所カ該物件金錢ヲ沒收シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ基キ此一部ヲ破毀シ直チニ判決スル左ノ如シ

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ原裁判所カ沒收シタル物件金錢共還付スルモノ也
第千四百八號

○判文「皇室ニ對スル不敬ノ件」明治十六年八月四日上告
年十月九日發付

和歌山縣紀伊國名草郡和歌
山久保町一丁目第十八番地
平民當時東京府牛込區東横
町第四番地寄留落語家業

古 林 繁 越
明治十六年七月
三十歲三ヶ月

皇室ニ對シ不敬ノ所爲ヲナセシ被告事件ニ付明治十六年七月十四日浦和輕罪裁判所ニ於テ刑法第一百七條一項及ヒ第二百十條ニ依リ重禁錮四年六月ニ處シ罰金百七十圓ヲ附加シ監視二年ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ曾テ文明開化ノ誤解ト題シ上告人カ演說爲シタルハアレ其論旨ノ 至尊ニ對シ毫モ不敬ニ涉ルヲナシ然ルニ原裁判所ハ某警部ノ不正ニ捏造セシ演說筆記等ニ輒シ心證ヲ資リ以テ上告人カ其罪ヲ犯シタリト斷定セシハ甘受シ難キノミナラス仮リニ其筆記ヲ真正トシ果シテ原判文ノ如キ事實アリシモノトスルモ何ソ之ヲ以テ 至尊ニ對スル不敬ノ所爲ト云フヲ得ヘケンヤ倘夫レ果シテ其言辭ノ罪辭ニ觸ル、モノト認定セハ其理由ヲ付セサルヘカラサルニ漫然刑ヲ適用セシハ蓋シ不法ノ處分ナリ況ンヤ其實事ナキニ於テオヤ因テ直チニ上告人ヲ無罪放免ノ判決アラントヲ冀望スト仍ホ退申書ヲ以テ其趣意ヲ擴張セリ
對手人檢事補中谷倉太郎ハ其演說筆記ノ不正ナラサルト原裁判ノ適當ナルトヲ詳辨シ以テ上告ノ原由ナキ旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ原由トスル處數箇ニ分ルト雖モ之ヲ要スルニ原裁判所ノ事實認定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キス即チ治罪法第百四十六條ニ違背シ漫ニ裁判官ノ職權内ニ侵入シ輒ク之ヲ左右セントスルモノニシテ到底破毀ノ原由ナキハ論ヲ俟サルナリ但該論點中原裁判ハ事實ノ理由ヲ附セスト主張スルモ原判文ニ言ヲ偶像ニ托シテ 至尊ニ比シ語ヲ大社ニ假リテ皇居ノ經營ニ擬シ以テ不敬ノ妄說ヲ爲シタリ云々ト記載シアリテ其理由ヲ附シタルヤ

明瞭タリ是亦破毀ノ理由ト爲スコカラサルモノナレハ上告ノ趣旨總テ相立タス
右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也
第千四百九號

○判文(賭博ノ件) 明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十月九日發付

静岡縣遠江國敷知郡宇志村
平民黒鐵稼

中 村 善

明治十五年六月
三十八年三月

博奕被告事件ニ付明治十五年六月十六日濱松輕罪裁判所カ證據充分ナラサルヲ以テ無罪放
免スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補吉富基太郎ハ上告セリ其要領ハ被告善十カ數名ト骰子箸
等ヲ以テ金錢ヲ賭シ現ニ博奕ヲ爲巡査臨場ノ際逃走シタルモノナルハ共犯人ノ口供及ヒ自
首并ニ證據物件等ヲ以テ明瞭ナリ然ラハ則チ其自首ハ發覺後ニ係レハ單ニ刑法第二百六十
一條ニ依リ處分スヘキニ原裁判所ハ其衆証ヲ採ラス却テ証憑充分ナラストシ輒シ無罪放免
ヲ言渡タルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ
對手人中村善十ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處被告善十カ自首并ニ共犯人ノ口供證據物件コト罪證明白ナルニ却テ
證據不充分ナリト認メタルハ不法ナリト云フニアリ抑各個ノ證據ニ依リ其犯罪ヲ認定ス

ルハ原裁判所ノ特權タルハ獨ケテ治罪法第四百十六條ニ明カナリ加之刑法第二百六十一
條ハ財物ヲ賭シ現ニ博奕ヲ爲シ云々トアリテ現ニ博奕ヲ爲シタル者トハ財物ヲ賭シ骰子
骨牌ヲ以テ眼前勝負ヲ決スル者ヲ云ヒタルモノ即チ現行犯ニアラサレハ其罪ヲ問フヘキ
ニアラス然ルニ原裁判所カ現ニ認メタル證據充分ナラサルヲ以テ無罪ト判定セシ上ハ輒
ク之ヲ左右スルヲ得ス因テ上告ノ趣旨効ナキモノトス
右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也
第千四百十號

○判文(私爲醫業ノ件) 明治十五年十二月廿一日上告
同 十六年十月九日發付

山口縣周防國玖珂郡通津村
十二番地士族賣藥行商

大 崎 彌 五 郎

明治十五年八月
五十二年四月

私ニ醫業セシ被告事件ニ付明治十五年八月廿五日青森治安裁判所ニ開ク弘前輕罪裁判所ニ
於テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ト言渡シタル裁判ヲ不當トシ檢察官代理警部補平賀
券祐カ上告ノ要領ハ被告彌五郎ハ官許ヲ得スシテ醫業ヲナシタル者ニ付刑法第二百五十六
條ニ從ヒ罰スヘキモノナルモ其患者ニ服用セシメタル藥ハ官許ヲ得タル製藥ナレハ情狀ヲ
酌量シ本刑ニ一等ヲ減シ處斷スヘキモノナリトス然ルチ裁判官カ無罪ト言渡シタルハ不當
也ト云フニ在リ

對手人大崎彌五郎ハ檢察官ノ上告ニ對シ其不當ナルヲ辨駁シ原裁判ハ相當ナリト答辨セリ
本按上告ノ要旨タル被告ハ官許ヲ得スシテ醫業ヲナシタル者ニ付刑法第二百五十六條ヲ以
テ罰スヘキ者ナルニ無罪ト言渡シタルハ不當ナリト云フニ在テ要スルニ原裁判官ノ心憑判
斷ニ任スヘキ事實ノ認定上ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條中ノ項
目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ趣旨相立タルモノトス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ基キ棄却スルモノナリ

第千四百一十一號

○判文(竊盜ノ件)明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十月九日申渡

京都府丹波國南桑田郡西條

村平民

岩 多 三 郎
明治十五年九月
三十年六月

同村平民

原 田 丑 之 助
明治十五年九月
二十九年七月

同村平民

原 田 忠 兵 衛
明治十五年九月
六十三年六月

同村平民

圓 山 八 郎 兵 衛
明治十五年九月
五十二年九月

竊盜被告事件ニ付明治十五年九月九日園部輕罪裁判所ニ於テ無罪放免スト言渡シタル裁判
ニ對シ民事原告人木内幾右衛門外五名ハ上告セリ其要領ハ被告原田忠兵衛カ共有品預リ中
被告四名ノ義務ニ關スル證券ハ勿論共有山地券二枚ヲ竊取シ該山一ヶ所ヲ原田與兵衛ヘ賣
渡サントシテ戶長ノ公證ヲ申受ケニ出テタルヨリ戶長ニ於テ其共有者一同ノ承諾ナルヤ否
問合有之ヨリ遂ニ葛藤相生シ犯罪發覺スルニ至レリ其證據ハ木内源次カ爲シタル實際證書
外五筆ニテ明晰ナレハ則刑法第三百九十五條ニ該當スル犯罪ナルヲ無罪放免スト言渡加旃
贓品ハ山地一點ト誤認シ且差押ヘ物品ヲ宣告セス直チニ書記局ヨリ被告人エ下付シタル等
一ツハ法律ニ違ヒ一ツハ越權ノ處分ニシテ原裁判ハ其當ヲ得スト云フニ在リ
對手人岩森多三郎外三名ハ右上告ノ趣旨ニ對シ逐一之ヲ辨駁シ原裁判ハ允當ナリトシ且本
案上告ハ治罪法第四百十二條ノ明文アレハ民事原告人ハ私訴ノ外上告ヲ爲スヲ得サルモノ
ニシテ其私訴ニ於ルモ控訴ヲ經ス直ニ上告ヲ爲セシモノナレハ共ニ無効ノ上告ナリト答
辨セリ

檢事補堀口順造ハ刑ノ適用ニ付異論アルモ結局證據不充分ナルモノトモトモハ共ニ無罪ヲ言渡
サ、ルヲ得サレハ敢テ該點ニ付テハ上告ヲ爲サス且公訴ニ對シテハ民事原告人ノ上告ヲ得
ヘキモノニ非ス私訴ニ對シテハ公訴ニ附帶シ相當ノ言渡シヲ爲スヘキモノト信スルモ檢察

官カ意見ヲ陳フヘキ限リニ非ストノ意見ヲ付セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル左ノ如シ

治罪法第四百十二條ニ民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ第四百十條ニ定メタル理由ニ付上告ヲ爲スコトヲ得トアリ然ハ則總テ民事原告人タル者ハ私訴ニ對シテハ上訴ノ權利ヲ有スルモ公訴上ニ於テハ其權利ニ非サルニ付該公訴ニ關スル論趣ハ無論相立サルノミナラス私訴上ニ關スル論點ニ於ルモ其請求金高百圓以上ニ係ルモノナレハ治罪法第三百六十五條第三項ニ從ヒ私訴ノ控訴ヲ爲スヘキモノニシテ直チニ上告スヘキモノニ非サレハ是亦相立サルモノトス
右ノ如クナルヲ以治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第千四百十二號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十一月三十日上告
同 十六年十月十日發付

三重縣伊勢國度會郡磯村平

民農業

楠

新助

明治十五年九月

三十二年生月不詳

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年九月七日山田輕罪裁判所ニ於テ新舊法ヲ比照シ重禁鋼六十日ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告ノ要領ハ被告カ信戶伊平へ差入置タル金拾八圓借用證券ノ返戻ヲ受タルハ伊平代人上田長平へ該金員ヲ返濟シタルニ由ルモノニシテ詐欺ヲ

以テ騙取セシニアラサルナリ然ルニ長平等ヲ欺瞞シ現金八圓五十錢ト金五十錢ノ借用證券ヲ相渡シ該證券ヲ騙取シタリト申立シハ信戶伊平カ證人等ト通謀シ被告ヲ詐欺罪ニ陷レント誣告セシモノナルニ豫審判事ハ之レヲ察セス終結ノ言渡シヲ爲シタルニ付之レヲ不當トナシ故障ヲ爲シタル所會議局モ亦審究セス豫審終結ヲ相當トナシ公判ニ於テモ誣言ヲ信シ被告ヲ詐欺罪ニ處シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢事補柏田諫見ハ上告ノ趣意ニ對シ其不理ナルヲ辨駁シ原裁判ハ當然ノ裁判ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ論旨タル被告カ會テ信戶伊平へ差入置キタル借用證券ノ返戻ヲ受タルハ該金員ヲ償完シタルニ由ルモノニシテ之ヲ騙取セシモノニアラス然ルニ原裁判所ハ告訴人ノ誣言ヲ偏信シ犯罪アルモノト認定セシハ不當ナリト云フニ在テ要スルニ承審官カ各種ノ證據ニ依リ判定セシ事實ノ當否ヲ非難シ之カ覆審ヲ求ムルモノニシテ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告スヘキ理由ナキモノトス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第千四百十三號

○判文〔故殺ノ件〕明治十六年八月四日上告
同 十六年十月十日發付

靜岡縣駿河國志太郡藤守村

平民農業

多々 良 菊 吉

明治十六年七月
二十九年五月

故殺被告事件ニ付明治十六年七月九日静岡重罪裁判所カ刑法第二百九十四條同第八十九條
 同第九十條ニ依リ重懲役九年ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢事高津雄介ハ上告セリ其要領
 ハ被告菊吉カ事實ハ故殺ナリト認メ裁判ヲ與ヘタル事實認定ハ裁判官ノ特權ナレハ輒ク動
 カシ得ヘカラサルハ論ヲ埃ヲサルモ其証據法ニ適合セス事實理由ノ不備若クハ齟齬錯雜ニ
 涉リ即チ裁判ノ基礎ヲ失スル臆斷ナルヲ以テ本案ノ如キ宜ク其事實ヲ動カシテ可ナラン抑
 モ被告菊吉カ殺意ヲ生シタルハ一朝ノ事ニアラス身ノ貧窶窘迫ノ爲メニ前途ヲ苦慮シ其未
 タ分婉セサル日ヨリ之レカ拉殺ノ念心裡ニ往來シ愈分婉ノ時ニ至リ其念ヲ斷行シタルニ外
 ナラトレハ豫謀ノ所爲顯然タリ然ルニ原裁判所ハ之ヲ故殺罪トシ所斷セシハ事實ヲ認定シ
 タル理由ノ明確ヲ失スル臆斷ニテ擬律錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリト認メ治罪法第四百十條
 第九第十ニ依リ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人多々良菊吉ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ立會檢事池上三郎ノ意見對手代言人關孝太郎
 ノ陳述ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處事實理由ノ明確ヲ失シ擬律錯誤ニ涉リタルモノナレハ斯ノ如キ場合
 ハ原裁判所ノ認定セシ事實モ動カシテ可ナラント其論辨數十言ノ多キニ至ルモ歸スル處
 謀殺犯ナリトノ趣旨ニアリト雖モ果シテ拉殺ノ匪念心裏ニ往來シ分婉ノ日ニ至リ前日ノ

匪念ヲ繼行シタルモノナルヤ又其前日ノ匪念ハ一旦絶止シ而シテ他ノ刺激ニ因リ再ヒ匪
 念ヲ惹起シ決行セシモノナルヤハ事實裁判官ノ心證判斷ニ任從セシ部内ニテ別ニ合法ノ
 証アルニアラサレハ之ヲ拘束シ得ヘカラサルナリ今茲ニ原裁判言渡ヲ見ルニ略中明治十
 五年八月二十四日夜分婉ノ微候アルヲ以テ繼母ニ介抱ヲ乞フト雖モ故ニ宵間ヨリ兩戸ヲ
 閉鎖シ呱呱聲ヲ發スルモ仍ホ來リ問フモノナキニ因リ嘆傷爲ス所ヲ知ラス孩兒ヲ殺サンカ
 寧ロ身ヲ殺サンカ躊躇ノ場合自ラ勵シテ孩兒ヲ壓殺シタルモノニテ豫メ之ヲ殺スノ決意
 アリシモノニアラサルヲ以テ故殺ナリト認定ス云々トアリテ其繼母ノ介抱ニ來ラサル
 ヨリ其意ヲ決シ壓殺セシモノナリト認定セシハ明瞭ニテ他ニ瑕瑾アルニアラサレハ確平
 動カシ得ヘカラサル事實ナリト然ラハ則チ事實理由ノ明確ヲ失シ擬律錯誤ニ涉リタリ
 トノ論告モ到底事實認定ニ侵入セシモノニテ破毀ヲ請求スル原因ト爲ヌ得テ因テ上告
 ノ趣旨相立タス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也
 第千四百十四號

○判文(強盜傷人ノ件) 明治十五年十二月廿六日上告
 同 十六年十月十日申渡

和歌山縣紀伊國名草郡岡村
 町字鹽道居住樋右衛門弟無
 籍平民

野 村 辰 吉

明治十五年六月
二十六年一月

窃盜及ヒ強盜傷人被告事件ニ付明治十五年六月三十日和歌山重罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ヲ審判シ刑法第百條數罪俱發例ニ從ヒ一ノ重キ刑法第三百八十條ヲ適用シ無期徒刑ニ處シ其犯罪ノ用ニ供シタル刀劍ハ沒収ストノ言渡ヲ爲シタリ

被告野村辰吉ハ該裁判ヲ不法トシ上告ヲ爲シタルノ趣旨ハ太田ヨチ宅ニ忍入窃盜ヲ爲シタルハ相違ナシト雖モヨチ及ヒ同家下女マサチ傷ケタルハ他ノ痴情ヨリ起リ負傷セシ者ナレハ窃盜及ヒ毆打創傷ノ二罪俱發シタル者ニシテ輕罪ノ刑ニ止ル者ナリ然ルニ原裁判所カ重罪トシ刑法第三百八十條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト謂フニ在リ

對手人檢事千葉貞幹カ答辨ノ要旨ハ本件上告ハ原裁判事實ノ認定ヲ不當トシ覆審ヲ求ムルノ趣旨ニ外ナレハ法律上爲スヲ得可ラサル上告ナリト思考スル旨ヲ陳述セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ院長ノ職權ヲ以テ選任シタル代言人澤田俊三ノ趣意ヲ聽クニ本案被告人ノ上告趣旨ハ單ニ事實ノ點ニ關スルヲ以テ敢テ贊成セスト雖モ別ニ原裁判ハ不法ナル點アルニ付茲ニ其趣意ヲ擴張シテ破毀ヲ求ント欲ス抑裁判所ニ於テ刑ヲ言渡スニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示スヘシトハ治罪法第三百四條ノ命スル所ナリ然ルニ原裁判官ハ此規則ニ背キ被告人ニ刑ヲ言渡スニ數罪俱發一ノ重キ刑法第三百八十條ニ依リ無期徒刑ニ處ス又ハ犯罪ノ用ニ供シタル刀劍ハ沒収ストノ言渡シ其數罪ニ適用スヘキ法律ヲ示サヌ又沒収ニ就テモ其明條ヲ示サルハ即チ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ適當スルヲ以テ上告ノ理由アル者ト陳辨セリ檢事池上三郎ハ本案被告人ノ上

告論旨ハ固ヨリ不相立者ト思考スルニ因リ敢テ辨明ヲ費サヌ而シテ代言人ノ論辨スルカ如ク細密ニ法律ノ理由ヲ舉示スレハ完全無缺ナリト雖モ數罪ノ事實ヲ掲ケ一ノ重キ強盜人ヲ傷スル罪ニ依リ相當ノ刑ヲ言渡シ又犯罪ノ用ニ供シタル器具ヲ沒収スヘキハ事理明瞭ナレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラサル者ト思考スルニ因リ直ニ棄却ノ言渡アラソクテ望ムト開陳セリ仍テ判決スルヲ左ノ如シ

原裁判官カ被告人ノ所爲ヲ審判シ窃盜及ヒ強盜人ヲ傷シタル二罪アル者ト判定シ其法律ヲ適用スルニ至テハ刑法第百條ニ依リ單ニ刑法第三百八十條ノミヲ示シ其竊盜罪ニ適用ス可キ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ヲ明示セス又犯罪ノ用ニ供シタル刀劍ヲ沒收スルニ就テハ宜ク刑法第四十三條ヲ適用スヘキヲ漫然沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ固ヨリ不充分ノ裁判ナリト雖モ刑法第百條ニ從ヒ一ノ重キ強盜傷人ノ罪ヲ斷スルニ刑法第三百八十條ヲ適用スヘキハ結局動カス可ラス又犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ其沒收スヘキノ理由ヲ示シアレハ敢テ破毀ノ理由ト爲ス可ラス依テ被告人及ヒ代言人ノ上告趣意ハ總テ採用セス治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

第千四百十五號
○判文(樹木盜伐ノ件)明治十五年十一月廿一日上告
十六年十月十日申渡

山梨縣甲斐國東八代郡瀧川
村平民農

平川 傳重郎
三三七

明治十五年五月
七十年十月

右傳重郎カ樹木盜伐被告事件ニ對シ明治十五年五月十九日甲府輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百七十三條第三百七十六條ニ依照シ仍ホ同法第八十九條第九十條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮二十三日監視六月ノ刑ヲ言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告傳重郎上告ヲ爲シタル要旨ハ本件伐木セシ土地ハ元ト土橋市右衛門ノ所有地ニシテ同人ヨリ名取空左衛門へ賣入レ既ニ流地ニナラントスル際上告人傳重郎ハ之ヲ代償シ該償金ノ返還アル迄自分ニ於テ之ヲ支配シ即チ公租等ハ自己ニ之ヲ上納シ其他該地ヨリ生スル收穫ハ自分ノ所得ト爲スノ契約ヲ爲シタルニヨリ今該地ノ樹木ヲ伐採スルモ刑法ノ制裁ヲ受ク可キ者ニ非スト云フニ在リ原裁判所檢事補吉田八十綱ハ上告ノ旨趣當然ニシテ原裁判ノ不當ナル旨ヲ以テ答辨セリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本案ヲ檢審スルニ原判文ニ被告平川傳重郎ハ土橋市右衛門ノ爲メニ名取空左衛門ニ對シ質地受戻金ヲ代償シタルニ依リ市右衛門ハ又之ヲ被告傳重郎ニ辨償スルニ至ル迄ハ該地ニ係ル租費等ハ傳重郎ニ於テ之ヲ擔當シ因テ該地ノ樹木ヲ伐用シ得ヘキトノ約束ヲ爲シタリトスルモ傳重郎ハ固ヨリ該地所持ノ權ヲ有シタルニアラス而シテ該地ハ明治十四年九月中所有主市右衛門ヨリ已ニ渡邊佐兵衛ニ賣渡シタル事實ヲ了知シ乍ラ其樹木ヲ伐採ナサシメタル罪ハ刑法第三百七十三條及ヒ第三百七十六條ニ依リ云々トアリテ該判文ノ前項ニ依レハ原裁判官ニ於テモ土橋市右衛門カ渡邊佐兵衛へ賣渡シタル地所内ニアル樹木ハ曩キニ被告傳重郎カ市右衛門ヨリ擅用權ヲ得タル契約ノアリシ如ク認メアリ果シ

テ然レハ之ヲ伐木スルモ刑法ノ罰スヘキモノニアラス然ルニ其後項ニ渡邊佐兵衛カ所有ノ樹木ヲ盜伐セシ如ク認定シアリテ本案事實ノ判定前後撞着シテ一定ナラス此事實ヲ確認セサレハ法律適用ノ當否ヲ鑑別スルニ由ナク即チ事實ノ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ靜岡輕罪裁判所へ移シ更ニ裁判セシムルモノ也

第千四百十六號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
十六年十月十一日發付

神奈川縣相模國足柄下郡小

田原驛新玉町四丁目士族

被告人 小 早

川 好 廉
明治十五年八月
四十七年三月

同縣同國同郡中里村第十七

番地平民

被告人 劍 持

要左衛門
明治十五年八月
四十一年九月

同縣同國同郡蓮正寺村第二

十四番地平民

被告人 加 藤

彦右衛門

三四〇
明治十五年八月
四十一年

詐欺取財告上不實並私文書偽造被告事件ニ付明治十五年八月二十六日横濱輕罪裁判所會議局ノ判決ニ對シ民事原告人木村金兵衛外二名ヨリ上告ノ要領ハ上告人等三名ニテ加藤彦右衛門ノ周旋ヲ以テ小早川好廉外一名ヨリ現米借入ノ約定ヲナシタル處證書加印ノ不備ナルヲ以テ破約トナリ取引ヲ遂ケサリシニ金兵衛カ誤テ該證書ヲ彦右衛門ヘ交附セシヨリ種々葛藤ヲ生シ終ニ出訴ニ及ヒ延ヒテ今日ニ至レリ然ル處被告人等カ詐欺取財告上不實並ニ詐爲私文章ノ所爲アルヲ發見セシヨリ確證ヲ列舉シ横濱始審裁判所ヘ告訴ニ及ヒシ末豫審終結言渡書ヲ下付セラレタリ然ルニ該言渡ハ單ニ詐爲私文章ノミニ着眼シ其主トスル所ノ詐欺取財告上不實ノ判決ヲ下サ、ルノミナラス數多ノ證據アルニモ拘ハラズ治罪法第二百二十四條ニ從ヒ被告等ヘ免訴ノ言渡シヲナシタルハ不服ニ付該言渡ヲ破毀セラレタシト云フニ在リ

對手人小早川好廉外二名ハ明治九年十二月中加藤彦右衛門ノ周旋ヲ以テ上告人等三名ヘ現米貸付ノ約ヲ爲シ米谷貫七郎方ニ於テ當時上告人代人加藤彦右衛門自分代人奥澤政七立會米額取引決了セシニ相違ナシ然ルニ上告人等ハ返濟ノ義務ヲ免カレントシテ自分等ヲ以テ詐欺取財告上不實詐爲私文章等ノ罪アリト爲シ不理ノ上告ヲ爲シタリト雖モ自分等ニ於テハ毫モ右様ノ罪ヲ犯シタルコトナキニ付該上告ハ棄却アラントテ希望スト答辨セリ
檢事渥美友成ハ本接上告ハ要スルニ加藤彦右衛門外二人ノ所爲ハ有罪ナリト主張スルニ外ナラサレハ究竟民事原告人ニ於テ爲シ得ヘカラサルモノナルニヨリ當然之ヲ却下スヘキモノト思料スルヲ以テ意見ヲ附スト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
本接上告ノ趣旨タル其趣意書及辨明書追申書等ニ於テ縷々千百言ノ多ニ至ルト雖モ其理由トスル處ヲ釋スルニ原裁判官ノ探證ノ當否如何ヲ非難スルト詐欺取財告上不實ノ點ニ對シ判決ヲナサストノ兩點ニ過キス其探證ノ當否ノ如キハ治罪法第四百十六條ニ明文ノ在ルアリテ專ハラ裁判官ノ所見ニ任シタルモノナルヲ以テ之ニ對シテ不服ヲ訴フルコトヲ得ス又其詐欺取財告上不實ノ點ニ對シ判決ヲナサスト云フカ如キモ今訴訟書類ヲ檢スルニ其詐欺取財告上不實ノ點ノ如キハ原檢察官ノ起訴ニ係ラサルモノナルヲ以テ豫審官ニ於テ之カ判決ヲ下サ、ルハ當然ノ處分ニシテ毫モ非難ヲ容ルヘキ所ナキヲ以テ是亦不服ノ理由トナスヲ得ス依テ本訴上告ノ趣旨ハ總テ相立タストス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ上告ヲ棄却スルモノ也
第千四百十七號

○判文(謀殺及盜竊ノ件)明治十六年九月七日上告
同 十六年十月十一日發付
滋賀縣近江國滋賀郡大野村
平民水車業

小 林 德 松
明治十六年八月
二十七年二月
同縣同國同郡谷口村平民農
三四一

業

中塚

留吉
明治十六年八月
二十九年八月

謀殺及窃盜被告事件ニ付明治十六年八月十八日大津輕罪裁判所會議局カ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルヲ不當ト爲シ被告兩名ハ上告セリ其要領ハ德松カ清二郎ヲ殺害シタルハ相違ナキモ豫メ謀ルニ非スシテ拔刀斬付ケラレタルニ因リ已ムコトヲ得ス殺害シタルモノナリト云ヒ又留吉ニ於テハ清二郎ヲ殺スノ決意ナキハ勿論其殺害ノ當時ニ於テモ毫モ關與スル所ナク且ツ被害者ノ所有ニ係ル物品ヲ窃取シタルコト之レナシト云フニ過キス
原檢察官ハ上告趣意ニ對シ別段辨論ヲ要セスト答辨セリ因テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

諸般ノ証憑ヲ採擇シ事實ヲ認定スルハ原裁判官ノ特有スル權内ニ屬シ越權等不法ノ廢アルニ非サレハ其認定ノ當否如何ニ論及スルヲ得サルモノトス本件上告ノ論旨タルヤ原裁判官カ認メタル事實ハ實際ト相違シ誤謬ノ認定ナリト云フニ在リト雖モ證據取捨ノ當否ヲ論スルニ過キサレハ到底無効ニ歸スヘキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
第千四百十八號

○判文(窃盜ノ件) 明治十五年十二月十九日上告
同 十六年十月十一日發付

青森縣陸奥國三戸郡久慈港

町平民孫吉弟當今後志國余

市郡川村林長左衛門方寄留

被雇稼

小山茂八

明治十五年十月
二十六年生月不知

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月二十八日小樽治安裁判所ニ於テ札幌輕罪裁判所カ刑法第三百六十六條同第三百七十五條同第一百十二條ニ依照シ一月十五日ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部清水文行ハ上告セリ其要領ハ被告茂八カ所爲タル中村「タマ」方へ忍ヒ入り熊ノ皮一枚ヲ窃取シ遁走ノ際該家ヲ離ル、二間程ニテ事主ニ取還セラレタルモ既ニ一旦竊取シタル上ハ既遂罪ナルコト明瞭ナルニ原裁判所カ未遂罪ナリトシ刑法第一百十二條ヲ適用セシハ擬律錯誤ナリト云フニアリ

對手八小山茂八ハ原裁判至當ナリトノ趣旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

原裁判言渡ニ(中) 中村「タマ」方へ忍入り其方カ目的トシタル酒ヲ索ルモ所在ノ探リ得サルヨリ當時足ニ觸レシ熊ノ皮一枚ヲ窃取シ遁走セシ處僅ニ該家ヲ離ル、二間程ニシテ右「タマ」

方寓居佐々木政次ヨリ追跡取押ヘラレ窃取ノ熊ノ皮モ其場ニテ即取戻サレシ事實云々
檢察官ノ陳述ト其方任意ノ白狀トニ依リ證憑明瞭ナリトス)トアリテ被告茂八カ其熊皮一枚ヲ一旦窃取シ瞬間ナルモ己レノ所有ト爲シタル後ヲ取戻サレタルモノニテ既遂ノ窃盜

罪ヲ構造セシモノタル論ヲ俟タサルナリ何ントナレハ盜罪ノ如キハ其竊取スルヲ以テ目的ノ第一ノ結果トシ其竊取シタル物品ヲ以テ之ヲ自己ノ用ニ供シ又之ヲ賣却スル如キハ目的ノ第二ノ結果ニテ所謂直接ニアラヌ間接ノ目的ト云ハサルヲ得ス然ラハ則チ第一ノ目的ハ既ニ遂ケタルモノニテ既遂ノ罪ナレハナリ然ルニ原裁判所ハ之ヲ未遂犯ナリトシ刑法第百十二條ヲ適用シ減輕ノ處分ニ及ヒタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス
因テ治罪法第四百二十九條ニ依リ之ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

小山茂八

原裁判言渡ニ掲ケタル事實ノ理由及ヒ證憑ニ依リ竊盜ノ罪ヲ犯シタルコト明白ナリ此事實ヲ罰スル法律ハ

刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該ル

右ノ理由ナルニ因リ被告小山茂八ヲ二月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ヲ附加ス仍ホ犯罪ノ用ニ供シタル小刀一挺ハ所有主松浦吉三郎へ下附スル者也
第千四百十九號

○判文(侵人住居ノ件)明治十五年十二月六日上告
同十六年十月十一日發付

陸中國二戸郡金田市村九十
五番地重八弟當時札幌縣後

志國小樽郡開運町廿一組借
家寄留

久保田銀八
明治十五年三月
生月不知二十七年

同縣閉伊郡和井内村二番地
鶴松弟當時札幌縣後志國小
樽郡開運町廿一組借家久保
田銀八方同居

西田由松

明治十五年三月
生月不知廿七年

人ノ住所ヲ侵ス被告事件ニ付明治十五年三月廿五日舊開拓使刑法課小樽出張所斷刑係リニ於テ無罪放免ノ言渡シヲ爲シタル裁判ニ對シ警部岡田源吾ニ於テハ之ヲ不當ナリトシ上告セル要領ハ由松ハ親分ナル銀八カ素足ニテ戻サレタル報酬トシテ土足ニテ金太郎方へ濫入セシハ同人ノ迷惑スヘキ目的ニシテ家宅不侵ノ大權ヲ侵シ且同家ニ於テ他ヨリ買取シ以飲酒シタルハ酒力ニ乘シ暴行ノ勢ヲ助ケントノ目的ナリ是則刑法第百七十一條第三第四ノ項目ニ該當スルヲ以有罪者タル勿論ナリト云フニ在リ

對手人久保田銀八西田由松ハ泥足ノ儘ニテ上席セシハ疎忽ナリト雖決テ害ヲ加フヘキ所存ニ無之又買取ノ酒ヲ飲用セシモ亦酒氣ニ乘シ暴行スヘキ念慮ハ毫モアラサリシト答辨ス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル左ノ如シ
上告ノ要領ハ本案事實ノ適否ヲ論難スルニ過キス而事實ノ認定ハ承審官ノ權内ニ屬スル
モノニシテ漫リニ他ヨリ侵入スルヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十六條第二項ニ被告
人ノ白狀官吏ノ檢證調書証據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判
定ニ任ストアレハナリ夫レ如斯ナルヲ以上告ノ趣旨相立ストス
右ノ如シナルヲ以治罪法第四百廿七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也
第千四百二十號

○判文(恐喝取財ノ件) 明治十五年十二月十九日上告
同 十六年十月十一日發付

青森縣陸奥國南津輕郡花巻
村七十二番地主族稻穂事改
名

千葉 鹽 胤

明治十五年九月
三十四年十一月

恐喝取財被告事件ニ付明治十五年九月十八日青森治安裁判所ニ開シ弘前輕罪裁判所カ刑法
第三百九十條及第三百九十四條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金五圓ト監視六月ヲ附加スト言
渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ニ於テ被害者賀山末藏ヲ恐喝シテ
金員ヲ詐取シタルコト更ニ之レナク且ツ青森警察署ノ調書ハ官吏ノ壓制ニ因リ成立チタル
モノニテ任意ノ白狀ニアラス然ルニ原裁判所カ恐喝取財ノ犯跡明確ナリト認定シタルハ失

當ノ裁判ナルヲ以テ之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

原檢察官警部補平賀春祐ハ上告趣意ノ不理ナルヲ論辨シ原裁判所ノ認定ハ至當ナリト答辨
セリ

因テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

本案被告ハ原裁判所カ認定シタル事實ニ對シ其當否ヲ辨論シ以テ上告ノ理由ト爲スト雖
モ凡ソ各種ノ証憑ヲ採擇シ事實ヲ認定スルハ原裁判官ノ特有スル權内ニ屬シ越權等不法
ノ廉アルニ非サレハ輒シ其當否如何ニ論及スルヲ得サルモノトス因テ上告趣旨相立ス
右ノ理由ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
第千四百二十一號

○判文(毆打創傷ノ件) 明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十月十一日申渡

滋賀縣近江國甲賀郡岩根村
平民當時京都府丹波國天田
郡西長町中島長兵衛雇人

矢 田 三 次 郎

明治十五年六月
廿六年七月

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年六月廿四日福知山治安裁判所ニ開シ園部輕罪裁判所ニ於
テ刑法第三百九條ニ依リ其罪ヲ宥恕ス鐵瓶代價一圓四十錢ハ損害ノ賠償トシテ田邊與兵衛
ハ辨償スヘキ事ト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官警部補角信勝ハ之ヲ不當ナリトシ上告セル

要領ハ原裁判所カ刑法第三百九條ニ因リ其罪ヲ宥恕スト言渡シ其罪ヲ全免シタルハ同法第三百十三條ヲ脫漏セシ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ
 對手八矢田三次郎ハ被告ノ所爲タル刑法第三百十四條ニ因リ不論罪ノ言渡シヲ受クヘキモノト思考スルキ檢察官ノ刑法第三百九條ニヨリ其罪ヲ宥恕シ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減スヘシトノ申立ニ更ニ異議ハ陳述セス何ントナレハ已ニ被告ヲ放免シクレハナリ依テ檢察官ノ上告ヲ棄却シ原裁判ヲ破毀シ更ニ無罪ノ言渡シヲ受ケ度ト答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ附帶上告ノ論旨ニ依リ判決スル左ノ如シ

上告ノ主點ハ其當ヲ得サルニ非スト雖刑法第三百十三條ニ前數條ニ記載シタル宥恕スヘキ罪ハ各本條ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ストアリテ而被告カ罪ノ本刑ハ果シテ刑法何條ニ相當セルコト原判文ニ掲ケサレハ之ヲ知ルニ由ナシ爰ニ於テ原訴訟書類中被害者梅村徳三郎ノ診斷書ヲ閱スルモ一週ヲ出スシテ治癒ニ至ルヘキ者云々トアルノミニシテ其疾病休業ノ時日ハ明記シアラサルニ付刑法第三百一條第何項ヲ適用スヘキモノナルヤ否ヲ詳ニセヌ要スルニ本案ハ其裁判言渡書ニ事實及ヒ法律ノ理由ヲ付セサルモノニシテ治罪法第三百四條ニ牴觸スルモノナレハ治罪法第四百廿八條ニ從ヒ之ヲ破毀シ相當ノ裁判ヲ受ケシメン爲メ大坂輕罪裁判所ニ移スモノ也
 第千四百二十二號

○判文(證書變換ノ件) 明治十五年十二月廿八日上告
 同 十六年十月十一日判決

山口縣長門國豐浦郡豐浦村
 居住士族

河 內 重 治

明治十五年十月
 四十三歲三ヶ月

同縣同國同郡福江村居住平
 民農業

的 井 市 之 助

明治十五年十月
 三十九歲六ヶ月

詐爲私文書及ヒ詐欺取財詐欺未得財被告事件ニ付明治十五年十月二十五日山口輕罪裁判所ニ於テ右被告人等ノ所爲ヲ審判シ的井市之助ハ河內重治ヲ同意セシメ徳永又次郎ニ差入レ置タル林善七ト連借証書ニ文字ヲ増加シ依テ又次郎ニ對シテハ連借義務ヲ免脱シ善七ニ對シテハ間接ニ金圓ヲ得ヘキ權利ヲ生シタル犯罪ナリト判定シ所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條末項及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ從ヒ新舊ノ法ヲ比照シ重治ニ對シ輕キ舊法賊盜律詐欺取財條ニ依リ名例律數罪俱發以重論條及ヒ犯罪分首從條ニ照シ賍金七十圓以上懲役一年半士族ナルヲ以テ閏刑ニ換ヘ禁獄一年半ニ處斷シ市之助ニ對シ新法ノ輕キニ從ヒ刑法第百條末項ニ照シ一ノ重キ刑法第三百九十條ニ依リ重禁錮二年ニ處斷セリ
 右ノ裁判ニ對シ被告河內重治的井市之助及ヒ原裁判所檢事補玉置琢ハ上告ヲ爲シタリ河內重治カ論旨ハ本件被告事件ニハ毫モ關與シタルコトナシ故ニ其事實ヲ証明センガ爲メ公廷ニ

於テ德永又次郎ト對質ヲ請求シタレモ竟ニ聽許セラレサルハ不法ナリト云ヒ的井市之助カ
論旨ハ本件証書ハ元來林善七德永又次郎等ト熟談ノ上成立タル者ニシテ最初ヨリ但書及ヒ
自分名頭ニ請人ノ文字ハ記載有之タルニ何故佐々木喜左衛門カ不實ノ自首ヲ爲シ自分ヲ冤
枉ニ陷ラシムルヤ是等ノ事蹟ハ反証ヲ提出スルニ道ナキヲ以テ服從スル者トスルモ該金
員ハ未タ林善七ヨリ德永又次郎ヘ拂入タルモノニ無之且連借義務ヲ負擔スル迄ニシテ未ダ
義務ヲ免脱シタル者ト爲ス可カラズ然レハ則チ新舊法ヲ比照スレハ不應爲ノ輕重若シクハ
刑法第三百九十七條ニ依テ處斷アルヘキヲ相當ナリト謂フニ在リ

又原檢察官ノ上告ハ被告人河内重治一名ニ對シ爲シタル者ニシテ其論旨ハ被告事件ハ固ヨ
リ舊法ニ於テ破廉耻甚ニ係ル犯罪ナルヲ以テ除族ノ上懲役一年半ニ處ス可キ者ニシテ決シ
テ閏刑ニ換ヘ禁獄ニ處ス可キ者ニアラス故ニ舊法ノ刑期新法ノ刑期內ニ在ルヲ以テ明治十
四年第八十一號布告ニ照シ新法ニ從ヒ處斷スヘキ者ナルヲ原裁判茲ニ出サルハ擬律錯誤ノ
裁判ナリト陳辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ從ヒ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ原檢察官カ河内重
治ノ處斷ニ對スル上告ハ穩當ノ論旨ニシテ原裁判ハ擬律ノ錯誤アル者ト確信ス且原裁判官
カ被告人ノ犯罪ヲ新法ニ照シ從犯ト爲シタル一點モ亦擬律錯誤ノ裁判ナリトス而シテ被告
人河内重治カ上告趣意書ハ已ニ期限ヲ經過スルニ因リ別ニ意見ヲ陳述セス又被告的井市之
助カ上告趣旨ハ證書變造并ニ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルヲナシト云フト雖モ承審官カ合法ノ
證據ニ依リ犯罪ヲ判定シ法律適用上ニ於テモ瑕瑾ナキヲ以テ其理由不相立者ト思料スル旨

ヲ開陳セリ仍テ裁判スルヲ左ノ如シ

茲ニ本件ヲ審按スルニ被告河内重治ノ上告ハ其申立ヲ爲シタル明治十五年十月廿六日ニ
リ治罪法第十八條同第四百十七條ニ定メタル規則ニ從ヒ五日內ニ其趣意書ヲ差出ス可キ
ヲ明治十五年十一月一日ニ至リ差出シタルニ付已ニ期限ヲ經過シ治罪法第二十條ニ依リ
訴權ヲ失ヒ上告ノ成立サル者トス被告的井市之助カ上告趣旨ハ單ニ事實ノ理由ヲ論辨シ
或ハ詐欺未得財ナリト主張シ到底舊法ノ輕キ改定律例第二百四十六條ヲ適用ス可キ犯罪
ナリト謂フニ在レモ事實ノ認定ハ裁判官ノ必證ニ任從シタル者ニシテ輒ク之ヲ動カス可
ラス又證書面半額ノ金七十圓余連借ノ義務ヲ負擔スレハ足レリト云フノ論旨ナレモ現ニ
本證ニ就キ廣島裁判所山口支廳ニ於テ民事ノ詞訟ヲ經一旦義務免脱ヲ遂ケタル事實ハ原
裁判言渡書ニ明示シタルハ從テ詐欺取財ノ犯罪タルヲハ避ク可ラサル者トス依テ被告人
等ノ上告ハ總テ不相立ニ付治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却ス
又檢察官カ河内重治ノ裁判ニ對シ爲シタル上告ヲ按スルニ重治カ所爲ハ詐爲私文書及ヒ
詐欺取財並ニ未得財ノ從犯タルヲハ載セテ原裁判言渡書ニ判然タリ果シテ然レハ其詐欺
取財ノ罪ハ舊法ニ於テハ改定律例第九十條凡詐欺恐喝取財等盜ニ準スル罪士族ハ破廉耻
甚チ以テ論ス同第十三條凡士族罪ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處ス若シ姦盜等ノ罪ヲ犯シ廉耻ヲ破
ルヲ甚キ者ハ除族シテ本刑ヲ加フトアルニ照シ除族ノ上懲役一年半ニ處ス可キ者トス然
ルヲ原裁判官カ破廉耻罪ヲ處スルニ閏刑ヲ適用シ且共犯人ニ對シ新法ニ照シ刑法第九
條ヲ適用シタルハ欺律錯誤ノ裁判ニシテ上告ノ趣旨ヲ正當ナリトス依テ原裁判所カ河内

重治ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ大審院ニ於テ直ニ裁判スル
ヲ左ノ如シ

三五二

河 内 重 治

原裁判言渡書ニ舉示シタル事實ノ理由ニ付被告人ノ所爲ハ的井市之助カ發意ニ同シ証書
ヲ詐爲シ及ヒ詐欺シテ金七十圓余ヲ得又ハ詐欺未得財ノ犯罪ナリト確認ス依テ所犯新法
施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ改定律
例第二百四十六條賊盜律詐欺取財條及ヒ窃盜條財ヲ得サル者ニ準擬スヘキ數罪俱發スル
ニ付名例律二罪俱發以重論條ニ照シ詐欺取財財金七十圓以上ノ罪ヲ重トシ士族ナルニ付
改定律例第九十條同第十二條ニ依リ除族ノ上懲役二年從タルヲ以テ名例律共犯罪分首從
條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ懲役一年半ニ該リ新法ニ於テハ刑法第二百十條同第三百九
條同第三百九十四條同第三百九十七條同第四百四條ヲ適用スヘキ數罪俱發ス
ルニ付刑法第百條第三項ニ從ヒ詐欺取財ノ罪ヲ重トシ刑法第三百九十四條ニ依リ二月以上
四年以下ノ重禁錮ニ該ルヲ以テ明治十四年第八十一號布告第二條第六條第十條第十一條
ニ依リ新法ニ從ヒ處斷ス可キ者トス依テ被告重治ヲ重禁錮一年六月ニ處スル者也
第千四百二十三號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年十二月十一日上告
全 十六年十月十一日發付

愛知縣三河國八名郡金澤村
平民農業

小 林

淺次郎

明治十五年八月
二十七年四月

私書偽造被告事件ニ付明治十五年八月廿五日岡崎輕罪裁判所カ刑法第二百十條同第三百九
十五條同第三百九十條ニ依リ同第百條ニ照シ一ノ重キ其第三百九十條ニ從ヒ一年ノ重禁錮
ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加ス仍ホ一年ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領
ハ共有地ヲ抵當トシ林兵造ヨリ金百五十圓借用シタルハ共有主一同協議承諾上ノコナリ
而シテ共有金ヲ一時私用ニ費消シタルハ不都合ト存シ自首シタルモ其金員ハ廢寺回復方ニ
關スル入費ヲ引去リ殘額折半シテ其一分ヲ被告淺次郎謝儀トシテ賞ヒ受ケル筈ナレハ一時
私用ニ費用スルモ聊カ差支ナカルヘシ然ルニ原裁判所ハ其事實ヲ審究セス有罪ナリト判定
セラレタルハ不法ナリト云フニアリ仍ホ追伸書ヲ以テ共有主トノ契約書ヲ添ヘ上告趣意ヲ
擴充セリ

對手人檢事補佐藤森久ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判ハ毫モ不當ニ非スト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處共有地ヲ抵當トシタルハ共有主協議上ノコナリ又共有金ヲ費消セシ
モ其内幾分カ自己ノ賞受クヘキ部分アレハ共ニ罪ト爲ルヘキ所爲アラスト云フニアリテ
純ラ原裁判所カ各個ノ証憑ニ照シ認定セシ事實ニ對シ其當否ヲ論難シ徒ニ不服ヲ唱フル
ト雖ヒ控訴實施ノ日覆審ヲ請求スルノ資料タルヘキモ上告シテ破毀ヲ求ムル原因ト爲ス
ヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル上告ヲ爲スヲ得ヘキヲ定メ

三五三

タル法文ニ適當セサレハナリ其他共有主トノ契約書ヲ添へ上告趣旨ヲ擴張スルモ原裁判後新ニ差出シタル証憑ナレハ是亦破毀ノ原因ト爲スニ足ラス因テ上告趣旨相立ダス右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也
第千四百二十四號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十二月十六日上告
全 十六年十月十一日發付

大阪府北區河内町一丁目平
民茶商

中野長助
明治十五年九月
三十九年七月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年九月二十五日大阪輕罪裁判所カ刑法第三百九十四條同第三百九十四條ニ依リ三年ノ重禁錮ニ處シ三十圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ一年ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ繪具商白川清兵衛方ヨリ繪具等ヲ詐取セシ所爲アルニアラサルニ原裁判所ハ松村楠次郎ノ虛誕ヲ偏信シ無辜ヲ殺サンヨリ寧ロ不經ニ失セヨトノ格言ヲ輕々ニ看過セシヨリ斯ク不當ノ裁判ヲ與ヘラレタルモノト思考スルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人檢事補宮崎多喜衛ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所ハ松村楠次郎ノ申立テ偏信シ無辜ノ被告長助ヲシテ罪ニ陷ラシメダリト云フノ一點ニアリ抑罪ヲ斷スルニ各個ノ證憑ニ照シ心證ヲ資リ事實ヲ認定スルハ原裁判所ノ特有スル權内ナレハ之カ當否ヲ論難スルモ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百四十六條第二項ニ被告入ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告趣旨相立ダス

右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第千四百二十五號

○判文〔地券犯則ノ件〕明治十五年十一月廿四日上告
同 十六年十月十二日發付

愛媛縣伊豫國北宇和郡神田
原通士族

菅沼萬作
明治十五年四月
四十八年四月

右菅沼萬作カ被告事件ニ付明治十五年五月二十八日宇和島輕罪裁判所ニ於テ家督相續後地券貳葉書替願ヲ怠リ滿六ヶ月ヲ經過シテ其手續書ヲ差出シタルヲ以テ犯罪ヲ自首シタル者ト認定シ明治十三年第五十三號及ヒ明治十四年第三十號布告ニ照シ証印稅六錢ノ五倍科料金三拾錢ニ科斷スヘキ處刑法第五條及ヒ同第八十五條同第七十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ科料二拾五錢ト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補竹岡丕仲ハ畑地券書替願ニ自首ヲ與ヘタルハ

其當ヲ得ルモ宅地々券書換願ノ自首ハ事已ニ發覺後ニ係ルヲ以テ無効ノ自首ナルニ之レニ
自首減輕ヲ與ヘタルハ擬律ヲ誤リタル裁判ナルトノ旨趣ヲ以テ上告爲シタリ茲ニ專任判事
ノ報告書及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ本件ハ科料金ノ範圍内ニ於テ自首減輕
ノ當否ヲ論難スルニ在リト雖モ科料金ハ違警罪中ニシテ之レカ上告ヲ爲シ得サルハ明治十
四年第十四號公布ニ於テ明瞭ナレハ該上告ハ其原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十
七條ニ照ラシ之ヲ棄却スルモノナリ

第千四百二十六號

○判文(不正ニ人ヲ監禁スルノ件) 明治十六年九月十八日上告
同 十六年十月十二日發付

福岡縣筑後國三潞郡矢加部

村居住平民元長崎縣巡查福

江警察署詰

新 谷 岩 次 郎

明治十五年十一月
二十一歲二ヶ月

不正監禁被告事件ニ付明治十五年十一月六日福江治安裁判所ニ開キタル長崎縣輕罪裁判所ニ
於テ右被告新谷岩次郎カ所爲ハ長崎縣巡查奉職福江警察署詰警部代理中萩原壽之助カ巡行
ノ巡查ニ對シ氏名ヲ詐稱シ又ハ侮辱ノ罪アルヲ認知シ巡查ヲ引致セシメ留置所ニ留メ
置タル處置程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕監禁シタル犯罪ナリト認定シ刑法第二百七十
八條ニ依リ重禁錮十五日罰金二圓ニ處斷シ民事原告人萩原壽之助カ要求スル損害金三十錢

賠償ス可キ旨ヲ言渡シタリ

右ノ裁判確定ノ後大審院檢事長渡邊驥ハ治罪法第四百三十五條ニ依リ非常上告ヲ爲シタリ
其趣旨ハ刑法第二百七十八條ノ精神タル故ラニ程式規則ニ背キ人ヲ逮捕シ若クハ監禁シタ
ル者ヲ罰スルノ法條ニシテ本案ノ如ク一ノ侮辱官吏犯罪ト認メ即チ逮捕ノ處分ヲ爲シタル
者ニ對シテハ無論本條ノ容レサル處ナリ加之被告ハ故意擅行ノ措置ヲ施シタル事實ノ見
ル可キナキヲ以テ被告人ノ所爲ハ刑法上罰セラル可キ者ニアラス然ルチ原裁判官カ刑ノ言
渡ヲ爲シタルハ失當ナリト云フニ在リ仍テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之
ヲ審按スルニ

被告人ノ所爲ハ萩原壽之助カ巡行ノ巡查ニ對シ氏名ヲ詐稱シ且其職務ニ對シ侮辱シタル罪
アリト認メ巡查ヲシテ壽之助ヲ引致セシメ明治十五年六月廿九日ヨリ同年七月一日迄福江
警察署ニ留置シタルニ在リ已ニ原裁判官ハ此事實ヲ認メナカラ現行犯ニ準スヘキ者ニアラ
ストシ刑法第二百七十八條ヲ適用スト雖モ壽之助カ所爲ハ宣告書ニ掲ケタル處ニ因リ其學
動犯人ト思料スルニ餘リアルチ以テ明治十四年第四十六號布告ニ準據シ被告岩次郎カ該犯
ヲ引致セシメ假ノ訊問中ニ留置シタルハ其職權ニ存スルノミナラス刑法第二百七十八條
ハ專横ノ處分ヲ罰ス可キ律意ニシテ岩次郎カ被告事件ノ如キハ到底法律ニ於テ罰ス可ラサ
ル者トス依テ治罪法第四百三十五條後項ニ則リ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ大審院ニ於テ直
ニ裁判スルヲ左ノ如シ

新 谷 岩 次 郎

前ニ辨明スル如クナルニ因リ被告人ノ所爲ハ法律ニ於テ罰ス可ラサル者ニ付無罪ノ言渡
ヲ爲ス者也

三五八

第千四百二十七號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十六年八月廿二日上告
同 十六年十月十二日發付

三重縣伊勢國多氣郡明豆村

平民

上岡才次郎

年齢不詳

右才次郎カ被告事件ニ付明治十六年五月廿二日安濃津輕罪裁判所山田支廳ニ於テ被告ハ明
治十五年十二月廿七日晝間故ナク人ノ住居ヲ侵シタル科ニ依リ山田輕罪裁判所ニ於テ重禁
錮十一日ニ處セラレ爾後岡本勘助ヨリ預ル流失材賣渡ノ證券ニ自己ノ姓名ヲ記入シ買主ノ
一八ト詐リ長藏利吉カ拾ヒ得タル槻角一本ヲ清水勘三郎通謀シ同人ト折半ノ約ヲ爲シ問道
長藏ヘ代金三十圓ニ賣却内金ヲ受取タルハ長藏利吉ノ供述証據物件証人ノ陳述參考人ノ申
立其他ノ書類ニ依リ長藏ヨリ金員ヲ詐取シタルノ證左明確ナルモノト判定ス問道長藏ヨリ
勘三郎俱ニ金員ヲ詐取シタルハ刑法第三百九十四條及ヒ第三百九十四條ニ依リ再犯ナルヲ以
テ全第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮二月十五日以上五年以下ト罰金九圓以上五
十圓以下ニ該當ス證書ヲ詐爲シタルハ同第二百十條及第二百十二條ニ依リ再犯ナルヲ以テ
同第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮二月十五日以上五年以下罰金五圓以上五十圓

以下ニ該當ス右二罪俱發スルヲ以テ同第三百九十四條ヲ以テ論
シ重禁錮五年ニ處シ罰金五十圓監視二年ヲ附加ス裁判費用金四圓六十五錢ハ清水勘三郎俱
ニ擔當スヘシト言渡シタル裁判確定ノ後才次郎カ再審ノ訴ヲ爲シタル要旨ハ該賣渡證
券ニ被告ノ姓名ヲ記入セシハ岡本勘助ト談判ノ上同人記入セシニ各自押印セシテ原裁判所
ハ何等ノ證左ニ依リ被告ニ於テ該証券ニ自己ノ姓名ヲ記入シ買主ノ一人ト詐リタルモノト
認メラレタルヤ該漂流材ハ勘助一人ノ所有物ニアラス呈供スル所ノ諸證書ニ據テ明カナレ
ハ詐欺取財ハ勿論勘三郎ト通謀セシナキニ右勘三郎野村市助兩名ノ者通謀シテ無罪ノ被告
ヲ陷害セシト云フニ外ナラス原裁判所檢事鶴岡殿ハ再審ノ理由ナキモノトノ意見書ヲ差出
セリ玆ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告檢事長渡邊驥ノ意見書ニ依リ判決スル左ノ如
シ

本件上訴ノ旨趣ハ治罪法第四百三十九條第四項ニ該當スル旨ヲ以テ論告スト雖ヒ唯口頭
ノ陳述ニ止ツテ証左アルナシ又呈供スル所ノ證書ヲ鑑査スルニ公正ノ證書ニアラサレハ
再審ノ理由ト爲スヲ得ス右ノ外論陳スル所アルモ總テ事實探證ノ如何ヲ訴フルニ過キス
シテ治罪法第四百三十九條各項ニ適合セサルヲ以テ該訴ハ之ヲ棄却スル者也

第千四百二十八號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月十五日上告
同 十六年十月十二日發付

兵庫縣攝津國菟原郡東森村

平民

三五九

薩摩谷 袈裟五郎

明治十五年九月

二十三年

右袈裟五郎カ窃盜被告事件ニ對シ明治十五年九月八日神戸輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百六十九條第三百七十六條第七十條第百條ニ照依シ重禁錮三年五月監視一年ノ刑ヲ言渡シタル處被告袈裟五郎右ノ裁判ヲ不當ナリトシ同年同月九日上告申立テ爲シ同月十五日付テ以テ其趣意書ヲ差出シタリ玆ニ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立テ爲シタルヨリ五日內ニ趣意書ヲ原裁判所書記局ヘ差出スヘシ同法第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付定メタル期限ヲ經過シタルハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フヘシトアリテ被告カ差出シタル趣意書ハ上告申立テ爲シタルヨリ已ニ五日ヲ經過シタルニ付上告ノ權利ハ之レナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

○判文〔煙草犯則ノ件〕明治十六年九月廿一日上告
年十月十二日判決

高知縣土佐國土佐郡菜園場

町平民櫻木辰次雇人同縣平

民

安岡 龜之助

明治十六年五月十八年

明治十六年五月三日高知輕罪裁判所ニ於テ右安岡龜之助カ鑑札ヲ受ケテ煙草小賣ヲ爲シタル被告事件ヲ審判シ煙草稅則第三則第三條ニ依リ罰金二十五圓ヲ科スヘキ處年齢十六歲以上二十歲未滿ニ付刑法第八十一條ニ照シ一等ヲ減シ罰金十八圓七十五錢ニ處スト言渡シタル裁判確定ノ後ニ至リ大審院檢事長渡邊驥ハ司法卿ノ命ニ因リ非常上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人カ雇主櫻木辰次ハ明治十五年十一月中煙草營業免許ヲ受ケ小賣鑑札ヲ所持スルヲ明了ナレハ其雇人ナル被告人ニ對シ鑑札ヲ受ケテ煙草小賣ヲ爲シタルノ罰ヲ科スヘキモノニ非ス故ニ原裁判ハ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル者ナルニ因リ破毀シテ相當ノ裁判アラントテ請求スト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルノ如シ

營業上ニ關スル諸規則違犯ノ罰ハ總テ之ヲ其營業人ニ科スヘキモノニシテ營業人ノ指揮ヲ受ケタル雇人等ニ於テ其責ニ任スヘキモノニ非ス本件被告人ノ如キハ雇主ノ命ニ因リ煙草小賣ヲ爲シタル者ナレハ假令雇主カ鑑札ヲ受ケサルモ其雇人タル被告人ニ於テ規則違犯ノ罪アリトシ處斷セラレヘキ理由ナシ且雇主櫻木辰次ハ曩キニ小賣營業鑑札ヲ受ケタル者ナルニ原裁判所カ被告人ニ對シ煙草稅則第三則第三條ニ依リ罰金ヲ言渡シタルハ違法ノ裁判ニシテ上告ノ旨趣正當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十五條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告人安岡龜之助ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スモノナリ

第千四百三十號

○判文〔私印私書偽造ノ件〕明治十六年九月十八日上告
年十月十二日判決

三六二

秋田縣羽後國南秋田郡新大
工町平民

佐々木惣吉

右佐々木惣吉ハ偽造私印詐爲文書ノ被告事件ニ付明治十五年二月六日秋田輕罪裁判所ニ於テ刑法第三條第二項ニ依リ舊法ニ從ヒ一ノ重キ偽造私印者ヲ以テ論シ重禁錮三月十日ニ處シタル裁判ニ對シ上告ヲ爲シ明治十五年十二月十二日大審院ニ於テ原裁判所ヲ新舊法ヲ比照シ舊法ニ從ヒタルハ相當ナリト雖モ重禁錮三月十日ト申渡シタルハ不當ナリトシ懲役百日ニ處スルトノ裁判言渡ヲ受ケタリ

佐々木惣吉ハ右ノ裁判言渡ニ對シ再審ノ訴ヲ爲シ該被告事件ニ付テハ明治十三年九月十五日福島裁判所山形支廳ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケ裁判確定シタルニ豈圖ランヤ明治十四年四月中更ニ弘前裁判所秋田支廳ノ審問スル處トナリ本訴ハ業既ニ裁判確定ニ至リタル旨申立ダレトモ被告人カ言ノ不分明ナルニ由ル歟裁判官ハ之ヲ採用セラレヌ又大審院ニ上告ノ際モ誤テ趣意書ニ裁判確定セシ事由ヲ脱遺シタルカ爲メ途ニ前記ノ如ク同一ノ事件ニ付キ再ヒ裁判ヲ受クルニ至レリ仍テ再審ノ訴ヲ爲ストノ旨趣ヲ陳述シ福島裁判所山形支廳ノ裁判申渡書寫ヲ差出セリ

大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書檢事長渡邊驥ノ意見書ニ依リ之ヲ判決スルコト左ノ如

再審願訴ノ資料トシテ差出シタル福島裁判所山形支廳ノ裁判申渡書寫ヲ閱スルニ佐々木惣吉カ該被告事件ニ付テハ明治十三年九月十五日同支廳ニ於テ無罪ノ申渡ヲ爲シ裁判確定ニ至リタルコト明瞭ナリ然ハ則チ該事件ニ對シテハ再ヒ裁判ヲ爲スヘキ者ニ非サルニ前記ノ如ク裁判言渡ヲ爲シタルハ佐々木惣吉カ陳述スル如ク訴訟書類ニ錯誤アルニ因リタルモノト認メサルヲ得サル者ニシテ即チ治罪法第四百三十九條第五ノ場合ニ適當スル再審ノ理由アル者ト判定ス

第千四百三十一號

○判文〔賄賂收受ノ件〕明治十五年十二月廿八日上告
十六年十月十二日申渡

茨城縣常陸國河内郡源清田

村居住平民醫業

淺野元齋

明治十五年十月
三十九歲三ヶ月

同縣同國同郡同村居住平民

農業

荒井新作

三六三

三六四
明治十五年十月
三十七歲
同縣同國同郡同村居住平民
農業

諸岡喜兵衛

明治十五年十月
六十三歲六ヶ月

賄賂ヲ授受シテ戸長公選ノ投票ヲ爲シタル被告事件ニ付明治十五年十月二日土浦輕罪裁判所ニ於テ右被告淺野元齋荒井新作ハ諸岡喜兵衛ニ金五十圓預リ証書ヲ與ヘ吉原清作ヲ戸長ニ選舉ノ投票ヲ爲シシメ喜兵衛ハ之ニ應シタル犯罪ナリト認定シ刑法第二百三十四條ニ依リ各輕禁錮三月罰金十圓ニ處斷セリ

被告淺野元齋荒井新作諸岡喜兵衛ニ於テ之ヲ不當ノ裁判ナリトシ上告ヲ爲シタル趣旨ハ本件被告事件ノ證據徴憑ト爲シタル者ハ金五十圓ノ預リ証書ト諸岡喜兵衛カ調書トニ外ナラズ然レモ該證書ノ成立タルヤ本村元組新組分離請願ノ際其入費多分新組ヨリ支辨シ這般學校新築ノ學アルニ際シ其寄附金ノ事ニ付異議ヲ生シ約リ分離請願ノ入費ヲ一旦元組ヨリ新組ニ辨償シ之ヲ以テ更ニ學校新築ノ入費ニ充テ平等ノ割賦ニ爲サントノ熟議ニ決シ其金額ハ元組有志ノ出金ヲ第二期ニ分チ徵集ス可キ約定ニ付其期限迄新組ノ議論鎮靜ノ爲メ元組ニテ資力ヲ有シタル淺野元齋荒井新作ヨリ金五十圓ノ預リ証書ヲ新組ニテ異議ヲ主唱セシ平川小吉外六名ニ宛差入タル者ニシテ決シテ戸長公選ノ投票ニ關係アル者ニアラス又喜兵衛カ調書ハ巡查佐野寅次カ本件ノ告訴人櫻井忠次郎宅ニ於テ喚問セシニ原因シタル者ナレ

ハ固ヨリ擅横ノ措置ニ成立タル者ニシテ證據ト爲ス可ラス且同時喜兵衛カ供述ニシテ平川小吉外數名ハ證據不充分トシ無罪ノ言渡ヲ受ケタルヲ以テ之ヲ見ルモ其口供ノ無効タル知ル可キナリ原來告訴人櫻井忠次郎ハ當時刑事ノ告訴ヲ受ケタル舊戸長大塚良平カ不正ノ所爲ニ關シタル者ニシテ若シ戸長改選ニ遭ヘハ忽チ其事ノ暴露セシコトヲ恐レ第一投票九十三ノ高點ヲ占メタル吉原清作ヲ傷ケ第二投票三十餘點ノ少數ヲ得タル舊戸長ヲ勤續セシメントノ謀意ヨリ巡查ト合意シ擅ニ喜兵衛ヲ喚問セシメ且ツ告訴シタル者ナリ當選戸長吉原清作ト被告人等ノ間何等緣故アルニアラス何ナリ以テ故ラニ賄賂ヲ用井投票ヲ増減スルノ理アラザヤ況ヤ前顯票數懸隔ノ差アル現況ナルニ於テチヤ然ルニ原裁判ハ事實ノ理由ヲ明示セズ又ハ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ニ付破毀ヲ求ムト謂フニ在リ

又被告人ノ内淺野元齋ハ高橋一勝ヲ代言人ト定メ同人カ上告趣意擴張ノ論旨ハ巡查佐野寅次カ証言ハ原ト諸岡喜兵衛ヲ訊問シタル措置ノ職權外ニ涉リ其越權ニ成立タル者ナレハ證據ト爲ス可ラス又諸岡喜兵衛ノ供述ニ因リ犯罪ノ証憑ナキ被告人ニ刑ヲ言渡シ正當ノ理由アル預リ金証書ヲ賄賂ナリト認定シタルハ漫ニ推測ノ判定ニ出テタルトノ理由ヲ反覆痛論シ本旨ヲ敷衍スルニ在リ

對手人檢事補恒河修一郎ハ原裁判ハ本案預リ金証書ハ賄賂ノ爲メ成立タル者ト認定シテ相當ノ刑ヲ言渡シタル者ナレハ不法ノ廉ナキ旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ被告淺野元齋ノ代言人高橋一勝ノ辨論檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ茲ニ審理判決スルコト左ノ如シ

本案訴訟書類ヲ檢閲スルニ被告人等ノ罪證ト爲シタルハ諸岡喜兵衛カ明治十五年二月廿八日龍ヶ崎分署ニテ爲シタル供述及ヒ平川小吉外六名ニ宛預リ人淺野元齋證人荒井新作ト認メタル金五十圓ノ預リ證書是ナリ然ルニ裁判官ハ喜兵衛カ一口供中ニ於テ分斷取捨シ淺野元齋荒井新作ヨリ金五十圓ノ預リ證書ヲ賄賂ニ受ケ喜兵衛一名ノニ其依頼ニ應シ投票ヲ爲シタル者ト認メ淺野元齋外二名ニ對シ禁錮及ヒ罰金ヲ言渡シ平川小吉平川新次郎等ハ證憑不充分ト爲シ無罪ヲ言渡シタリ抑一人ノ調書中ニ付テ一分ハ之ヲ以テ充分ノ証ト爲シ一分ハ之ヲ以テ不充分ノ證ト看認ムル如キ場合ハ其所以ヲ分析シ又其理由ヲ明示セサル可カラス本案被告事件ノ如キ喜兵衛カ吉原清作ヲ投票致シ吳レ可ク旨示談ノ末新次郎俱ニ周旋シ云々多少入費モ掛リ居ルニ付該證書ノ内金十圓ヲ借用セリ云々ノ供述ハ平川小吉平川新次郎ニ對シ一モ之ヲ認視セス而テ淺野元齋外二名ニ對シテハ其口供中何等ノ點ニ付テ之ヲ認視シタルヤ其理由明瞭ナラサレハ本院ニ於テ其裁判ノ當否ヲ監査スルニ由ナキ者ト爲ス且預リ證書ノ性質甚タ不分明ニ屬シ單ニ之ヲ以テ證據ト爲スニ足ラサル者ノ如シ故ニ原裁判ハ治罪法第三百四條ニ背キタル不法ノ裁判ニシテ同法第四百十條第九項ニ定メタル上告ノ原由アル者ト判定ス依テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ千葉輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

○判文〔証券印稅犯則ノ件〕明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十月十三日發付
札幌縣石狩國札幌區南四條

東三丁目十二番地平民旅籠

屋渡世

川村 總右衛門

明治十五年十月

二十九年

東京府麴町區麴町五丁目當

時札幌縣石狩國札幌區南二

條西三丁目十七番地寄留平

民小間物渡世

木村 金之助

明治十五年十月

三十七年

証券印稅規則違犯事件ニ付明治十五年十月十九日札幌輕罪裁判所カ言渡シタル裁判ニ對シ檢事補安部直七郎ハ上告セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ判決スル左ノ如シ

本按總右衛門金之助カ被告事實ハ各金二圓以下ノ科料ニ該ルヘキモノニテ即チ刑法第九條ニ從ヒ違警罪ナリトス然レハ即チ明治十四年第四十四號布告ニ違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ云々當分ノ内便宜取計ヲヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サストアルニ因リ成リ立タサル上告ナリトス因テ棄却スル者也

第千四百三十三號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十六年九月廿二日上告
同 十六年十月十三日發付

三六八

兵庫縣播磨國揖東郡香山村

平民農業

香山 治郎 七

年齡不詳

印紙再貼用並ニ他人ノ不動産ヲ冒認シ及ヒ詐欺取財被告事件ニ付神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ重禁錮三月十日ニ處シ罰金七圓ヲ附加シ仍ホ監視六月ニ付スト言渡サレ權定後治郎七ハ再審ヲ訴ヘタリ其要領ハ當時裁判ヲ受クル際入監中ニテ證書ヲ探出シ證據ニ備ヘン爲メ暫時延期ヲ請求セシモ採用ナク今般家族ノ者證書ヲ發見シタリトテ送り越タルニ付之ヲ證據トシ自己ノ犯罪ニアラサルヲ明晰ナラシメシ爲メ再審ヲ願フト云フニアリ
原檢察官ハ治郎七カ再審ヲ訴フル證據書ヲ閱スルニ公正ノ證書ニアラサレハ治罪法第四百三十九條ニ掲ケタル原由ナク加フルニ結約者ニ於テ承諾シタルニアラス其印影モ亦相違シ全ク偽造證ト見ルヘキ廉アルヲ以テ即今起訴中ニ有之旁以テ再審ノ理由ナキモノト思料ストノ意見ヲ付シ大審院檢事長渡邊驥ハ原檢察官意見ノ如ク其結約者一同之ヲ承諾セサルノミナラス其印影モ相違シ偽造ニ係ルモノト思料スルトアリテ信ヲ措クニ足ラス假リコ之ヲ真正ノ證書トスルモ人民相互ノ結約ニテ公正ノ證ニアラサレハ治罪法第四百三十九條ニ適當セス因テ本訴ハ速ニ棄却アラントテ望ムトノ意見書ヲ送致セリ
茲ニ專任判事ノ報告ニ因リ刑事局全員會議ヲ開キ判決スル左ノ如シ

再審ヲ訴フル資料トスル其證書ヲ閱スルニ西川房吉外二名ヨリ治郎七ニ宛テタル人民相互ノ契約ニテ公正ノ證書ニアラサレハ治罪法第四百三十九條ニ適當セサルニ因リ再審ヲ訴フル理由ト爲ステ得ス

右ノ如クナルニ因リ本按訴狀ヲ棄却スル者也

第千四百三十四號

○判文〔誣告ノ件〕明治十五年十二月十三日上告

同 十六年十月十三日申渡

熊本縣肥後國天草郡上津浦

村平民農

本田 光彌

明治十五年八月
三十七年十二月

右本田光彌ハ誣告犯ノ被告事件ニ付明治十五年八月二十一日天草治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百五十五條及ヒ第二百二十條第二項ニ照シ重禁錮六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加スト言渡サレタル裁判ニ對シ上告セリ其要旨ハ會テ柴田傳次ヘ差入レタル金四圓ノ證書ヲ彼等ニ於テ金高百四圓五拾錢ト變換シ全ク百ノ字ト五拾錢ノ字ヲ挿入シタル者ト見認メタルニ依リ其次第ヲ告訴シタル事實ニシテ決メ誣告セシニ非ス然ルニ原裁判所ニ於テ充分事實ノ審理ヲ爲サス而シテ傳次等ト同腹ナル證人ノ陳述ヲ信用シ誣告罪ノ處斷アリシハ不當ナリト云ニ在リ本院檢事加納久宜ハ本案上告ニ對スル意見ヲ述ヘ且附帶上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ誣告罪ノ事實ヲ判定スルニ付テハ宜シク其思望ノ形跡ニ彰レタル模様

三六九

即チ行爲ノ如何ト人ヲシテ多少之ヲ信セシムルコ足ルノ價直チ有スルヤ否等ノ理由ヲ明示スヘキコト勿論ナルニ原裁判官ノ判明茲ニ出テ速了ニモ其誣告タルコト明瞭ナリト一言ヲ以テ輒シ刑ヲ適施シタルハ是事實ノ理由ヲ付セサル不法ノ斷案ナリト云ニ在リ依テ之ヲ審察スルニ被告ハカ上告ノ論旨ハ歸スル所決シ誣告ヲ爲シタルニ非ラサルニ誣告ノ判定ヲ下サレタルハ不服ナリト云ニ外ナラスシテ一モ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ適合スル者ナキニ付同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却ス然レトモ凡ソ誣告罪ハ人ヲ罪ニ陷害スルノ惡意アリテ無實ノ事ヲ捏造シ以テ官ニ陳告スルニ因リ成立スル者トス故ニ以上ノ條件具備セサルトキハ假令陳告スル所ニシテ其事實ヲ失スルアルモ未ダ直チニ誣告罪ヲ構成シタル者ト爲ラ得サルナリ今原裁判官言渡書ヲ見ルニ「其誣告ナルコト明瞭ナリトス」トアレトモ其誣告ト認メタル事實即チ被告ノ行爲ハ毫モ之ヲ舉示セサルニ付果シテ其適用シタル刑法第三百五十五條ノ支配スヘキ犯罪ヲ成立スルニ付必要ノ條件ヲ具備シタル者ナルヤ否ヲ監査スルニ由ナク乃チ治罪法第二百四條第一項ニ違背シタル不法ノ裁判ニシテ附帶上告ハ其理アル者トス依テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ被告事件ヲ福岡輕罪裁判所久留米支廳ニ移シ更ニ審判セシムル者也

第千四百三十五號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十六年十一月廿日上告 年十月十三日發付

熊本縣山鹿郡中村平民

芋 生 幸 四 郎

明治十五年七月 六十六年

右芋生幸四郎長男

芋 生 左 平

明治十五年七月 二十八年

右幸四郎外一名カ竊盜被告事件ニ付明治十五年七月二十五日熊本輕罪裁判所ニ於テ被告等ハ犯罪ノ証憑充分ナラストシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ全裁判所檢事補森田廣矩ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告等カ犯罪ノ証憑充分ナルニ其証憑不充分トシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ被告幸四郎外一名ハ原裁判ハ事實適當ノ判定ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ玆ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本件上告ノ旨趣ハ原裁判ノ探證如何ヲ論難スト雖モ其證憑ノ取捨ニ至テハ素ヨリ承審官ノ職權内ニシテ他ヨリ之ヲ動カスコト得ヘカラサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ法リ該上告ハ棄却スル者也

第千四百三十六號

○判文〔私爲醫業ノ件〕明治十五年十二月七日上告 十六年十月十三日發付

茨城縣常陸國多賀郡河原子

村平民淺野佐仲方寄留同縣

同國西茨城郡鹽子村平民